建築と社會

新しい建築の傾向

3

第十七輯　第三號
昭和九年三月一日

日本建築協會



日米特許一二個・實用新案登錄四六個併用

大野式防火捲上ヶ戸

〔特許大野式シヤッター〕

主要製品

大野式シヤッター
大野式ルーブルシヤッター
大野式工場用軸承
大野式轉子入軸筐
大野式轉子入戸車
大野式廻轉軸抵抗測定機
各種防火扉

日英米佛特許三一個・實用新案五九個併用

特許不二サッシ

受托營業

合資會社 大野製作所

東京市芝區三田四國町二番地・電話三田(45)三七三七・四三七五八

東付出張員詰所・大阪市北花區上福島中二・電話福島(45)五八八

會　　告

住宅研究に關し座談會に協會員隨意參加希望の件

本協會住宅委員會に於て委員長武田博士の下に左記の通り座談會の形式で住宅に付いて研究致して居りますので協會員各位の隨意御參加を歡迎いたしますから奮つて御出席の上御適切なる御研究談を御洩し下さることを希望いたします

月　日　　毎月（本年度は 1. 2. 8. 12 月を除く）
第一水曜日（**3 月は 14 日**）

時　間　　午後正六時開會

會　場　　建 築 倶 樂 部

研究科目及各月豫定表

3 月	防　盜		7 月	防　熱（冷房）……簡易なるもの	
4 月	防　鼠		9 月	防　虫	
5 月	防　濕	防　腐	10月	防　寒	
6 月	防　臭	防　音	11月	防　火	

昭　和 9 年 3 月

日　本　建　築　協　會

社團法人 日本建築協會役員及委員（昭和九年）

役員

安郎光則　一郎藏助郎吾二尾吉治吉夫治治藏郎三夫彥郎郎知助郎男二吉武吉三良生郎男郎二夫郎尾吉夫郎治郎信雄一二吉三忠吾藏
一重顯重太福之一圭榮末鎗代善種榮代福太寬和宮太太芳之次孝一藤善俊一出三喜三榮種次三太榮一良毅厚鎗敬圭鐵
岡壯岡彥英誠喜彥甚宗英新喜日芳登勇豐末三與隆平誠井保野部田
野室部士林上澤部水木塚田藤名橋田上林川藤田崎東原本田口藤藤野西間口石井水名置木岡松橋澤藤澤井塚久野部田
片葛松岡富今井浦中渡清鈴平秋加新高秋井今石伊池岩伊大浦岡岡川落國加佐小佐阪白酒清新玉鈴高谷高高中鳥丹永藤平松牧渡矢

長長長事事記記記記計計計輯輯輯輯員
會會會副副監監主主主主主主主主編編編編評同同同

會　　告

本會から下揭の如き單行本を上梓してゐる。「市街地建築物法令」は三版、「續住宅圖案集」及「續學校建築圖集」は夫々前回刊行の際好評を受けたものゝ姉妹篇で孰れも充分の自信を以つてお薦めすることの出來る良著である。

（三版）市街地建築物法令

本書は昨年5月出版するや忽ち初版再版ともに賣切となつたもので其後多數の注文があるので三版を刊行したものである。

1. 大　さ　　菊半截　　330頁
1. 定　價　　50錢　　送料6錢

（新刊）續住宅圖案集

本書はさきに刊行して絶讃を受け忽ち三版を重ねたる「住宅圖案集」の姉妹篇である。收める所のものは

「阪和上之芝住宅」懸賞當選圖案

東豐中住宅懸賞當選圖案（婦人・子供室を主とせるもの）

「住宅平面圖及台所設計圖」（昨秋までの本會募集の諸懸賞當選圖案中より撰出）

以上でいづれも多數の應募圖案より 46 種を嚴選せるもので住宅設計上具體的の指針を提供したる好箇の標準圖案集である。

1. 大　さ　　四六倍版　　100頁
1. 定　價　　1.00圓　　送料10錢

（新刊）續學校建築圖集

各方面の盡力を得て最近二三年間に竣工した學校建築の資料を蒐めたところ、大・中・小・學校の代表的のもの 40 餘校に上つたのでこれらを纒めて編纂刊行することにした、發行は本月下旬の豫定である、前回發行したる本集は非常なる好評を得て三版を重ねたがその姉妹編である。

1. 大　さ　　四六倍版　　200頁
1. 定　價　　1.00圓　　送料14錢

昭和9年3月

社團法人　日本建築協會

建築と社會

第17輯第3號　昭和9年3月發行

新しい建築の傾向

目　　次

“空の都”の建設……葛野壯一郎（1）

都市構築と新建築……加藤善吉（5）

新建築樣式の完成と墮落……新名種夫（9）

新しい建築は空へと伸び行く……棚橋諒（17）

生活の墓標……本多正道（23）

木とファンタジー……村野藤吾（25）

惡莠恐其亂苗也……桐本楠雅（28）

歐米住宅建築界の新傾向……岡田孝男（29）

現場打「コンクリート」並にその骨材の試驗に就いて……張菅雄（77）

照明器具とグリル……吉田信武（55）

國際新建築……（69）

建築材料陳列場記……德政金吾（86）

會　　報……（91）

「空の都」の建設

葛野壯一郎

建築殊に大きな都市の建物として、其轉向の最も新らしい一方面としては何はさて置き「大空へ向つて」の問題ではないかと考へられる。

單に建物の外觀といつた點から言つても、私共は從來最も多くの場合、水平にのみ建物を觀る可く習慣づけられて居るが、現在では必ずしも水平線に沿つた觀方計りではない。日增に進歩する航空方面の發達につれて、建物を垂直に上から下瞰する場合が追々と增えて來て居る。

現在の建築家として私共は、斯うした場合を今日の様に全然考へなくて宜いものであらうか。私は決して左様ではないと信ずる。

× ×

先ず屋上庭園から考へて見る。

都市の建物の大部分が今とは異り、すべて美くしい屋上庭園に覆はれたと考へ、是れを大空中から見下した場合を想像すると、現在の様な灰色ばかりの憂鬱な屋根の集團を見て居るのに比べて、其れがどんなに美くしく愉快なものであるかが思はれる。

地上よりも屋上は、草花等の育ちが遙かに良いと言はれて居る。春や秋の好季節には、都市全體を一大花園化する事もさまで困難ではないであらう。

× ×

地上のみの連絡ではなく、屋上の連絡如何を考へる。

屋根から屋根即ち露臺から露臺へ、街から街へと適當な空中道——丁度街を隔てて地下道で或る建物同志が連絡されて居る様に——が設けられ、私共が自由に明るい空中道を散歩逍遙し得る様になつたとしたら、現在地上の公園の如きは最早問題にならぬかも知れない。

× ×

斯うした場合には、自然建物のプランや其利用方法も違つて來ざるを得ない。

嘗つて佛のコルビユーゼが言つた様に、主として屋上庭園に近い最上層が日常の居室として利用せられる。其上空中道の便利があれば、家の出入の如きも重に屋上庭園から爲る様になるかも知れない。

斯うなれば吾人は、わざわざ苦んで不便不經濟で時間つぶしの郊外等に住む必要は無く都市の眞中に居ながら自由な明朗な自然的文化生活と言つた様なものが、譯もなく營まる

るのでは無からうか。

× ×

架空交通機關が問題になる。

此場合現在の地下鐵が地下を走る様に、街路の空中をロープウエーで客車が走つて空送の便を爲す事に不思議はない。而して私共は何の不自由もなく架空道によつて、思ふ通りに市內を交通する事が出來る。地下鐵等でもぐらもちの様に土の下を潜行するよりも、此方が何れだけ明るく朗らかで氣持が良いか分らないではないか。

地上と架空道との連絡は、街の處々に昇降機さえ設けてあれば其れで何の不便もなく、隨時隨所の地上に降つて用が足せる譯である。

× ×

街路も自然大變化がある筈だ。

同じく佛のコルビユーゼの案にダブルストリート即ち二重街路の提唱が數年前にあつたと記憶するが、必ずしも街路は二重と限る必要は無い。三重或は四重と多く重なるだけ更らに結構である。

建物が5層6層と高くなればなるだけ、其れに應じて街路を幾層にでも造つて建物の利用範圍を一層擴大するのが利益であらう。

× ×

地下の利用が轉じて空中の利用となるのではないか。

今日の様に地下2層3層と、不便不經濟且つ不衞生な地下に、わざわざもぐり込む必要はもうそろそろなくなつて居るのではないかと私は考へる。

1階を倉庫街、2,3階を商店事務所街、4階以上を居住街として建物の高さをせいぜい5階建位に一定しては如何であらうか。上層に居住街を置くのは、衞生上滿點であるのみでなく近時やかましい地上の騷音雜音からも遠ざかり得るのである。

併し人間の身長に高低がある様に、建物にも當然高低がある可き筈だと言つた様な意見が出るならば、私は必ずしも其說に反對はしない。其れだからと言つて現狀の様な2階建の隣に7階建が並ぶと言つた風の無秩序無統制を認める譯ではない。

× ×

建物の高低は斯んな風に決めては如何であらうか。

即ち中心地帶から四方に向つて段々に低く或は場末から中央に向つて段々に高く、丁度ピラミツド型になる様な無理のない高さの相異を附ければ良いと考へる。

委しく言へば場末は1列に2階建として、漸次中心地帶に向つて進むに連れて階數を3、4、5、6層と增加し、最後に當る中心地帶の1點には、何か其都市のシンボルにでもなりさうな高塔でも造つては如何であらう。

是れは平時は展望用、非常時には軍事用として相當有效に役立つ物と考へる。

× ×

本當に都市の立體化が實現するのは此時期である。

斯うなれば都市に於ける建物は、最早今日の様な1戸々々獨立せる存在では無く、全體から觀た完全な1部分、或は部分から見る全體として、本當に有機的立體的組織の下に構築される。

建物の高さ、構造、様式、外觀が凡べて一定の範疇の下に取扱はれるのであるから、現在の様な此方面の面倒は一切なくなつて、眞に耐震、耐火且つ耐彈の都市が實現するのである。私共は安心して愉快に其處に働らき、其處に居住し近代人の生活に徹底する事が出來ると信ずる。

× ×

非常時に對する考慮が殘る。

私は前には「軍事用」と言ひ、今又前節には「耐彈」と言つた、即ち國家の非常時に於ける敵軍の空襲を受けた場合を想像したのである。

然し今私が想像する様な「架空都市」或は「空の都」と言つた風な都市が實現する様な時代——果して何時の事だか今日では一寸見當も附かないが——には、最早戰爭等と言ふ馬鹿々々しい事はなくなつて居るのが至當だと信ずる。左様になれば誠に結構であるが、今の情勢からすると直ちに左様と臆斷する譯には行かない。

× ×

私は夢を語つて居るのだらうか。

上來單なるアウトラインを記した私の言ふ「架空都市」即ち「空の都」は、今斯うして筆を採つて居る私一個の空想に過ぎない。然し其れは必ずしも空想に止まらず、何時かはきつと斯うした都市の現出す可き時代が來る可き筈であると私は信ずる。

× ×

空想は暫らく棚の上にあげて置いて現實について考へやう。

兎に角明日の都市、其建築としての新らしい轉向は平時と言はず、非常時といはず都市建築の計畫に當つて、今日よりは層一層、「大空」に向つての關心を持つ事にあるのは間違いのない問題と考へる。

× ×

都市計畫法や建築法規の如きも、今一應考へなほさなければならぬのではなからうか。

現在の法規では、「大空の問題」には何等關心を持たずに考へられて居るのであるから、第一其方面の大改正が要求せらるる筈である。都市建築の發達が向後如何なる方向に向ふ可きかの點をはつきりして、一應根本から考へ直さなければならぬのでは無いか。

× ×

多くの場合横にのみ考へられて居たのが、今すこし縦の方向にも考へなければならぬ時

代となつて來たのである。

耐震耐火は勿論結構ではあるが、今日では——殊に我國に於ける四圍の情勢を考へると——非常時に於ける防空問題に觸れずしては到底安心しては居られない筈である。

私共は常に水平的にのみ物を見て居る習慣上、其考へ方も兎角水平的に限られて居る弊がある。それではいけない。更らに垂直的な縦の考察に多大の努力を拂ふ可きである。

空襲の場合最も恐る可きは火災である。殊に吾國の様な木造都市にあつては其慘狀が想像に餘りあるのである。然も空襲に因る火災の場合には、現在の防火線や防火地區制の如き何の役にも立たぬのである。

僅々5臺か6臺の爆撃機が、ほんの暫らくの時間、都市の上空を飛んで廻る間に、100ケ所や150ケ所の火災を起す事は容易であると言ふに至つては驚ろかざるを得ないではないか。

× ×

單なる耐震構造だけでは心細い。

耐震に加へて耐彈の問題が同時に考へらる可きである。殊に爆彈の中でもガス彈の如きに至つては、最も始末の悪い難物であつて、單に屋根のスラブや外壁を丈夫にすると言ふだけではなく、窓出入口は勿論、階段室や昇降機塔其他の細部に渉る特種の考案が必要とせられて居る。

すは敵襲と言ふ場合、地下室にさへもぐり込めばそれで大丈夫と言つた様な簡單な事では、現在は最早すまない様な情況になつて居るのである。

× ×

ダブルストリート即ち2重街路の實現の如きは、さまで難かしい問題ではなからう。

せめて歩道の上だけでも2層構造となし得るならば、建物の1,2階の利用法に全然一新生面が開かれると考へる。

× ×

屋上露臺の新らしい取扱ひや、屋上庭園に對する新規な意匠も追々と實現せらる可きである。

地下に對して屋上が、現在あまりに閑却されて居る。

× ×

要するに今日以後の問題としては、都市の構築が大空に向つて、もつと組織的立體的に考察せらる可きであり、又今日の場合是非左様あらねばならぬ事を私は痛感する者である。

（了）

都市構築と新建築

加藤善吉

新建築！今日の建築は様式に構造に驚くべき發展變化である、而して新建築に關する論點は色々の方面があり或は様式に、或は構造に、或は用途の種類から又は都市構成の主體として見ることも出來る。

然しながら様式に關しては其の趨向を察することは中々困難な問題で曾て明治44年頃と記憶するが建築學會の催しで東京赤阪の三會堂で「將來の建築様式を如何にすべきか」に就て論議されたことがある。當時故辰野博士、曾禰、佐野（當時は學士）博士、岡田、松井其他の諸學士が大に熱辯を奮はれた、其の席上辰野博士が述べられた所は斯の如き問題は今日始めての問題でなく自分等の大學卒業當時既に問題にされたところである、が然しこの問題は何時も新しい問題として提供され、繰返されると云はれたが全くそうである。

自分の考へとしては現實に見る新建築様式の批判をなすことは大に意義あることであり又之れを論議することは後進に教ふる所大きいから大に歡迎するが將來の様式を論ずるが如きは愚の骨頂であると思ふ。

殊に現代の我國の新建築は眞實の意味に於ける獨創などは見られない、大部分は歐米の模倣である。從つて其の影響を受けて如何に變化するか分らない。

構造に於ても科學の進歩に依つて將來如何なる新材料の發見を見るかも圖りがたいが近き將來では大きい變化がないことは察するに難くない、又用途の種類に至つては產業の發達、生活の改善變化に基く種々の我が國にとつては新しい建築が要求されてくる、最近の發達になるものでダンスホールの建築、アパートメントハウスの如きそれである。

× ×

かくの如く種々の方面から新建築を見ることが出來るのであるが就中目下の急務として考慮すべきことは都市構築上に於ける新建築即ち今後都市に建てらるるべき建築物の問題であると思ふ。

都市の建築に望むところのものは耐火耐震構造にして且つ防空的たることが先づ第一の必要條件である、之れと同時に建築物そのものの美的價値百パーセントであることは勿論必要であるが更に進んで之れが統制ある集團美の價値を求めざるを得ない、もとよりその美的價値は必づしも美術的たるを要せず眞實物の表現として均整平衡であり、而して有用なものの裝あれば足る。

建築は環境との調和均衡を保つて始めて其の眞價を發揮することは今更述べるまでもな

く歴史の教ふるところであるが、從來この大切な條件を實際に取扱はれて居るものは特殊の建築即ち美術館、公會堂、公衙と云つた様なものに止つて都市建築の多數を占め一般市民の最も目に觸れ日常生活と密接な關係を有つ商業的建築物に對して環境の調和均衡風致の如何に關しては比較的閑却され勝であり一般市民も亦冷眼視つゝあるの感がある。

更に考慮すべきことは建築物の配置の問題であるが凡そ建築物はその用途種類に依り各在るべき位置を持つて居る、市廳舍は市廳舍として、工場は工場としてみなそれぞれの位置があるべき筈である、また防空上の見地よりする建築物の配置等も研究されて居る。

風致と云ふ點に至つても甚だしく閑却されてゐる、一體に我國の都市に於ては水について深き理解をもたぬやうである、折角ある水邊の惠澤は惡用され勝ちである、この點に關しては歐米の市民は甚だしく水を愛し廣場には噴水池を設けるなど街衢の建築にも之れを應用してゐるやうである、東京日比谷の帝國ホテルの前庭に池水を取り入れた如きはライト氏で始めてやれた仕事で我が國の建築家ではやれない藝當である。

いづれの都市に於ても都市構築の主調をなすものは建築であり建築はその時代の精神を表徵し從つて都市の建築は市民の精神を表現する。この點に於て都市の建築に對する市民の關心は甚しく重要性を持つこととなる。

× ×

都市の建築の不統制は畢竟するに市民の不統制を意味する、將來の都市建築は大きな全體として取扱ふ必要を痛感する、「統一」は美的價値の根本であり本質的のものである、如何に一個の建築がよいとするも集團的に統一を欠き環境に調和せざるものは建築藝術への冒瀆である、都市を構成する建築、街路、橋梁、公園その他凡ゆるものは調和均衡の狀態に置かれて始めて價値を見出し得るのである。

又都市の建築は潑溂たる氣分を表現することが必要である、吾々の日常生活に於ても常に潑溂たる精神を有たなければ進歩發展は望まれない、人間が健全にして生氣ある精神と健康な身體を必要とすると同樣に都市も健全にして堅牢な建築を要望する、吾々が一つの住宅に入つて其の內面より其の人の生活內容を觀察し得る如く都市に一度び足を踏入れば其の都市の內容が窺知されるものである。

橡內氏の著書に紐育の市民は建築物の高さは產業的意氣の表徵であり、其のスカイラインの高低は產業に對する努力と希望の行進曲を刻む音のやうなものだと云ふて居ると書いてあつた、事實建築は都市の盛衰榮枯を如實に物語るものである。

大阪が商工都市として我國產業經濟の中心をなし人口も 250 萬、面積は 5600 餘萬坪を有つ大都市であるが近代都市構築上から見れば幾多改善を要する點がある、殊に街頭の美觀風致を改善し其の整理統制を圖ることは最も緊要な事柄である。

× ×

今や大阪に於ける都市構築改善としての街路事業も大正 8 年大阪市長の告示した市區改

年から都市計畫事業として巨費を投じ眞劍な努力を續けて新設擴築しつゝある街路事業も着々として進捗し主要重大幹線である廣路御堂筋線も殆ど完成し更に都市計畫事業中難關とされてある大阪驛附近の改造整理事業も漸く其の緒についた、かくして漸次大阪は面目更新の機運に進みつゝある。

大阪驛附近の改造は大大阪第一の重要性を有つところであるから其の計畫は理想的に其の事業は將來に悔を殘さない樣萬全を期したい。

かく改造の過程にある街路に面する新建築は前述の意味に於てこの機を逸せず周到な用意と十分の努力を以て環境に留意し統制ある建築をして集團美の發揚に努め都市建築の向上進歩を圖ることは建築家として將又市民として正につとむべき義務である。

殊に大阪驛前は前述したやうに外來者に第一印象を與へる最も重要な意義を有ち大大阪の產業的意氣を示すべき場所であり、其の建築は大阪商都を表徵するものと云へるからこゝに建てらるべき建築は時代に適合し大阪商都に適はしきものたるに特に注意を拂いたい

由來我國の建築家の多くは建築それ自體の研究にのみ沒頭し他を顧みないものが少くない、自分の意匠に成る建築がさも自分の獨創であるかの如く主張し環境の美觀風致を害し都市の集團美を破壞するも一向頓着ないものさへある如く見えるのは甚だ遺憾である。

勿論都市の美觀を害し環境の風致の破壞するか否かは凡ての建築が完成されて始めて論ぜらるべきものである。

× ×

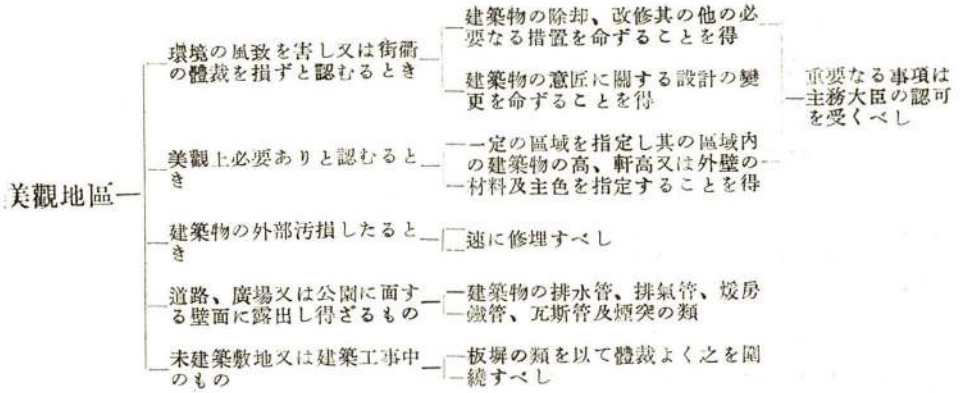
更に又都市建築として最も留意すべきは建築の適當な敷地を得ることである、故に街路の新設擴築後に於ける建築に對しては切取後の不整形な敷地狹小な敷地などの場合は建築主又は土地所有者を說き其の建築に適當な土地を得せしめることに努力を欲する。

適當な建築敷地造成に就ては街路擴築の都市計畫事業と同時に超過收用して之れを行ふのが最も合理的であるが現在の事業はそれまでやつて居らないのは遺憾であるが財政の都合上止むを得ないであらう。

マンチエスター大學教授ジヨセフ、アンウイン氏は「法律とか制度とか云ふものは文化の根でなく花である」と云ふてゐる。が然し實際都市建築の向上を圖るには其の根となるべきものは市民の自覺である、市民の心からなる理解と關心とを基調として始めて完成を見ることが出來るのである。

所が今日の場合は未だ其の自覺が足らないので取締の必要を認めることは甚だ遺憾であるが致方ない。即ち市街地建築物法は都市建築の統制に當つて居る譯である、其の中に美觀地區の規定があるが大阪に於ても之れが指定を見んとして居る、これに依つて建築物の構造、設備又は敷地に關する統制をなして都市整備明粧の實を擧げ得る譯である。

東京に於ては 昭和8年3月31日美觀地區が指定されてゐるが其の區域は帝都の中心である皇城の外廓の地一體で其の面積は道路を含んで約 90 萬坪である。其の取締の制限としては之れを略記すれば次の通りである。



之れと關聯して都市建築上重要な制限に防火地區規定がある、大阪に於ては大正 12 年 10 月 1 日から施行されて居つて其の面積が甲乙合せて約 20 萬坪である。又風致の取締として風致地區の指定であるが大阪に於ては昭和 8 年 8 月 30 日から施行されてある、其の面積約 600 萬坪である。

美觀地區の取締に關しては其の意匠に就ては色々の意見があらうと思はれるので或は審査決定機關を設くるの必要が起るかも知れない、現在獨逸で行はれて居る藝術的檢閲に就て書いてあることを記して見れば即ち藝術を官吏が檢査することは重大な危險がある、官吏の趣味は低級な藝術家の趣味よりはよいであらうが優秀な藝術家のそれには及ばない、何れの場合に於ても標準を定めることは獨創を抑壓するものである、それで獨逸の官吏はその危險を除くために大に勉め其の檢閲に當つては建築家に代つて設計をなし或は優秀な點を取入れるが如きことをなさず只不適當な或は無用なものを除くと云ふが如き方針で進んで居る。

之れを要するに現代の都市構築統制に於ける新建築に就ては一面に於て市民の理解と一面に於ては前述の規定に依つて取締を行ひ漸次都市の美觀明粧の實を擧げ健全な都市の達發を望んで止まない。

執筆者紹介

（五十音順）

岡田孝男	京大建築學科卒業、三越住宅部技師
加藤善吉	都市計畫大阪地方委員會勤務
葛野壯一郎	東大建築學科卒業、本會副會長、葛野建築事務所
桐本楠雅	東大建築學科卒業、大阪市建築課勤務
新名種夫	京大建築學科卒業、大阪市技師、新大阪ホテル建設事務所勤務
棚橋諒	京大建築學科卒業、京都帝大助教授、京大建築學教室
張替雄	東大建築學科卒業、遞信技師、遞信省營繕課勤務
德政金吾	本會建築材料陳列場幹事長、德政工務店
本多正道	京大建築學科卒業、大阪市技師、大阪市建築課
村野藤吾	早大建築學科卒業、村野建築事務所
吉田信武	京大建築學科卒業、京都帝大大學院

新建築様式の完成と墮落

——最近の新建築に現はれたる傾向——

新名種夫

最近の我國に簇生しつつある所謂「日本趣味を基調とする」諸建築、例へば京都美術館、軍人會館、帝室博物館等々を問題にしやうとするのではない。これ等のものの出現は、現代我國に於ける或思想的背景を以て發生したる1時的變態的現象に過ぎないもので、建築の世界的動向には大した役割を演ずるものではない。

この小篇の對象として述べたいことは、20世紀に入つて以來30年、一つの方向に向つて健全なる發達を遂げて來た近代建築が、樣式的には現在既に墮落の傾向を取り始めたと言ふことである。

セセツシヨン運動以來幾多の變遷はあつたが、最近には兎まれ建築史的に世界を通じて或一つの方向に進んで來た現代建築が、今日に於てはその方向に於ける發展の究極に達し、恰もあの眞摯なルネツサンス運動がその頂點に達したと思はれた時、既にロココ、バロツクへの傾向を萠し始めて居た如く、過去の全ての歷史が幾度も幾度も繰返して來た如く——既にデケイダンスの傾向を見せつつあると言ふことを述べて見度いと思ふ。

×

セセツシヨン以來今日までの30餘年は、世界の新建築界にとつてまことに目まぐるしくも忙しい時代であつた。

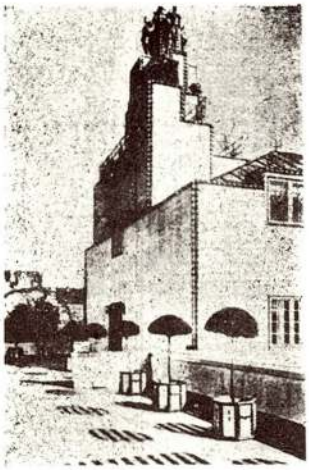
セセツシヨンに次いで表現主義、構成主義、構造主義から機能主義へと相繼いで、實際應接に暇もない有樣であつた。

大戰前、始祖オツトー・ワガナーに依つて幕を切つて落された新建築運動は、その弟子オルブリツヒ、ホフマンを經てペーター・ベーレンスに至つたが、大戰後にはペルチツヒ、メンデルゾーン等を中心として、その大なる影響をロシヤや日本の建築界にまで及ぼした表現主義、構成主義運動の消長あり、次いでライト、クラーク、アウト等の系統を引く機能主義の發生から、グロピウス、コルビシエを經て今日に及んで居る。

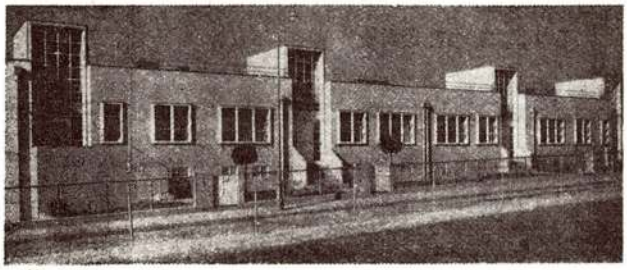
ロココ、バロツク引いてはアール・ヌーボーへの反動として起つたセセツシヨンの建築。

大戰に依る過度なる精神感動の影響として現はれた表現主義、構成主義の建築。

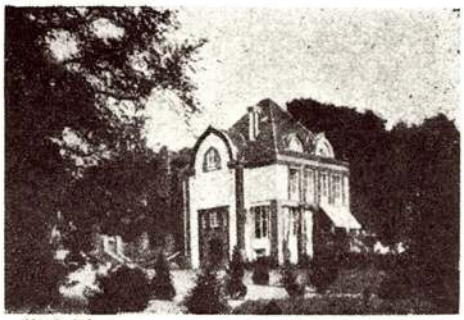
更に戰後の經濟的困窮とその回復への努力とを基礎として生れた經濟主義、機能主義の建築。



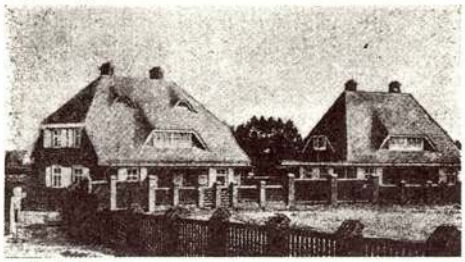
第 1 圖



第 2 圖



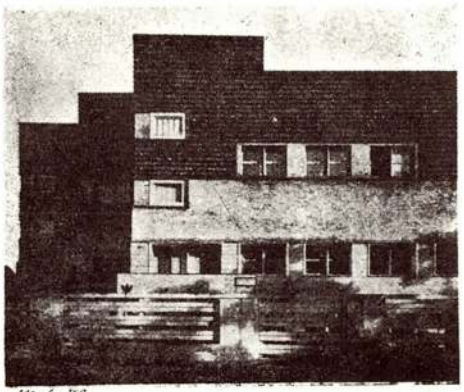
第 3 圖



第 4 圖



第 5 圖



第 6 圖



第 7 圖

20世紀に入つてから今日まで、世界大戰を含むこの 30 餘年は、思想、經濟其他文化の各分野ともに古き數世紀が經體した以上の變化を經驗したと言はれる。そうした背景の下に建築界の受けた影響の現はれが、この目まぐるしくも忙しい近代建築界の變遷であつた。

×

20 世紀以來の建築界のこの移り變りは、世界の建築史的動向であつたのは勿論であるが、各時代に夫々その時代の花形として活動した代表的建築家達も、この世界的動向の影響を受け、個人的に夫々の變遷を經て、何れも現在世界の建築界が辿り着き且進みつつある同じ道を歩んで居ると言ふことは面白い事實である。

これ等各時代各派の人々の過去の作品と現在の作品とを比較することは、30 年の短期間に於ける建築變遷の目まぐるしさを實感せしめる上に効果多からむと思はれる故に、次に 2, 3 の例を引いて見やう。比較を明瞭にする爲に主として住宅を

中心として對照を試みる。

先づ 1932 年竣工のウインのジードルンクに於けるホフマン教授設計の共同住宅（第2圖）を見るに、その何處に彼のストクレツト邸（第1圖）に見るセセツシヨン華かなりし頃の彼の俤があるか。

更に 1901 年竣工のペーター•ベーレンスの邸宅（第3圖）と現在の彼の住宅とを比較して見るがいい、兩者の樣式的距りは 30 年の尺度を以て計るには餘りにも大きい距りではないか。

ハンス•ペルチツヒのボーゼンの職工住宅(第4圖)と彼のシユツワツトガルトに於ける作品住宅(第5圖)とを比較して見るがいい。又 1922 年にエリツヒ•メンデルゾーン設計する所の住宅（第6圖）とベルリンの彼の近作住宅（第7圖）とを對照するがいい。

筆者は元表現派のこれ等の人々の舊作品と最近作品との比較に於ても、他との釣合上、引例を同じく住宅に取つたのであるが、若し夫れボーゼンの住宅に代ふるにベルリンの大劇場を以てし、メンデルゾーンの住宅の代りにアインシユタイン塔を拉し來らんか、新舊の對比は一層効果的であり得る筈である。

1927年のシユツツトガルトの住宅博覽會は、セセツション以來各時代各派の人達が、夫々の過去を清算して同じ場所に、何の自己欺瞞もなく同じ思想の住宅を作つたと言ふ點に於て、建築史的に非常に興味深い催であつた。

筆者は 1927 年程最近建築界に取つて記念すべき年はなかつた樣に思ふ。

ワルター•グロピウスが有名なる「3個の同心圓」の比喩を以て建築の國際性を說いたのも 1927 年であつた。

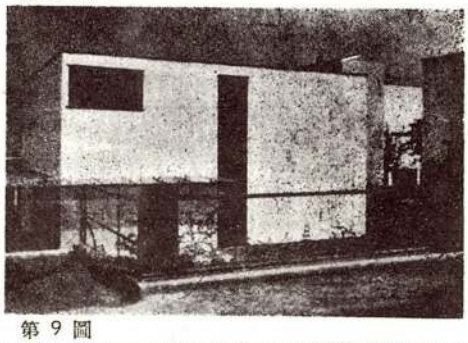
同じ理想を揭げて日本インターナショナル建築會が生れたのも同じ 1927 年の夏であつた。

更に國際住宅會議が初めて開催されたのも亦 1927 年でなかつたであらうか。

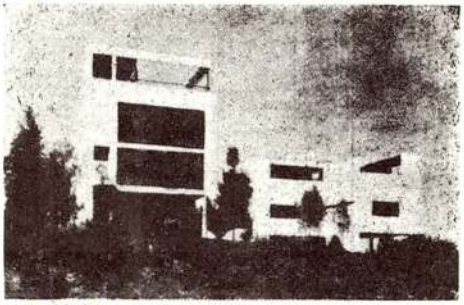
筆者は 20 世紀以來幾多の變遷を經、矛盾と不純とを清算しつゝ健全な方向に發達して來た新建築の傾向が、1927 年を以てこの方向に於ける完成の第一步を印



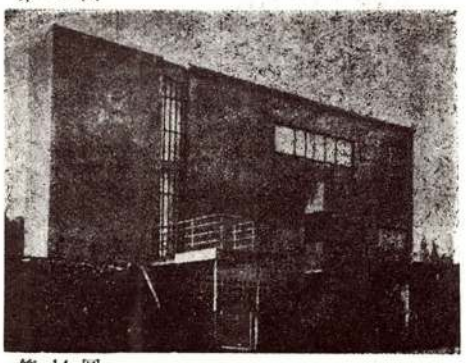
第 8 圖



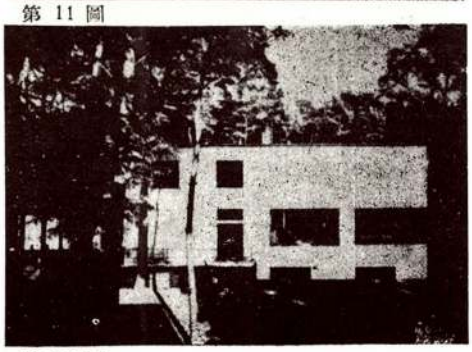
第 9 圖



第 10 圖



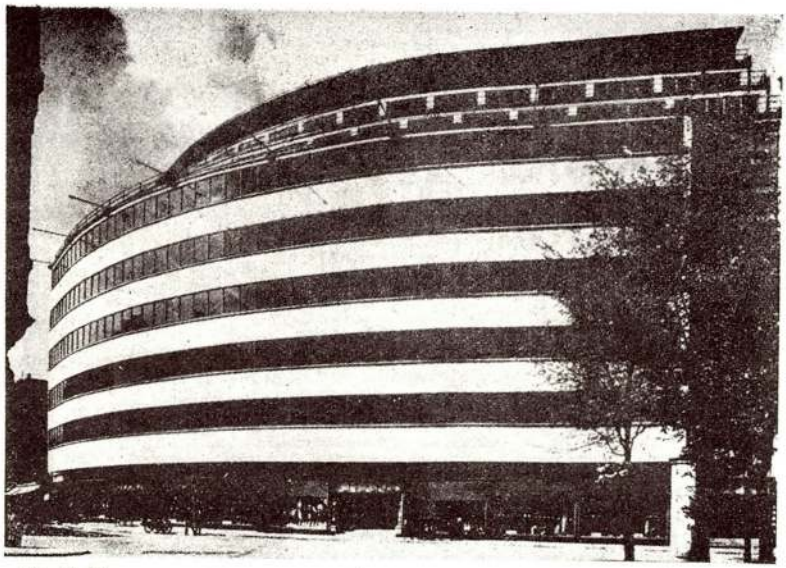
第 11 圖



第 12 圖



第 13 圖



第 14 圖



第 15 圖



第 16 圖

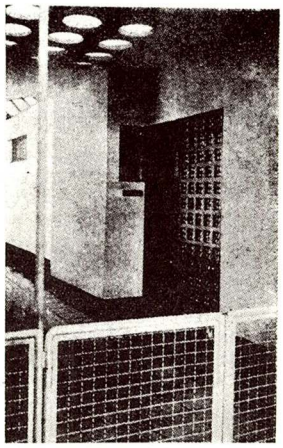
したのではないかと思つて居る。その年に開かれたシユツツトガルトの住宅博が偶然にもその具體化を我等の前に提示したのではないかと。

筆者はペーター•ベーレンスやハンス•ベルチツヒ設計の住宅が、グロピウスやコルビシエの住宅と同じ場所に同じ思想的水準を以て建てられたるを外誌を通じて見た時、筆者の感じた爽快感を未だに忘れることが出來ない。(第5圖、第8圖、第9圖、第10圖)

×

話をもとへ歸さう。

20 世紀以後 30 年の建築史はグロピウスやコルビシエの機能主義に依つて、この發展方向に於ける究極への第1歩を踏み出した。 1927 年は正にその時であつた。



第 17 圖

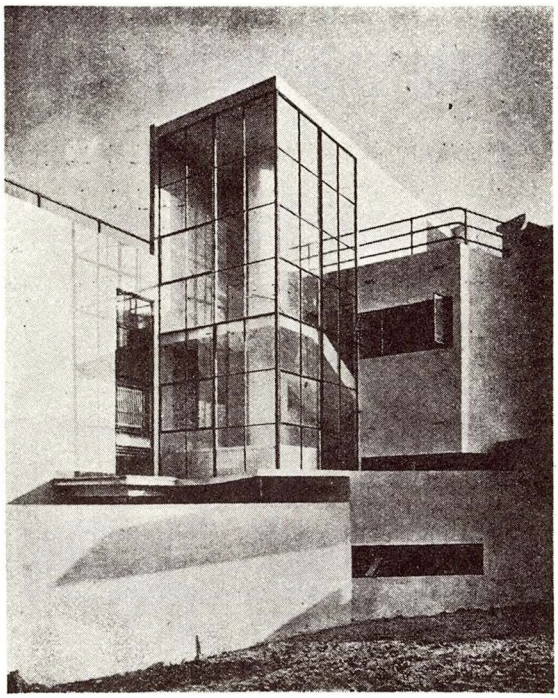
爾來數年、最近外國に於て我茶室建築の研究が盛である事實が示す如く、機能主義が唯物的より精神的に深まることに依つて、この方向に於ける完成へと向ひつつある樣に思はれる。

飜つて我建築界も、分離派の運動以後 10 餘年、變遷の急激なることは應接に暇もない程であつたが、1927 年頃には兎も角も新建築の世界的水準にまで到達することは出來た。

だが、辨證法を引合に出すまでもなく、一つの文化の完成期は同時にその文化の崩壞の初期を意味することは歷史の明示する所である。

建築界に於ても同樣、近くはあのルネツサンス建築の完成期に於て既にロココ、バロツクの萠芽を見出し得たではないか。

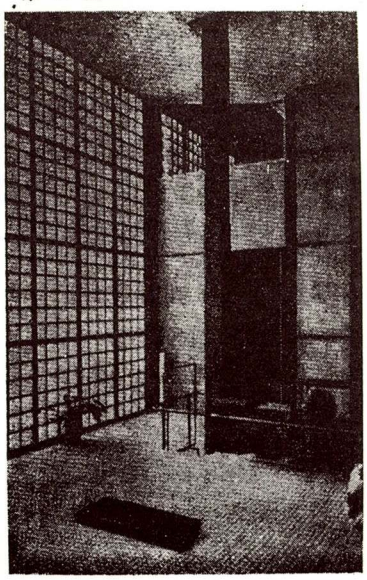
同じ意味を以て、現代建築も亦 30 餘年の惱みの後、1927 年を一エポツクとして、唯物的機能主義より精神的のそれへと、より深き完成への道を步みつつありとは言へ、一方に於て墮落への萠芽をその中に孕みつつあることを筆者は感するのである。



第 18 圖

筆者は文藝の圓熟したる作品よりも處女作を愛すると同じ氣持を以て、又繪畫、彫刻等の完全なる作品よりも未完成の作品により强き魅力を感するのと同じ理由を以て、シユツツトガルト前後の建築を懷しみ、以來 6 年を經たる最近の建築に或飽和以上のものを、謙遜を欠げるものを、貪婪とか執拗とかの意味の中に含まれるものを印象附けられるのである。

第 19 圖

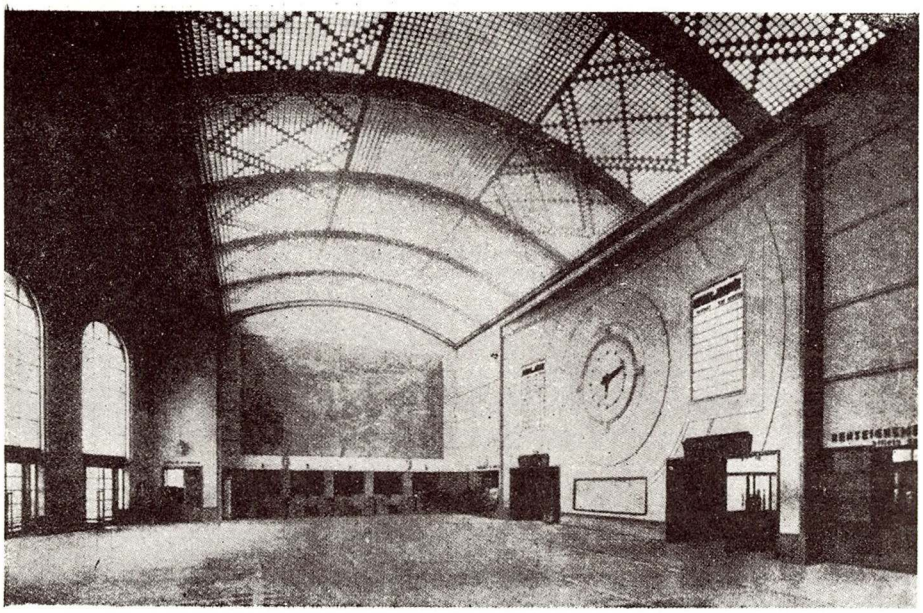


これは最近の新建築がデイケイダンスの道を辿りつつある證據ではないであらうか。

大急ぎの執筆で適切な例の收拾を欠くが、2、3の例を擧げやう。

1923年表現派的手法を以てベルリン日日新聞社（第13圖）を改造したるメンデルゾーンは、ショツケン百貨店（第14圖）の簡明にして力强き建築に於て完全にその表現派的傾向を脫し、新建築の健全なる傾向に合致し得たのであるが、1933 年のコロンブスハウス（第 15 圖、第 16 圖）に於て幾分の虛弱と趣味と退屈とを感するのは筆者の神經過敏からであらうか。

次に第17圖、第18圖、第19 圖、等を見るがいい。充分に洗練さ



第 20 圖

れた新建築様式の中に、いささかとは言へ過貪と遊戯との不健康を感するものがあるではないか。

第20圖や第21圖は明にプリズム・グラスやモザイツク・タイルの過度使用である。簡明素朴を基調とする現代建築にそぐはない粗雑さを、「これでもか」と言ふものを、少くとも「これでは何うだい」と言ふ程度のものをそこに認めるのである。

×

硝子、白色合金、ベニヤ板、それに新しい照明技術の適正なる應用は、次代の建築様式を司配する大きな要素となるであらう。

第 21 圖



だが、現在建築家のこれ等のものに對する理解と應用技術の程度を以て、不消化の儘にこれ等を過用する所に最近建築に現はれた様式的混亂の原因があると思ふ。

とは言へ、抑もの原因は、個々の建築家達の遊戯的傾向よりも、やはり先づ現在の生産關係に歸しなければなるまい。製造工業の急激なる發達に依つて、建築材料が最近その量と種類とを非常に增加したと言ふ點に歸すべきであらうと思ふ。

先づ硝子工業を見やう。

普通板硝子は勿論、線入網入等の硝子からダイヤ結霜等をはじめ各種の模様入硝子、型硝子、スキガケ硝子(ベラ硝子)、扨は不透明な乳白色硝子やビトロライト、ステンド・グラス用各種硝子等、種類の增加と生産量の膨脹は勿論、板硝子の彎曲や、腐蝕、サンド・ブラスト等に依る意匠的加工の可能性の擴大、

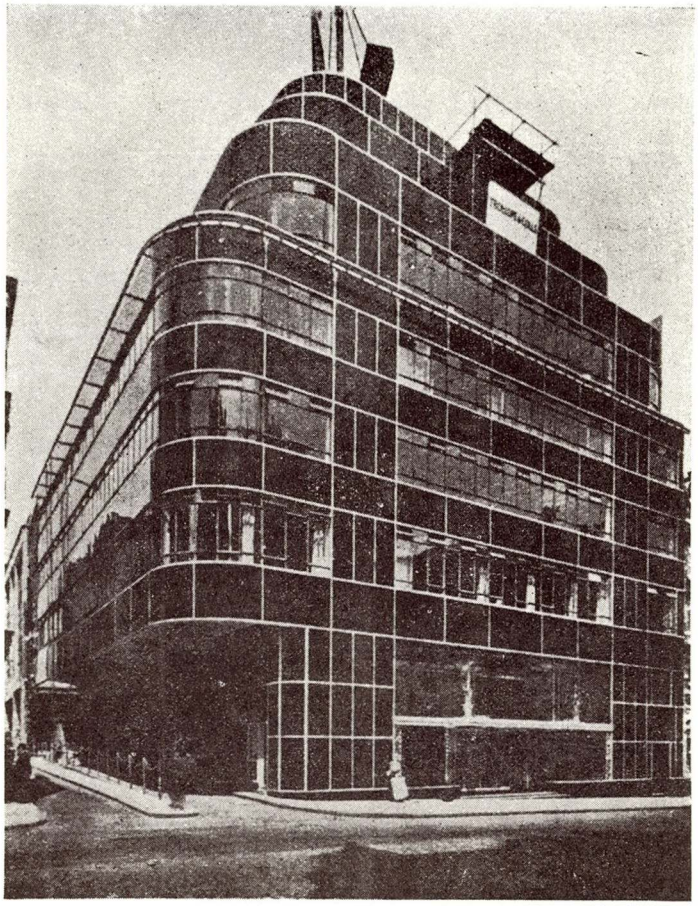
硝子カツチングの機械化等、硝子工業の發達は實に目覺しくも華々しいものがある。

金屬方面に於ても各種含ニツケル合金の製造は既に大量生產の時代に入りつつあり、器具、工藝品等よりも建築材料として盛に建築家に呼びかけつつある。

更にベニヤ工業に於てはカツチング・マシンの進歩と耐水性膠の質改良とによつて、これ亦生產量に於ても意匠の應用範圍に於ても急激に增大の傾向を示しつつある有樣である。

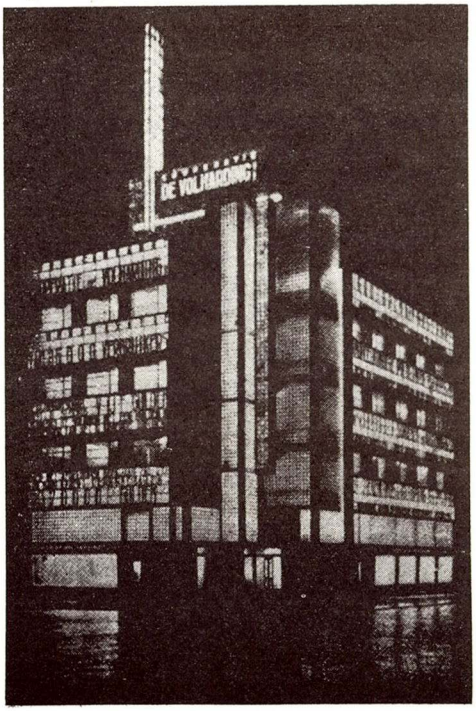
これ等多數の新建築材料は何れもその特有の魅力を以て建築家達の「すき」心をいやが上に刺激するではないか。

ブルノー・タウトが桂離宮拜觀の際その作者遠州を賞讃して言つた言葉、「私の感服するのは、工費に對して制限を加へずと言ふ彼の希望が容れられたに關らず、かの桂離宮の建築が、何等無用の贅を盡し美の爲の美を追ふた痕のないことである。ただ住宅として茶室として、十二分に利用され得る樣隅々まで研究し盡された結果成つた構成、設備が、その儘にたくまずしてあの風雅の趣致を構成して居ることで

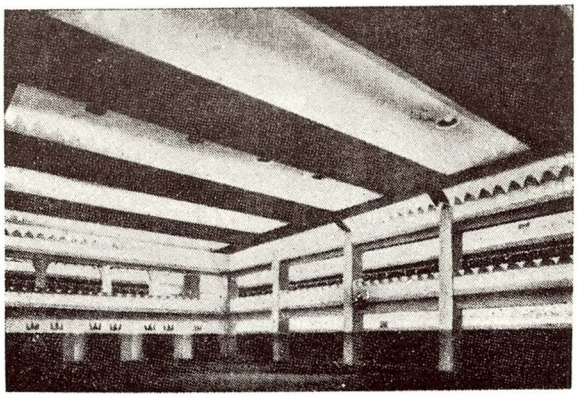


第 22 圖

第 23 圖



第 24 圖



ある」（住宅、上野伊三郎氏に依る）――タウトが遠州から學んだこの建築設計に對する基礎的態度を、新しい建築材料の魅力の前に、建築設計者達が忘却する所に現代建築の様式的轉落が生するのである。

無數の建築材料の中から、新舊を問はず最も合理的經濟的なものをピツク・アツプし、それを自己の設計に於て消化するのが建築家の最大の務であるのに、初物の魅力に不節制な食欲を感する所に現代建築の消化不良の原因はあるのである。

つまり 19 世紀の末葉、ルネツサンスの爛熟期に手法の上で起つたデイケイダンスが、現在新建築に於ては材料使用の上に行はれつつある次第である。

或は又、新材料の發見産出の速度が、それを使用する建築家の技術的向上の速さよりも早い所に生するギヤツプの現はれであるとも言ひ得るであらう。

第22圖はデイリー・エキスプレス新聞社の外觀であるが、外部全體に黑色ビトロライトを貼附け、その目地の部分を白色金屬の押縁を以て押へたもので、1933 年度に於ける問題の建築の一つであるが、敏感なる讀者はこの建築の外觀の何處かにこなれない或物を感じないであらうか。

×

新建築材料と共に、新しい建築様式に今一つ重大なる變化を與へつつあるものは照明技術の進歩である。

ネオン・サインや流動サインの建築に於ける應用をはじめ、間接半間接のビルトイン・ライテイングやコロラマ照明の建築に於ける廣汎なる應用は、所謂建築化照明法として建築と照明とを完全に合體せしめた。

だが、照明の廣告的利用は姑く措き現在建築に應用された間接半間接照明には、照明本來の目的よりも寧ろ第一にその建築的効果を狙つた光學的に不合理なものが非常に多く、過大なる設備費と徒なる電力の消費とをそれが爲に招來して居るものが決して少くはない。

ここにも亦、驅使すべき新しい建築の要素の爲に、却つて驅使されつつある建築物の姿を見るのである。（第23圖、第24圖）

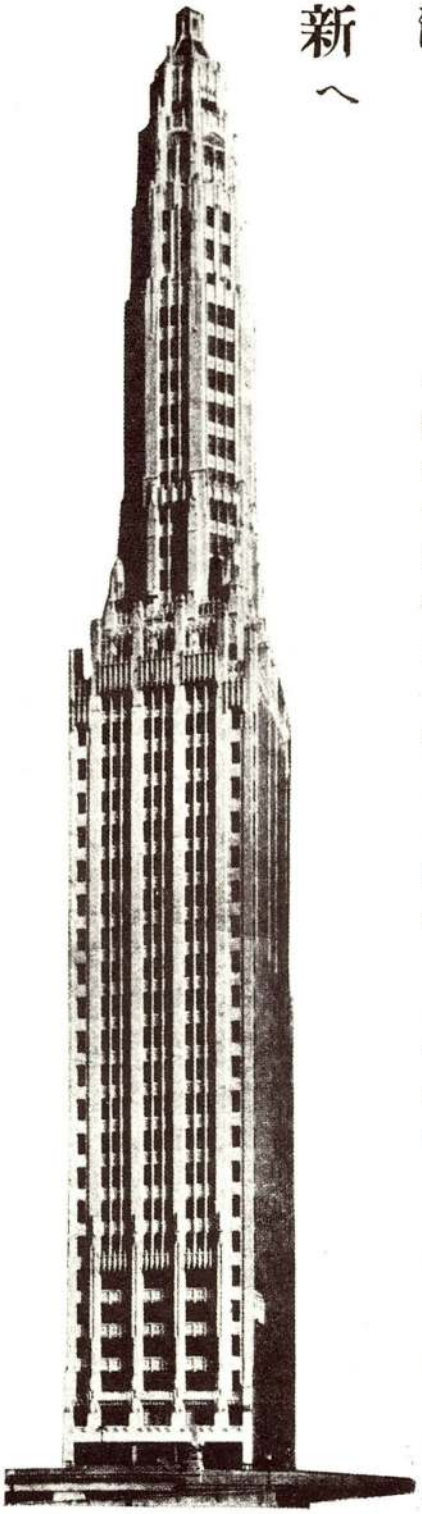
×

現在新建築に現はれたこうした傾向は尙暫は續くであらう。否今漸く現はれ始めたばかりの所である。その程度に於ても尙甚しさを加へるにちがひない。

だが、筆者は現代新建築のこの傾向が、必ずしも建築發展の將來の爲に不必要なものだとは決して思つて居ない。

こうした混亂の後にこそ、再び統一され純化された完成の時が期待し得られるのであるから。

筆者は新しい建築が 1927 年頃をクリテイカル・ポイントとして、その當時までの發展方向に於ける向上過程から下向過程に移つたことを感じ、この小篇に於てその 2, 3 の現はれを指摘せんと試みたのであるが、この稿を終るに當つて全て筆者の過敏なる感受性のせいの様な氣がせぬでもない。この點多少の危懼を抱きつつ筆を擱く。　（1934・2・28）



新しい建築は空へと伸び行く

棚橋諒

新しい建築の運動の烽火が一度英吉利に起るやその共鳴者は、佛蘭西に、白耳義に、墺太利に、獨逸に、和蘭に、澎湃として起つたのであつた。それは 19 世紀の末葉から 20 世紀の初頭にかけて行はれた建築藝術上の革命的な運動であつた。勿論それらを仔細に眺めるとすれば各々その主張する處には同じ處と異る處を認めねばならない。又その作品の上からも例へば英吉利のそれは著しく中世懐古的であり、和蘭のベルラーエ一派の稍稍ローマネスク的であると云ふ様にそのテムペラメントは多くの差異を持つのである。しかしこれらの歸結する處のものは、建築の様式上の革命運動であつた。その意味で「分離」——傳統の様式からの分離——セセツシオンと唱へられる一派こそその本來の目的とする處を確固として把握したものであつた様に考えられる。その分離した——云はゞ新しい生誕をした新しい様式は——表現主義（例へばメンデルゾーの一時期に示した様な）機能主義（例へばベーレンスが一時期に示した様な）合理主義、（コルビジエ一派の如き）と數々の Ism の名のもとに呼ばれる變遷を示しつゝ今日の新しい様式にまで完成し來たつた處のものであるが、この大陸に於ける新しい建築様式が、一つの建築藝術的革命をなし來つたのに對應して、建築が技術的革命をもなし來つた事を我々は注意しなければならない。そしてその技術的革命が大陸でなくて新大陸に於て即ちアメリカに於て生誕し、

且アメリカに於て最も高い發展をとげたと云ふ事をも。

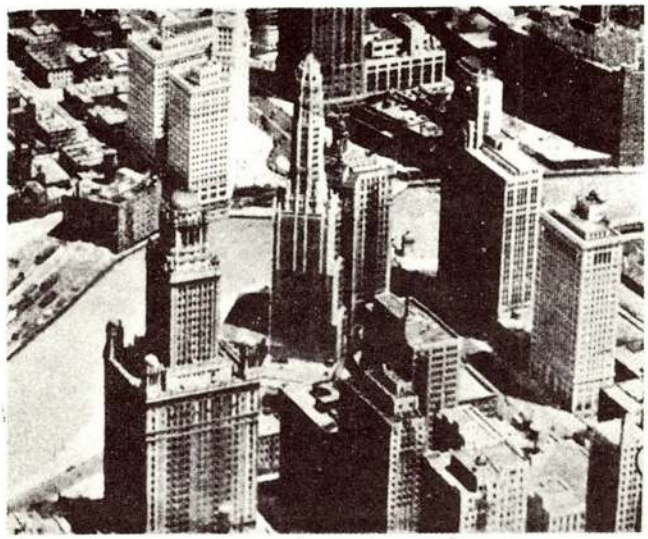
新しい建築を語る人達は歐羅巴について饒舌である程アメリカについては饒舌でない。アメリカについて語られる時は、それは主に2人の表現的な様式的な建築革命運動に參加した建築家、サリバンとライトとに過ぎないのである。しかしアメリカは——恐らく我々の100年後の子孫の語る處の20世紀建築は——主にこのアメリカの20世紀の空にそびえる鐵の骨組を持つ建築についてゞあらう。又、ベベルの塔を建てることに失敗した祖先は、千呎に及ばんとする摩天閣を建て上げた子孫を持つた事を誇とするであらう。

鐵の骨組を持つ建築は、アメリカ大陸に於て始まつたのであつた。勿論鑄鐵の柱を用ゐることは大陸で既に用ゐられて居たけれども、今まで煉瓦や石を持つて積まれた建築の中へ鐵の柱を設けることによつて、荷重をうける主なものをこの鐵の柱として、今まで荷重の支へとして働いた厚い積み上げた型を、單純な區切りとしての薄い壁にしたのはアメリカ人であつた。近代建築はこの意味で、その技術的な發明者としてのアメリカ人に感謝しなければならない。"鐵の骨組の建築"こそ我々の持つ新しい構造である。鐵筋コンクリートの建築的な使用ははるかに之におくれる處のものであつて、鐵筋コンクリートの骨組の建築は鐵骨建築の影響のもとに發達したと云つて良い。鐵筋コンクリートは佛蘭西人によつて發明され、又佛蘭西に於て最も早く建築的に用ゐられたものの如くであつて、ペレー兄弟はその最初の成功者に數えられる人々であらう。サリバンとペレーは鐵骨建築と鐵筋コンクリート建築による建築の技術的革命を藝術的革命に結びつけた點を以て記憶すべき名前であると私は考える。

建築はかくの如くして重い、厚い積み上げる構造から分離すると共に——鐵の骨組を以て空へ空へと伸び上つて行つた。

Skyscraper "擦空閣" とはそれに與へられた名前であつた。五六年前までの亞米利加の大都市の都心は、大體に於て25階から30階程度の高層建築が標準であつた。現在に於ては60階を超えつゝあるものゝ如くである。Superskyscraper 超摩天樓なる名前を用ゐられて居るこの雲に梯する建築は尙空へと伸び行くであらう。アメリカの建築家は、尙空へと伸び上り行くことを待望するものゝ如くである。我々は且て既に摩天樓の高度限界に達した様に考えられた處のその200呎の建築が500呎の建築が700呎の建築が次々に空へと伸び上つて1250呎、殆ど¼哩の高さの建築に及んで居るではないか。

紐育では、日にエレベーターその他によつて垂直に上下する人の數は、或は地下鐵道或は高架鐵道或はタキシーで水平に移動する人の數の2倍であると云はれて居る。『若しもこれらの人達が水平に移動するとすれば、紐育の交通は、果してどうなるか？』ロンドン、パリの如く6階程度の建築から成り立つてゐるとすれば垂直に移動する⅔の人達は水平に動



かなければならないではないか？、高層建築こそこれを解決する鍵でである。』とアメリカの建築家は云ふ。高層建築が都市の交通の混亂を救ふものであるか、ますます惡化せしむるものであるか、私はそれを詳にしない。しかも尙、亞米利加に於てすら低層建築を以て充分であらうと考えられた地方小都市、アトランタやシヤトルに於て、建築の空へと伸び行くのは何を意味するか？　アメリカは現代の機械文明の最高峰であり、資本主義的能率主義の最も發展した國である。今アメリカの都市の空へ伸び行く姿は我々に何を教えるか。

（我々はアメリカから學ぶべき多くの物を持つ。最も學ぶ點の少い構造力學的な研究についてすら、Westergaad その他の Illinois の學者の研究はその持つ實際的な意味に於て、注目すべきであらう。技術に至つては、或は經濟學的な研究に至つては、恐らくその總てが學ぶべき點ではあるまいか。）

アメリカの摩天樓のますます空に伸び行く可能性に關しては技術家は、些かも疑つて居ない。勿論アメリカは我國の如き地震におびやかされることのない國ではあるけれども、それらの摩天樓に於ては風壓に耐ゆる設計をすることは、我國の現在の耐震計算に劣らぬ面倒なものである様である。その點に於てアメリカの建築に於ける構造技術家の設計に對して占める位置は甚だ重要なものである。構造技術家は、その建物を風に對して充分な安定性あるものにしなければならないのみならず、こうした高層建築の風によつて起る振動即ち少くとも、居住者に不快不安の念を與へぬ程度の微少なものにしなければならない。そのために構造技術家が平面に根本的な改正を加へ、或は階高及階數を減じ、或は Wind-bracing のために貴重なる空間を犧牲に供することは當然の事と考えられて居る。——アメリカでは幸か不幸か、建築は１人の建築家が曾孫達から嘆美せられるべく殘すところの藝術品と考えられず。「多くの手の共に働いて成るもの」と考えられ、建築家とは、美しき藝術的作品を後代に殘す藝術家と考えられずして、構造方面並びに採光通風配管等の附帶

設備の技術家を動員して共同の目的のために全力を盡さしめてその統制をするCo or- dinator と考えられて居るとである。建築はアメリカにあつては事業である。建築の設計は經濟的活動であつて藝術的活動ではない。



NINE weeks after ground was broken for the Winthrop Towers apartment building, Chicago, the *reinforced concrete frame was completed.*

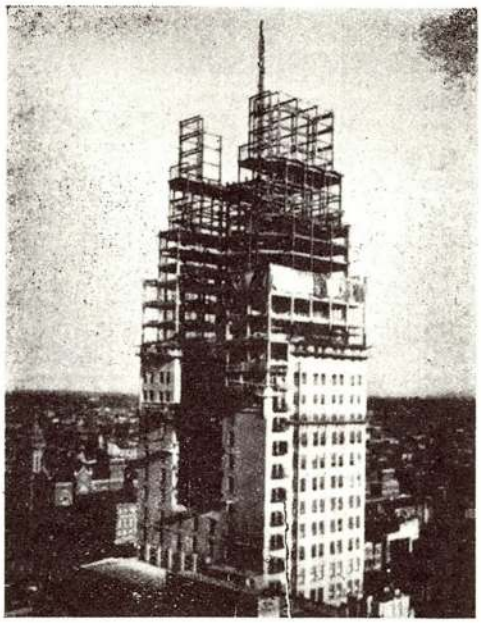
アメリカ程に設計の迅速を尊ばれる國はないであらう。一つの摩天樓建築を建てるたあにはおほむね 200 呎平方の 1 區劃の土地が用意される。その土地の投資は假令そこに在來建築物が存在して利潤を上げつゝあるとしても尙、新しい建築よりも不利益であるにちがひない、1 日設計を早く完了することは 1 日早く、相當した利潤を上げ得ることである。

更に、工事の迅速の持つ經濟的意味は大きい。工事のために投下された莫大な資本を回收するためには 1 日も早く工事を完了することが重要である。

設計はそのために充分に考慮をされる。多くの材料は工場から迅速に運び來つて最も輕易に現場で組み立て得る様に Arrange される。大型のワンピースの鐵骨、簡單な柱と梁のとりつけ、Pre-cast の中空煉瓦やコンクリートブロツクの積み上げと云つた様に、そして、高層建築の上の方はまだ裸の鐵骨が風に吹きさらされて居る間に、すでに美しく內裝の完成した下階では商賣や事務が始められて居ると云ふアメリカの能率的な建築は——何を我々に教えるか？

アメリカの摩天樓の高さは現在の構造方法と現在の上下交通機關としてのエレベーターとを以てしては 80 階邊りを經濟的限界であると考えられて居る。

しかも尙アメリカの技術家はこれに對する改良へと志して居る。すでにエレベーターに關しては 2 重連結エレベーターが提案されてすでに、或建物では實用せられ、又ある建物



KANSAS CITY ADMINISTRATION AND EQUIPMENT BUILDING.

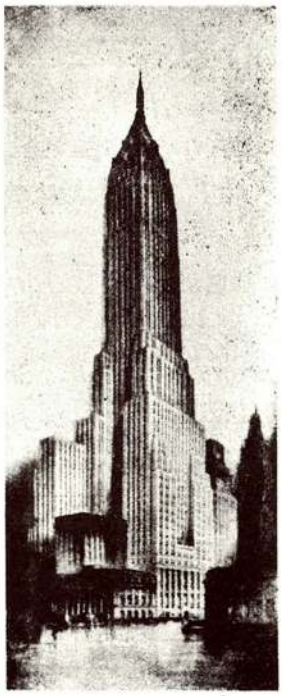
では1つのエレベーターシヤフトの中を2つの別々のエレベーターが動いて居ると云ふ。

又構造技術的な見地からは、輕量な壁體材料の研究が主要な題目であつてこれによつて更に材料を節約し、工費を低廉にすべく考えられて居る。

實際ホローブロツク煉瓦等を積み上げる作業は、6000年前の埃及人の技術から餘りに進歩して居ないではないか。

そう云ふ意味でアメリカの高層建築の壁體はも早全く Masonry construction (積み上げる工法) の影響を脫してそれがカーテンウオールである在來の意義の様に Drapery construction (ぶら下げる工法) へと移行しつゝあるもの丶如くである。

エムパイヤ、ステートビルデイングの外裝に用ゐられた Spandrel はアルミニウムの鑄製品であり、Trim の部分に用ゐられたのはクロームニツケルであつて、柱の部分のみが石灰岩で被はれて居る。更に內部隔壁に於ては一般には尙中空煉瓦であるとか、或はリブラスの上にプラスター層を作るのであるが、それすら後に移動、變更せしめる場合に全く破壞し去らねばならない點を不滿として、Unit metal partition による方法が考えられ、すでにそれらが在來の方法と防音的にも耐火的にも劣らぬ程度にまで改良せられたと云はれて居る。

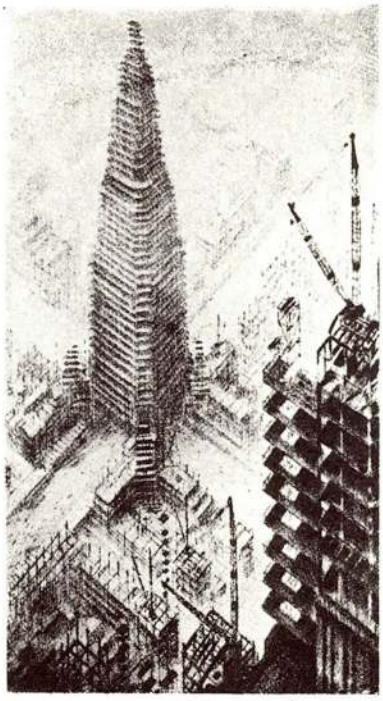


寧ろ問題はこれらの材料を以て輕量構造にすることによつて建築物が現在有する、剛度を(rigidity) 失ふことに對していかなる解法をなすかと云ふことにある。乃ち現在のアメリカの鐵骨構造の柱と梁の結合は甚だ簡單であつてそれのみでは到底充分の剛性を期待し得ないのであつて、塡充して積み込まれた煉瓦の外壁にその剛性が依屠するために、その點現在の簡單な結合方法よりもむしろ嚴密な獨逸風な剛節點のとりつけをするか、或は現在の方杖の様なものにたよらないで充分な筋違ひ鐵骨を入れたトラスを計畫するかであらう。



更に又、現在にあつては高層鐵骨架構の持つ High frequency の彈性振動の誘發から免れるために床及び壁の重量を減じ得ないこともその技術的な困難の一因であらう。

我國の建築は空へと伸び上つて行くことは出來ないであらうか？これは我々構造技術者にも課せられた大問題である。も早現在の大都市の都心にあつては100尺8層の建築を以て充分に經濟的能率的であると云ひ難い。20階の建物をもし我々が技術的經濟的ならしむることを得るならば、尚、都市は外へ外へと醜く擴がるには及ばないであらう。地耐力の問題も、輕量構造の問題と相俟つて考えれば甚しい難問題ではない。



とにもかくにも私がこゝに結論として申し上げたいとは、現在の8層100尺が都心の建築の經濟的能率的な高さの限度でもなく、構造的耐震的な見地からの高さの限度でもないと云ふ事である。況んや50尺平方位のところに立つ100尺の建物の安全性を得る程度ならば、200尺平方のところに建つ建物は充分之より高きを得るであらう。現在の持つ建築の安全性と同じ程度或はそれ以上のものを以て尚高い建物を建て得るか否か？　且これが充分經濟的であるか否か？それに對する建築材の料改良或は構造法の進歩等に對して、尚、進歩的な技術家諸彦の研究を期待したい。

生活の墓標

本多正道

1

凡そ地上に於て建築、特に現代の鐵筋又は鐵骨コンクリート造建築程厄介なものはない。人間は死んだら魂と云ふ始末のよいものだけを殘して跡形もなく葬り去られ、又いくら陸奥、長門、でも幾度かの改裝を經たのち年限が來れば遂に廢艦となるのだが、半永久的な建物は、いつまでその殘骸を殘す事だらうか。文化をほこる近代都市と云ふものも、今ですら實は一つの建築骨董市場に他ならない、耐久的建築の加速的に增築される將來一體どうなる事だらう。米國に於いて廢棄自動車の處分に窮してゐる事はあまりに有名な事實であるが、我等の都市も將來之を見棄てゝ、他の空地に新な都市を建設する方が經濟上得策となる時代が招來せぬとも限らぬ。

建築は直ちに我等の日常生活であり、今日の問題であつて、決して昨日のものでもなく明日のものでもあるべき筈でないが、そのまゝの姿を永く地上に殘す點に於て、衣服ともちがひ、政治ともちがつた、誠に厄介な要素を含んでゐる。大阪中之島の大江橋は、既に我等の記憶から去つてしまはうとしてゐる程古い昔の懸賞募集當選圖案を、比較的正直に實施されたものである。しかし、設計と施工との間には10年の時間の隔りがあるので、素人でさへ意匠が何處となく時代後れしてゐるのに氣づく。之が着物であつても、軍艦であつても大變であるが、建築的な意匠であるがために割合平氣で此んな事が行はれる。又美しいオーダーをもつた三井銀行大阪支店が惜し氣もなく打壞はされて行くのは、經濟的價値が既になくなつたからであり、建築經濟上からは大いに歡迎すべき事かもしれないが、天災でもなく、不可抗力でもないのに、兎に角一種の藝術品だと稱せられるものが、必要の前に跡形もなく粉碎されてしまふ姿はみぢめである。

2

新しい古いと云ふ事には勿論科學的な時間の經過と感覺的な時間の經過とがあり、前者に對しては問題は比較的簡單である。大震災のために幾多の貴重な藝術品が灰燼に歸したのを見て初めて「アルス　ロンガ」でなかつた事を悟つたと云ふ。アルチストがあつたが合目的性を重要な要素としてゐる現代建築に於て、用途に適しなくなつたために破棄される事に誰しも異議はない筈である。よく聞かされる事である「何もそう頑丈なものをつくつてくれなくてよい。建物自身がいくら永もちしても、いつまでもこんな建物が用を辨する筈はない」と。此樣な建物に對しては出來るだけ容易に破棄し得るやうに考へる必要が

ある。しかし多くの場合建物の安全は同時に耐久を意味し、又現在最も合目的である事は將來に於て一層不合目的となり易い。

感覺的に新しい、古い、と云ふ事の中には、極めて週期の短い流行のやうなものと、週期の長い、例へば政治、經濟、戰爭等の原因となり、結果となる時代思想の表現、及び直接科學の進歩と共に直線的に前進する感覺表現等がある。週期の短い流行等と云ふものにはほとんど他の原因はないので、物理的に振子運動をしながら前進して行くだけの事である。例へば短いスカート、裝飾の省略、シングルカツト等は當時相當理論づけられて、現代生活の當然の歸結の如く云はれてゐたが、やはりそうでない事が證明されてしまつた。

しかし建築は流行ではない。あらゆる時代思想の影響をかすかに受けると同時に、一方に於て科學が要求するものを最大限に滿足させる必要があり、他方に於て大衆の盲目的な遲鈍なファンタジーを滿足させねばならぬ。

3

即ち、他の直接的な雄辯な藝術、例へば文學の如く思想、主義をそのまゝはつきり表現する事が出來ず、又建築家にそんな指導的能力のない點に於て、幾分音樂に類似してゐる。ムーンライトと云ふかりそめの名を冠せられた音樂が、聞く人に暗夜の風を想像させやうと、眞晝の野原を想像させようと、決して聞く人の罪でもなく作者の罪でもない程、何も明確に語り得る要素をそれ自身備へてゐないが、最も訥辯な建築はほとんど何物をも語る能力を有しない。それでゐて一つの決定的な形式をもつために明確に時代を表現してしまふ。音樂に於ては時代の表現が比較的薄弱で、科學の進歩が本質的に影響を及ぼす事も出來ず、比較的雄辯に語り得る地方的色彩とか個性的色彩の表現等と云ふものが、今日の新しい作家によつて依然として最も重大な要素として許されてゐる。

建築に於ても現在地方的色彩は尙ほかなり濃かであつて、最近も或る他方面の雜誌の中にストツクホルムの市廳舍の寫眞が載つてゐた事に興味を感じた。寫眞の下には「美しいスエーデンへ來れ」と云ふやうな意味の觀光誘致の標語が書いてある。此の一市廳舍がストツクホルムのみならずスエーデン全體を代表して、建築家のみならず一般の人々に強い印象をあたへてゐる事が分る。しかし建築のやうな科學的なものに此樣なローマンチシズムがいつまで許されるかは疑問である。摩天樓の林立したニューヨークにこそ廿世紀の都市の脈動を感じるけれども、ストツクホルム市廳舍の內に高速度のエレベーター、新式の附帶設備、明るい事務室と敏活な事務を想像する事は出來ない。建築家の美しいファンタジーではあるが、結局スエーデンを北偏の田舍國として紹介してゐるに過ぎない。

4

日本に於ても日本的なものを要望する聲は今に初まつた事ではないが、最近特に一部の進歩的な新しい建築家の間にも今更の如く日本建築再現を叫ばれるに至つた。しかし之等の人々は勿論ローマンチシズムと地方色を求めてゐるのではなからう、又地理的條件、物質的條件、風俗人情等の差を探し求めてゐるのでもなからう、地上に新らしい骨董品を殘さぬやうに、古い革袋に新しい酒を盛らぬやうに、生命の永く、明日の日も新鮮で美しいものを。

木とファンタジー

村野藤吾

I

曾て、ある座談會の席上で、若い建築家が、こんなことをいつて居た事を覺えてゐる。日本で木造建築が發達したのは千何百年間に洗練されて來たもので、これをコンクリートなどの材料をもつて木造らしく見せる（コンクリート製の和樣建築を指す）などのやり方は不自然だと思ふと同時に、コンクリート風の住宅（近頃の白い建築）を木造でまねると云ふ事も亦不自然だと思ふ。

一時代前の議論の樣にも思へるが、興味を覺える。その言葉そのものではなく、その裏に興味を覺える。私の筆も亦此の言葉から出發する。

吾々は頭でいろいろの事を想像する事が出來る。これは而し空想の樣にも思へるが、空想でない事もあり得る。いま此の若い建築家の言葉を借りて云へば、無庇、無瓦の白い、豆腐の樣な建築を、木造するのは不自然だとの事であるが、木に、非常に有力な防腐劑を塗るとか、絕對耐火劑を注入するとか、とにかく何等かの方法で、科學的な處理を加へて見ればコンクリートの樣に耐火的な永久性を持たせる事が出來ないことはない……と頭のなかで勝手に想像する。而し、そんなものは現實には出來てゐない。だが、吾々は、少なくとも私は、今、頭で、そんなものを想像出來ないと云ふ時代ではない、と、思ひもするし、又、今直ぐにも出來る時代を勝手に豫想してはいけないとは私の頭のなかで考へない、なぜなら、人生には今迄不可能だと思はれた事が幾度も達成せられた事實を經驗し、現に、その自負と、自信と、ほこりを持つてゐる。これは吾々の人生觀の一部であり、且つ、吾々の思惟の世界に一劃を占めてゐないとは思はない。木造に對する、すなほな考へを持つた、此の若人は恐ろしく、自然主義の信者だと思へる。

夫故に、豆腐の樣な張りボテの木造建築に反對する此の若い建築家の議論に私は反對である。これは私ではない、私の頭である。たとへ、此の建築が、5年はおろか3年、2年で腐りはてようとも、その永久的可能を信ずる頭腦の働きが、觀念化して、此の種の建築の存在を是認する事が出來ないと云ふ樣には働かない。而し、此の、木に對する可能は、有力な防腐劑と、耐久劑の發見の可能からの直接の原因ではあるが、よく考へて見ると、實は、鐵や、コンクリートの建築的自由性、其の偉大な建築的可能から由來する。謂はゞ、廣く科學と藝術の自由の世界から展げられて行くものと思へる。木から糸を、木から、硝子を、木から鐵を、木からコンクリートを、等々をと考へて行くうちに、木そのものの世

界は僅かに現定の、而も最も安易な木造建築の一局部でしかない様に思はれて、その反對に科學の關する限り木の世界は、あらゆる建築的偉大な可能性を有する考へと共にそのなかにとけて行く。木によつて魚をもとむ、と云ふのではなく木によつて魚をもとめ得る思惟の世界が展がつて行く。誰れか、星にかくる建築と云つたが、吾々は想像し得る限りに於て、建築を建築し得る豫見を持ち得ると思へる。此の、一見現實からはなれた様な馬鹿化た考へは、廻り廻つて木の可能性を恐ろしく展げることが出來る。若しこれが、空想だとしたら、恐らく、飛行機はまだ地上をはなれて居ないかも知れない。夫故に、木造ハリボテの豆腐建築の存在を是認する。たとへ、それが數年のうちに腐りはてようと、それは木の關する限りではない。木に對する頭の世界の關する限りでもなく、建築術の未熟、謂はゞ廣く、科學と建築、而も現實に於ける木造建築建築の問題でしかない。吾々は、いつも、現實の條件から一つの假定を作つて理論するのが普通である。而しながら時として、觀念は現實から一歩先づるのである。瓦葺がいやでなく、コンクリートの合理建築の美しさにあこがれての爲めばかりで、あの、豆腐型の木造ハリボテ建築をするのだと想像することには誤りがある。斉たる建築材料の發見と構造法の變化は、よく、庇と屋根の必要を打ちくだくかも知れない、もとより、それは庇と屋根、日射と、風土の日本建築の理論そのもの變化でない。として見れば、科學的自由の世界では、庇と屋根の瓦を、固執するいわれはないと思はれる。此の考へから見れば、庇をつけたコンクリート建築は時として玩具の様に思はせることがある。しかも、尙、それを固執するとすれば、理論でなく、それは庇と屋根の宗教ではないか。吾々の觀念のなかには最早、科學の可能の世界を織り込み、恐ろしく偉大となつた近代建築術の働きがその自由と、可能の世界を擴げて居ることを頭のなかに信じてゐるからではないか。必ずしも觀念の遊戯ではあるまい。

2

頭の關する限り科學と藝術の名によつて、自由に建築を論じようとする事は、さして難事でないかも知れぬ。吾々は頭で物を思ひ、想像し、その可能を信じ、そして、頭で建築する。多かれ少なかれ、日本では過去廿年來頭でしか建築しなかつた様にも思へた。敢へてその時々の新興建築ばかりだとは云わない。夫故に、その結果として、理論はいつも現實から時として遊離し、又恐ろしく先行した。夫等の理論の躍進的な結果として、らち外の最多數の建築と、建築的傾向とは、折衷主義の燒印を捺されて、教師は教壇から、若い建築家達は又夫々の立塲から此の建築を批難した。それにもかかわらず、久敷、傳統と現實の奥深くしみ込んだ是等の建築は、ともかく、一つ一つ現實の問題を解決して、やがて行きつくところに行くのではあろうが、之れに反して、凡そ新興的な理論と云ふ理論は、今のところ、振はなくなつた様にも見える。これは而し、理論そのものの欠陷と云ふよりも寧ろ、理論の代辨が性急であつた結果であると思われる。様式建築に對する見方と現實

の問題に對する解釋に對して、事更らに自分達のイデーの代辨に引用したり、又それを固執しなくとも、自からの實踐と理論のうちにもつと多面性と多角性とを持つてもよい筈ではなかつたか。曾て、グロピウスの理論が、「日本」の名によつて、一つの運動を植えつけようとした。風土、住むに適した日本の建築、などを基礎として科學の世界が論議せられた。が而し、それは更らに廣い日本を忘れて、部分から全體を目指した様に思われた。廣く、いや、一つ一つの環境と、條件を、克明に、克服して行くことの代りに、性急に、一定のイデーを代辨した。その結果として、理論は恐しく窮屈なものになり、從而、作品は硬化して型にはまり、ちん腐となり、固定してポスターの様になつて行く傾向を見せた。か様な狀態は、藝術或は藝術的心境に於て奥行きを失ふおそれをいだかしめないとも限らなくなつたのである。人は、そうした、固定した世界には入つて行く事を好まないと云ふ社會と、イデオロギーを逆にして見れば、不合理の代名詞たる折衷建築が最も合理的であつたり、合理建築が時として、やくざなものになつたりする世界が現はれて來たのである。「合理」とは何ぞや、と云ふ疑問が出て、吾々は合理主義を安易に使へなくなつたのである。

3

ある小劇場の廊下で「銅道」と云ふ雜誌を買つて讀んだ、生活が解決されずに何の様式ありや、と云ふ意味の建築論が書いてあつた、百の議論も、生活問題の前ではハタと行きづまつてしもう。その通りである。

……
……

煙草を脂頭にはさんで、椅子によつた男が靜かに煙を見つめてゐる。「木によつて魚をもとむ」か、「木によつて魚をもとめ得る」、かと云ふ問題を頭のなかでまだ考へて居る。恐ろしく生活のない風景ではある。　　9. 2. 26。

（……28 頁下段より續く ……）

有機的に、この複雜性を滿足せしめるかゞ問題でなければならない。建築に限らず凡そ、この神聖化された「單純」を錯覺したあらゆる藝術は『簡單なる氣韻を旨とした東洋的精神主義の審美感の最も重大視する所のこの「單純」のための「單純」からくる「澁み」とか「さび」とかの一點にその動機と究局とを集中してゐる』のである。

今一つの危險は個人的表現の慾望である。普遍的な指導原理によらず只管に個人的表現の安慰に醉つて、分裂せる自我を各局部に様々の型に表現せんとする貪慾は更により以上の蛇道でなければならない。

吾々は吾々の先驅者達が吾々に殘した最も秀でた作品は、何れも充分なる謙遜と無慾との中に完成された事實を。そうしてすぐれたる創造には、必ず精神的崇高な人格よりにじみ出る迫力が、深く深く刻み込まれてある事を忘れてはならない。

惡莠恐其亂苗也

桐本楠雅

文明諸國が其の住宅の組織的研究によつて、ほゞ當面の問題を解決して所謂集團的住宅問題、或は都市公共諸建築の新しい題目に飛躍しつゝあるのに比べて、吾國ではその歴史的地理的環境から來る經濟的、精神的の壓力が近代都市生活から來る必然的な迫力と衝突して常に我々を困却せしめつゝある。座式か椅子式か、或は木造か耐火建築か。木造建築の集團が防火防空的の見地から常に排撃されながら、而もこの排撃が又常に精神的木造建築への愛着によつて機會ある度に逆襲されつゝある。

是等の諸問題が益々複雑化する人間生活の内容と相俟つて住宅の建築的見解を増々多面的な、個人的なものとしてしまつた。そうしてこの組織的な指導原理の缺乏が建築研究に關して綜合的科學としてゞはなくして、その複雑な内容の各部門の分析的な研究の只單なる集積に過ぎないで徒に無秩序に放任されて、自然發生的な建築構成から科學的な體系としての必然的建築構成への道程を、尚一層急な廻り廻つた迷路としてしまつた。

幸にして吾々は現在數多くの優秀なる公共用建築を見る。停車場、學校、病院、市場、工場、會館、演藝場等これ等は何れもその都市の力と富と同時に複雑さを示す都市生活には是非必要なる有機的な存在である。是等の多くはその性質に應じて、多くは祖先傳來の華美な、窮窟な所謂藝術的「きもの」を脱ぎすてゝ、一應は極く非常時らしい緊張さを見せてゐる。これ等は何れもこの多岐多様なる山道を、勇敢にもその强脚に恃んで不充分なる調査をたよりに只莫然と登攀を企てたものである。而しながらこの坂路は餘りにわすらはしく餘りにも登り難い。「分裂せる自我」を以てしては到底のり切る事は難しい。やがては努力の分裂を招いて或は右に或は左にそれて到底逃れ難い窮地に引き入られ勝ちである。而もこれ等の多くが吾國にて古來より「澁み」とか「さび」とかの名によつて神聖化された「單純の爲の單純化」の逃避的假面にかくれて、尚、强腰に「必然的構成」の旗を高く高く揭げてゐるのである。

吾々は必要なる稻の健實なる生長の爲に、苗に紛らしき莠を發見してその生長を阻止せなければならない。それ等の假面を取つて見やう。其處には不充分、不必要、不統一によつて歪められ、個人的表現の欲望によつて打ちのめされた醜い殘骸を殘すだらう。活きた發展する生活の容器として現代又將來の建築は本質的に「單純」であり得ない。吾々は確立せる指導原理に基いて、この複雑を逃避する事なく、綜合的研究の完成によつて如何に

（……以下 27 頁下段へ續く）

歐米住宅建築界の新傾向

岡田孝男

1. 序　言
2. アメリカの新しい住宅
　日光の家、土地に親める家、開放された家、常識的な家、次の時代の家、個性のある家、客本位の家、庭園住宅、ロスアンゼルス郊外の家、ニューハートフオードの家
3. イタリーの新しい住宅
　夏の家、藝術家の家、飛行家の家、熱帶地方の家
4. オランダの新しい住宅
　ロツテルダムの家
5. フランスの新しい住宅
　避暑別莊、グラスブリックの家、プールのある家
6. ドイツ、オーストリー、スヰス、ハンガリーの新しい住宅
　ベルリン郊外の家、ウヰン近郊の家、ブダペスト郊外の家、ブリユン郊外の家
7. シカゴ博覽會の新しい住宅
　今日の家、明日の家
8. 結　論

1. 序　言

近着の外國建築雜誌を見ると、どの雜誌を見ても、專ら住宅問題が取扱はれて居て、このところ住宅問題全盛の感がある。これは一つは、世界的不況の爲に高層ビルデイングの建つものが少く、建築界がやゝ閑になつたので、建築家の餘力が、住宅問題の方へ、むけられたせいであるまいかと思はれる。

住宅問題は、人生生活に最も重要なものであるにかゝはらず、物が小規模の爲か、建築家の間では從來あまり、研究されて居ない。そして主として研究された大建築の知識を以つて住宅建築も律せられて居た樣である。

しかし、大規模な高層建築と小規模な住宅建築の間には自づから區別があつて、高層建築に適するもの必ずしも住宅建築に適するとは限らぬ。

例えば構造法に例をとつて見ても、8階建とか9階建の大建築には鐵骨鐵筋コンクリート造が最も有利であつて、これを木造でやらうなどゝ云ふことは考へられないが、住宅の場合は小規模の故を以つて、及び他の事情もあつて木造の方が有利のことが多い。この場合建築家は大建築に用ひられる鐵骨構造の方は微に入り細を穿つて研究しながら、木造の方は一向に研究して居ない。その爲木造の方は構造法として進歩が甚だ遲れて居るのである。

こう云ふ住宅に關する研究で、まだ着手されて居ないものが多々あるが、最近建築界の興

味の中心が漸次、この住宅問題の方へ轉じつゝあるのは甚だ結構なことである。

住宅問題としては

1. プランとエレベーションの研究
2. 構造法の研究
3. 設備の研究
4. 裝飾及家具の研究

等々、小住宅に特有の問題が多いなかで、こゝでは、プラン及エレベーションの研究の一助として最近の歐米に於ける住宅の新しい傾向を集めることゝする。

斷つておくが、筆者はまだ歐米の國へ行つたことがなく、彼地の建築を見たこともない。從つてこゝではたゞ近着の外國諸雜誌に現はれた住宅の中から、新しいものを選擇してこれを集めたにすぎない。此意味に於て、正確に云へば、標題“歐米住宅建築界の新傾向”の前へ“近着雜誌に現はれたる”とつけ加へる必要があるかも知れない。

しかし同じく法隆寺の建築のことを書くにしても、たゞ法隆寺を見たゞけで書くのと、法隆寺は見ないがその寫眞や記錄や、案內記を調べて書くのとでは、見ないけれども調べて書いた方が遙かに、材料が豐富で、要領もよい場合があるから、筆者のこの見づして書く流儀も、全然無意義のものでないと信ずる。殊に住宅建築界の全般でなく、新しい方面だけのことであるから比較的容易で誤は少なからうと思はれる。たゞ見づに書く場合は專ら文獻によるが、その根據とする文獻に過誤がある場合は勿論、その文獻を理解する時に、錯誤があり得るから、二重の弱點を持つことになる。この點は特に正確なる認識を持たれる識者の叱正を乞ふ次第である。

本文では始めに、アメリカのマーシー百貨店で展覽會を開いた“將來の住宅”の設計案8種について、アメリカの新しい傾向を訪ね次にイタリーのミラン市で昨年開かれた博覽會に出品された住宅4戸について、イタリーの新しい傾向を探り、次にオランダ、次にフランスの新しい住宅3戸を調べ、更にドイツ、オーストリー、ハンガリー及スイスの新住宅各1戸宛を見て最後に、昨年シカゴ博覽會で建てられた“今日の家”と“明日の家”とを探ね、然る後、これ等の新しい住宅がどう云ふ傾向を持つて居るか、その共通の目標如何を究めて見たいと思ふ。

引用した外國雜誌は

米	Architectural Record	(Jan.—Dec., 1933年)
米	Architectural Forum	(〃 〃)
獨	Moderne Bauforman	(〃 〃)
獨	W.M. für Baukunst & Städtbau	(〃 〃)
獨	Der Baumeister	(〃 〃)
瑞	Das Werk	(〃 〃)
佛	L'architecte	(〃 〃)

等である。

尙、小住宅の構造法については拙稿“不燃質小住宅の新構造法”（建築と社會昭和8年6月號自34頁至49頁）又小住宅のプランについては拙稿“小住宅のプランの研究”（建築と社會昭和8年4月號自54頁至62頁及同誌同年6月號自71頁至88頁）を御參照賜はらば幸である。

2. アメリカの新しい住宅

ニューヨークの有名な百貨店マーシー（R. H. Macy & Company）が昨年度住宅建築に對する興味深い企を試みた。それはニューヨークの著名な高層建築家8人に對し、理想的な小住宅の設計を依頼し、その出來上つた設計案により、模型を造り“將來の住宅”と銘打つて展覽會を開いたことである。

何がさて、高層建築の方では名だたる建物を手がけ令名ある人達であるが、住宅の方では如何か？、住宅は高層建築とは異なる分野にあるから、大したものは出來まいと云ふ人、又住宅も高層建築も建築にかはりはないから、相當なもの、寧ろ今迄の住宅建築家の氣づかない所迄も、秀れたその設計手腕で表現するだらうと云ふ人、其他とりどりで興味を以つて迎へられたが、出揃つた設計案を見ると8人8樣ではあるが、みな相當なものであつた。

そもそも、住宅と云ふものは、その注文主、即ち住ふ人の個性によつて違ふのは、當然であるが實際問題として、住む人から設計を依頼された建築家の、住宅に對する解釋如何によつて、著しく異つた建物が出來上るものである。

例えば最も公平に、同一地面に同一條件を附して、10 人の建築家に設計を依頼したとすれば、10 種の異つた案が出來て、決して數學や物理の答案の如く、同じ答案が出て來ない。

これは數學や物理に於ては、條件が少數に限定されて居るから、これを辿つて行けば同一の解答に到達するのであるが、住宅の設計にあたつては、非常に多くの條件があり互に入り亂れ、又互に相反する條件さえ多いから、たとえ課題として公平に 10 ケ條或は 20 ケ條の條件を與へられても解答案を作るには、それ以外に數百の條件が入り込んで來る結果、その與へられた條件以外の條件の取捨選擇、輕重區別によつて、結局、出來上つた設計案は互に相距るものとなるのである。

こゝに於て、その數十數百に亘る互に入り亂れた條件を、いかに取捨するか、いかに輕重の別を與へるかゞ、重大な問題となるが、その判斷は專ら、建築家にまかされた課題であり、建築家はその住宅に對する解釋如何によつて、違つた標準により、異つた判斷をするのである。この際取捨を誤らんか、設計案は無價値のものにならう。輕重の標準を亂さんか、設計案は不具のものとならうかゝる無價値、不具の案によつて工を進めた建物の運命は、云ふ迄もなく明かなことであるが、世間にはこれがなかなか多い。

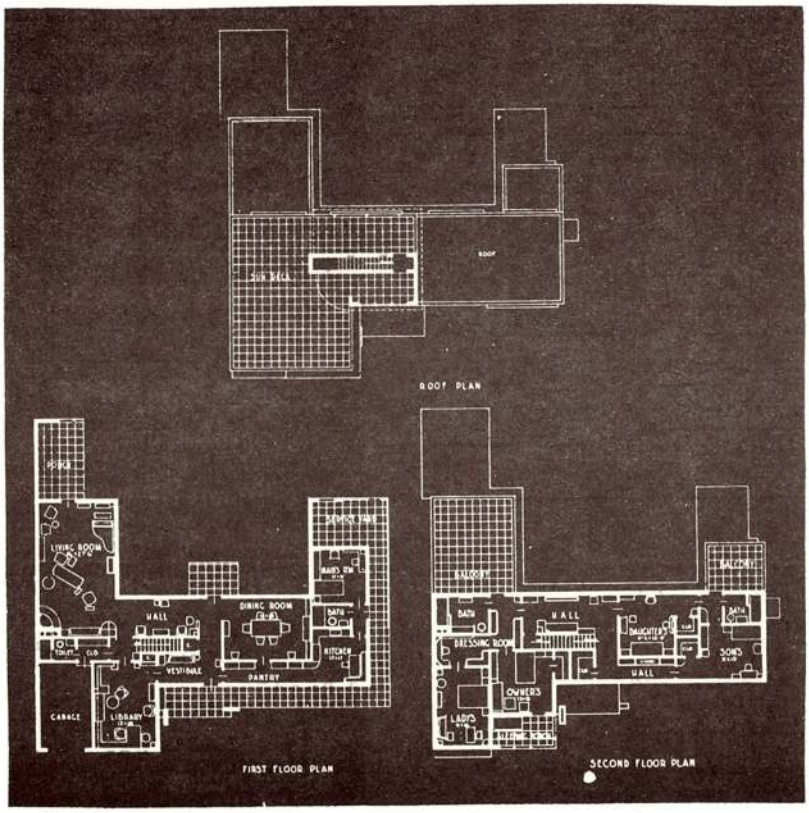
住宅建築に當り、設計者の任務また重しと云ふべし、設計者の選擇の主要なることまた言を俟たない。

却說 Macy 百貨店の得た8人8樣の設計案を見ると、あたかも建築家のその姿を見る樣である或は傳統を重んじてそれに新味を盛つたものや、又新しい銅板製の家や種々あるが、著しく目立つ共通の點は“ポーチ及テレスの重要性”を認めたことである。

或は庭園住宅と云ひ、或は日光住宅と云ひ、戶外住宅と云ふ、その提唱するところは、みな戶外生活の强調で、住宅は家の內から庭園の外まで進出し、又庭園は家の內まで侵入し、快適な戶外生活に豊麗な日光と新鮮な空氣の滿喫を目指し、それに備へてテレス、及ポーチを廣く、好位置に配置したもので、最も重要な位置にこれ等の、從來第二位とされた室を据えたことが特に目立つ。



第1圖　マーシー百貨店の理想住宅　第1案　日光の家



第2圖　同上プラン

今迄の住宅は自然の暴威を禦ぐ爲に、壁を厚くし、窓を小さくして居たが、これでは自然の暴威を防禦すると同時に、自然の恩惠をも拒否することになるから家を開放的にし、春秋の好季節には、或は戸外で食事すべくダイニングポーチとなり、又陸屋根の上をテレスとして、戸外の遊歩にそなへたのである。

尤もアメリカの小住宅に於ける、このポーチ、テレスの重用は、もとからあつた。西海岸の氣候のよい所例えばカリフオルニヤあたりの、冬暖く夏凉しく、年中春の様な所では、早くからポーチを愛用し、バンガローには必ずポーチが附屬し、コロニヤル式の家にもポーチは大抵ついて居たが最も重要な位置にポーチを持つて來たことが今度の新しいやり方である。以下8人8様の設計圖について彼等の主張をきいて見やう。

第1案　日光の家

（第1圖—第2圖）

Harvey Wiley Corbett

氏の設計で、第1圖はその南面の姿、第2圖は1階2階3階のプランである。

設計者は（1）ユニツトコンストラクション、（2）庭を家で3分してプライベーシーを保つこと、（3）光と空氣の豊富なる享受、（4）能率的なプランと設備を、考慮したと云つて居る。

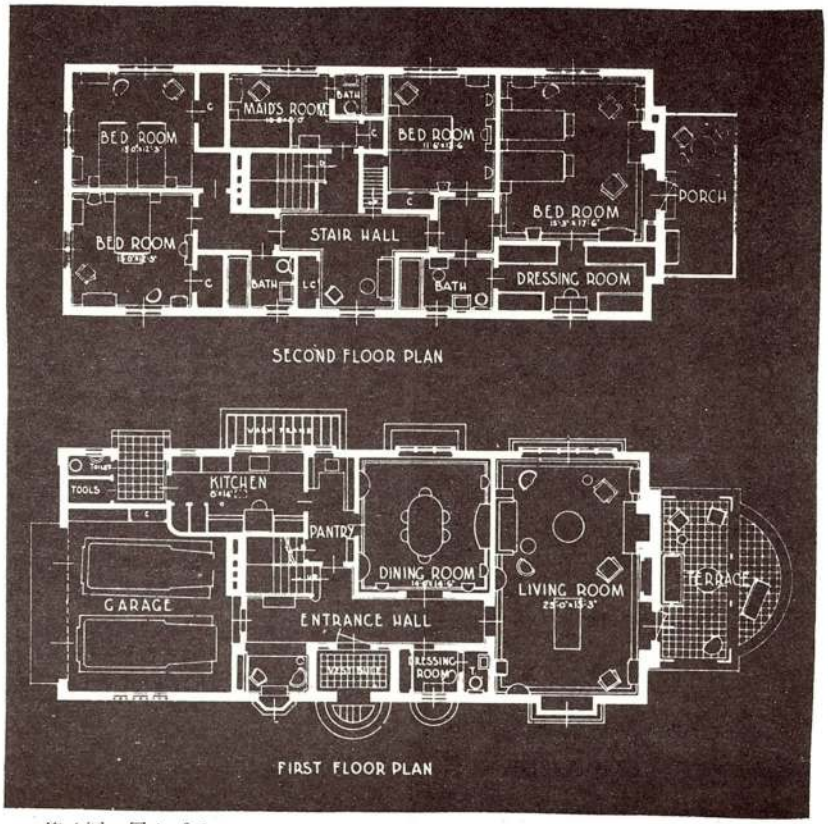
ユニツトコンストラクションは、建築材料の規格を統一し、大さ及形を一定して、これを工場で大量製産し、現場に運搬して、仕上まで組み立てることであつて、工場の大量生産による材料の安價と、現場組立による工賃の低減と、建築日數の短縮とを目的としたものである。

庭を家で3分して、前庭と台所庭と後庭と、各々その役目に應じて分ち、後庭を本庭として、家を凹字形に配し、居間、食堂、ホールを、ポーチ、バルコニーと共に本庭に大きく開口し隣から覗かれることなしに日光と空氣を享受しやうと試みたのは良いと思ふ。敷地の19%が家で、26%が前庭、3%が台所庭、52%が本庭である。

能率的の設備としては、パネルヒーテイング等をあげて居る。



第3圖　マーシー百貨店の理想住宅　第2案　土地に親しむ家



第4圖　同上プラン

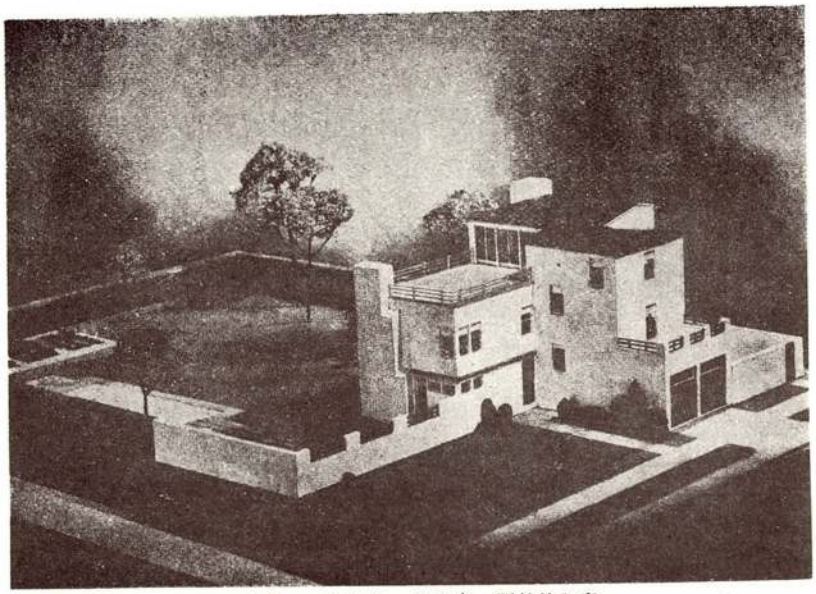
第2案　土地に親しめる家

（第3圖—第4圖）

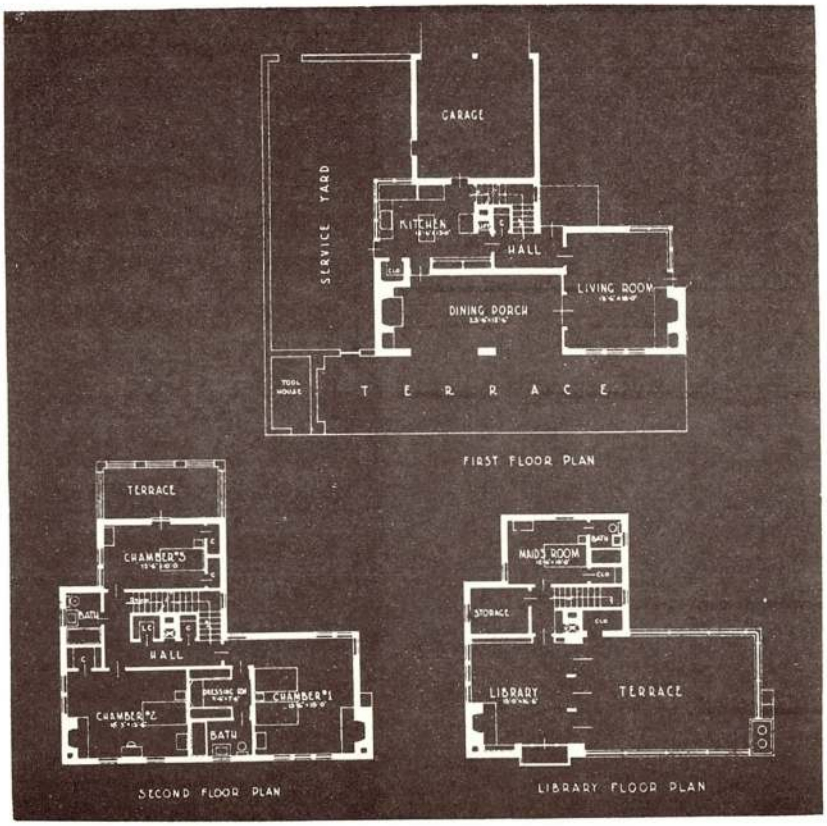
Arthur Loomis Harmon氏の設計で、第3圖は南面の姿、第4圖は1階2階のプランである。

設計者はこの家を設計するにあたり、自分が共に住んで樂しかるべき家族を想ひ浮べ、土地に密着した家を建てたいと思ひ、又建てたいと思ふばかりでなく、住みたいと思ふ様な家を計劃し、(1)工費に比して最大の住居面積、(2)最も安い良い構造、(3)經常費の最小額なることを目的としたと云つて居る。

この設計者は、前設計者及これから述べんとする設計者の意見と異なり、家は家、庭は庭と、はつきり區分し、家と庭との交錯を許さず、日光と空氣が欲しければ戸外へ出よと云つて居る。これは住宅に對する解釋の相違であつて、こう云ふ所に建築家の個性が現はれ、出來た建物が相違して來るのである。從つて構造は煉瓦造が現在のところ最も安く良い構造であるとしてこれを採用し、陸屋根を排し、外壁は煉瓦1枚積の白塗り、內壁はラスにプラスター塗、屋根は木造スレート葺、床と間仕切壁は費用が許せば輕い鐵骨構造にしたいと云つて居る。まさに舊來の解釋の代表である



第5圖　マーシー百貨店の理想住宅　第3案、開放的な家



第6圖　同上プラン

第3案　開放された家

（第5圖—第6圖）

Raymond M. Hood 氏の設計で、第5圖はその東北より見たところ、第6圖はプランである。

前設計者が、庭と家との區別をはつきりし、戸外生活がしたくば戸外へ出ろと云つて居るのに反し、此設計者は、家と庭を一所に考へ家の内へ庭を引き入れて居る。

即ち1階のプランで見られるダイニングポーチが、この家の生命であつて、普通ならば食堂が來るべき、最も佳い位置をポーチとし三方を壁でかこみ南の方を開放して、庭をこの家の中にまで引き込んである。全く新しいやり方である。

設計者は、“アメリカでは1年のうち7ケ月、又はそれ以上は、好い季節であつて、この期間は家の中に居るより、家の外に居た方が氣持がよい。故に家を開放的にして、戸外生活をより樂しくした。このダイニングポーチにあつては、たとえ嚴寒の時でも、太陽さえ照して居れば、日中はその日射と反射で、煖爐の傍に居るのと同じい”と云つて居る。

開放的にすれば、やゝもすると、プライベーシーを失ふが、このプランにあつては、2階に寢室を巧みにとつて、プライベーレーを保ち、3階は書齋で大きなテレスに續き、再び開放的になつて居るし、又街路の方にむかつては、大部分を壁にしておいて、後庭の方へ大きな窓やポーチを持ち來つたのも、巧みである。蓋し優秀なプランと云ふべきであらう。

第４案　常識的な家

（第７圖—第８圖）

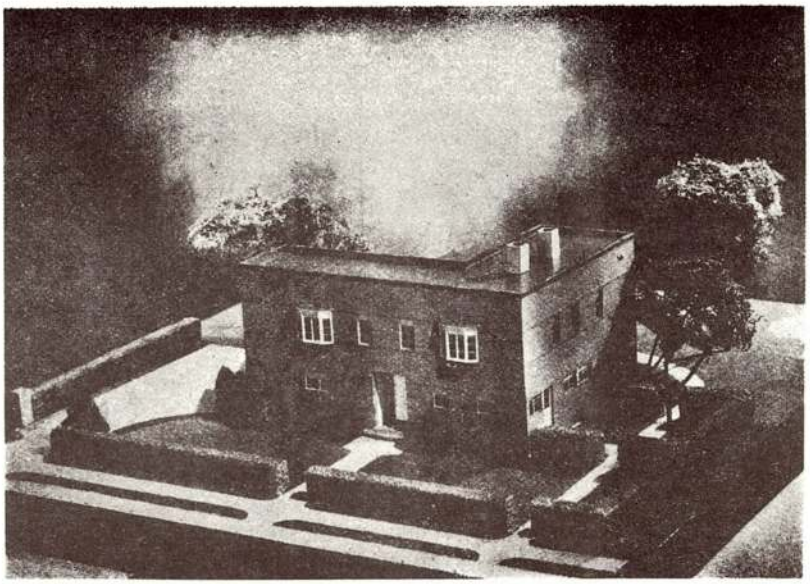
Ely Gacques Kahn 氏の作で、第７圖はその北西より見たところ、第８圖はそのプランである。

この設計者は“小住宅は常識的の事柄である”。“家族の要求はプランに、趣味はデザインに、そして建築材料の質と大さはポケツトブツクより探せ”“小さい室を數多くとるのは、實際の使用上不便であるから、大きく室をとれ”と云つて居る。

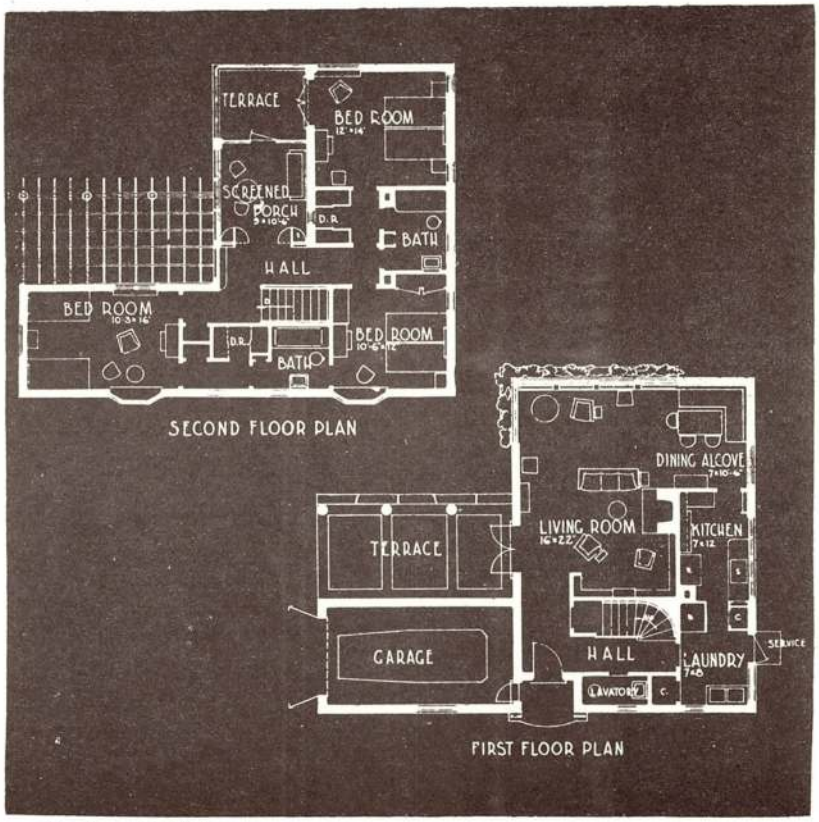
即ち小住宅に於ては、あまりこせこせと、小細工や試みをつけず、大所より見て、自然にすなをに造ることをすすめて居る。

簡單な棟瓦造りで、床と屋根は輕い鐵骨のフレーム構造か又は木造、居間と食堂は一所にして大きな室をとり、寢室だけは區分してある。台所はすべて電化しレンヂ、戸棚、冷藏庫、皿洗など便利なサイズが採用してある。

外觀も、プランをそのまゝ建てあげた何の奇もないすなをなものである。



第７圖　マーシー百貨店の理想住宅　第４案　常識的な家



第８圖　同上プラン

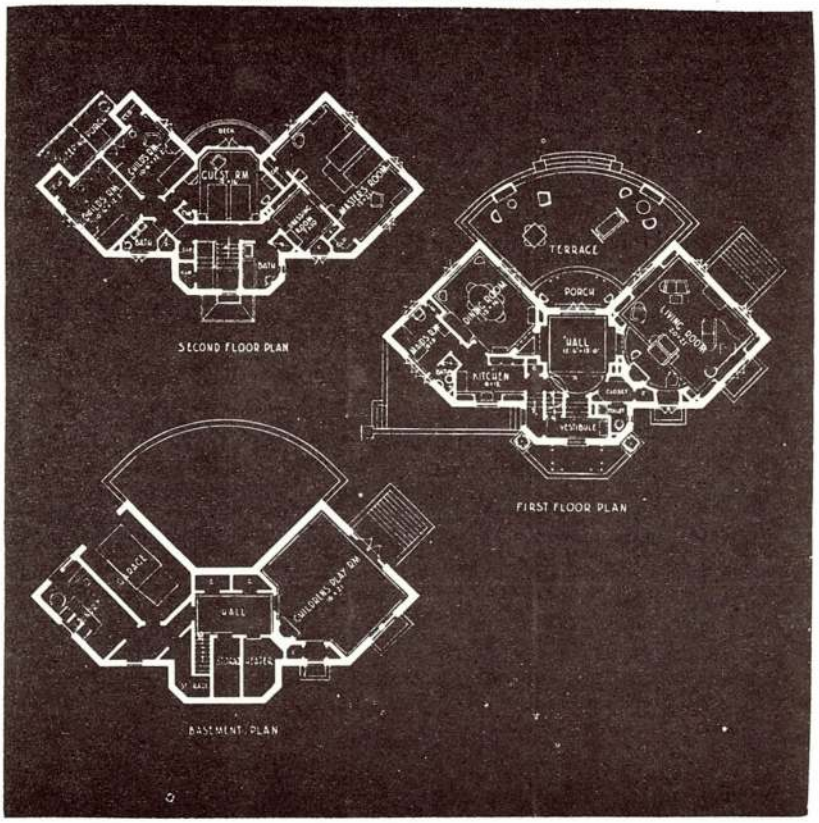
第５案　個性のある家（第９圖—第10圖）

Leonard Schultz 氏の作で、第９圖はその北より見たところ、第10圖はプランである。

郊外の小區劃の土地に建つ小住宅は、室やポーチが隣の家から覗かれて、プライベーシーが保ちにくいので、この設計者は45度だけ方向を違えた室を、兩翼につけて、プライベーシーを保つたと



第9圖　マーシー百貨店の理想住宅　第5案　個性のある家



第10圖　同上プラン

云つて居る。

45度廻つた室の爲に、外觀に特殊な個性を與へて居るが、設計者は、プランがそのまゝエレベーションになつたもので、何等の細工を施こさず、又環境に適し習慣に從ひ、傳統的な外觀を整えたと云つて居る。

地下室は石造1階2階は煉瓦造、屋根はスレート、外壁は白、窓建具は青、鐵格子は黒に塗つて調子をととのえ、内部は簡單に仕上げて、古い家具でもよく似合ふ様にと努めてあるが、プランの室の方向が變つて居るだけで、他に新し味は乏しい。

第6案　次の時代の家

（第11圖—第12圖）

William van Alen 氏の設計で、第11圖はその西北より見たところ、第12圖はそのプランである。

耐火耐水、耐虫、絶緣、そして安價を標榜し銅板張の家を推奨して居る。

壁も屋根もすべて銅板張りである點が珍らしい。

居間は、家族と客が別々になグループになる様にダンロと、ソファーと、書棚の3つの中心が造つてある。小食堂をとり、台所も設備よく、兩親の寢室を1階へ、子供の寢室を2階へとつてある。空氣調節裝置により、冬は暖氣を夏は冷氣を送る様に設計してあるが、この住宅に於てもテレス、2階の芝生テレスが重要な役目について居る。

第７案　客本位の家

（第 13 圖—第 14 圖）

Ralph T. Walker 氏の作で、第 13 圖は西北より見たところ、第 14 圖はそのプランである。

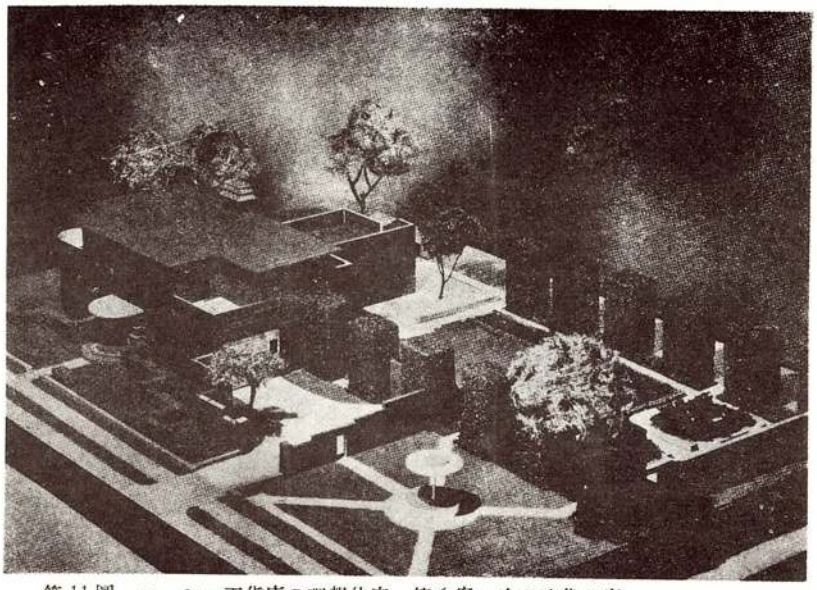
家族のプライベートな生活に適すると共に、訪れる客に對しても愉快な様に、又機械的の設備によつて、最小の勞力で最大の効果をあげる様につとめたと、設計者は云つて居るが、プランは成程、來客の爲の、又家族が面白く暮す爲めの考慮がある。先づ傳統的の住宅に新味を盛つただけで至極穩健のものと云へやう。

第８案　庭園住宅

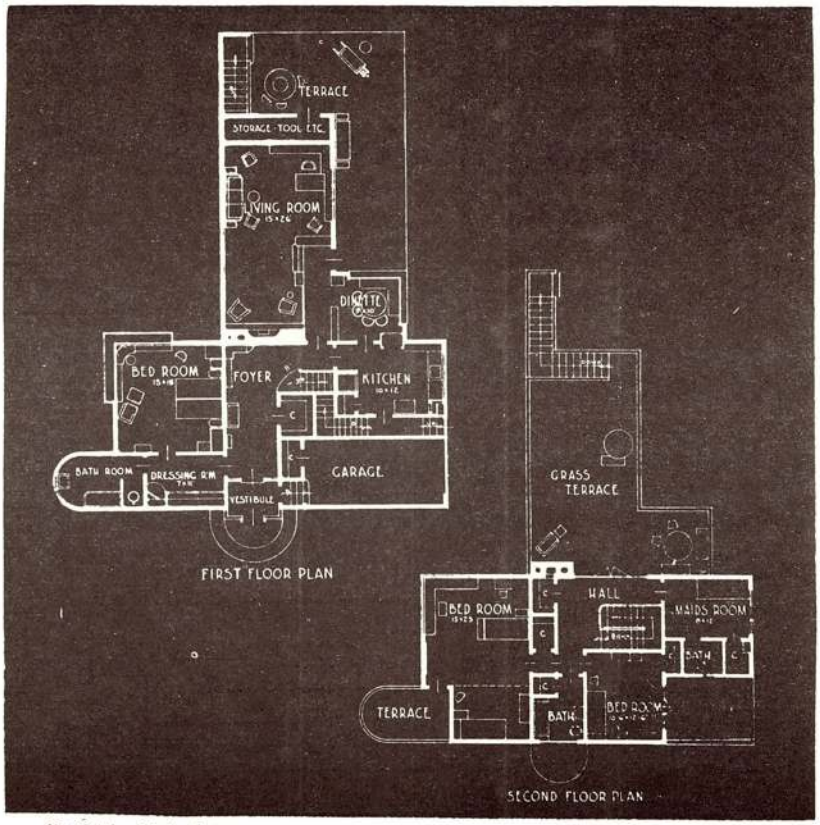
（第 15 圖—第 16 圖）

Lawrence G. White 氏の作で、第 15 圖は北東より見たところ、第 16 圖はそのプランである。

大きな居間兼食堂と、ダイニングポーチがついて居るが、別に新しいプランではない。外觀も傳統的な極めて穩健な住宅である。

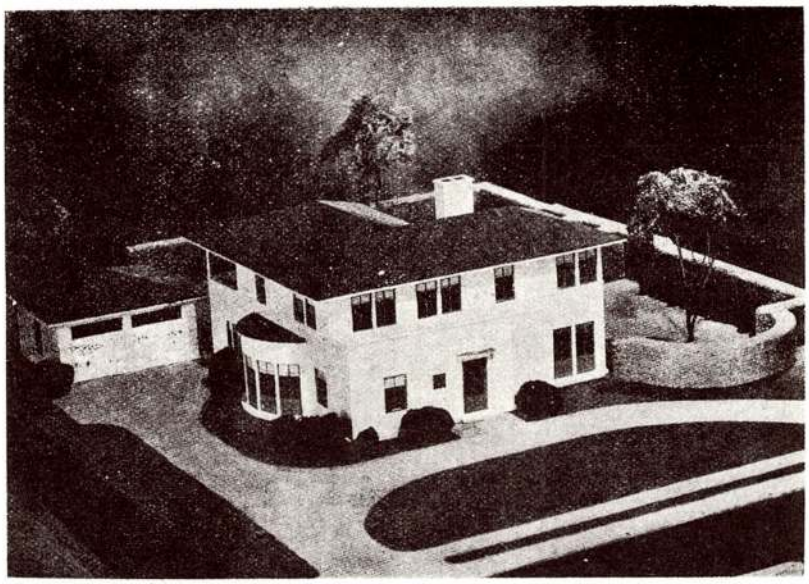


第 11 圖　マーシー百貨店の理想住宅　第６案　次の時代の家

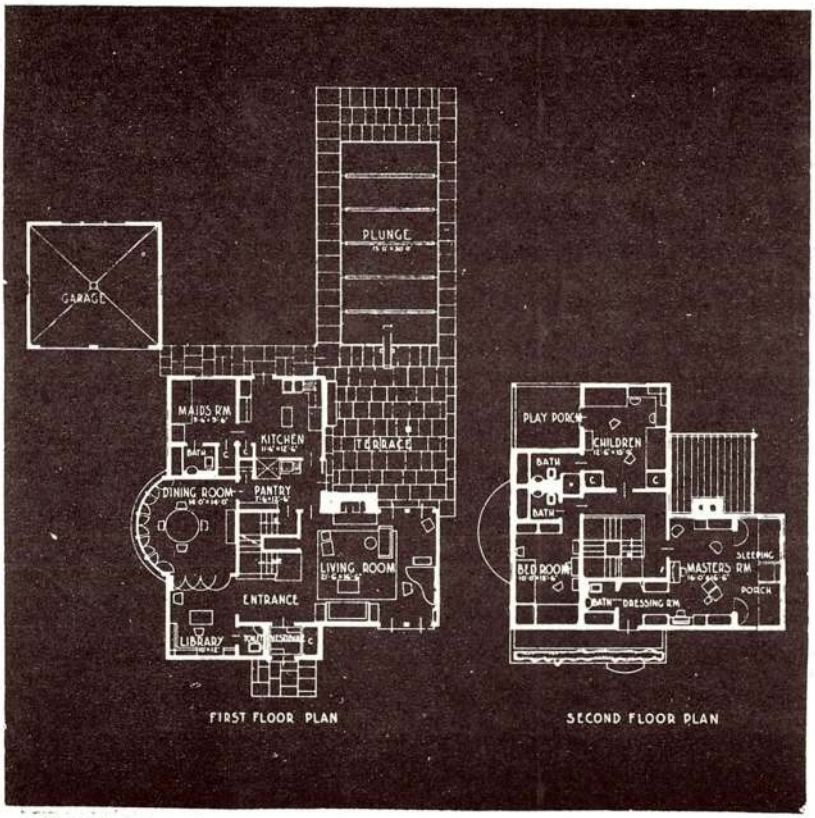


第 12 圖　同上プラン

以上マーシー百貨店の企てた、８人８様の理想案をあげたが、新しいものと、穩健なものとがあつて、現今のアメリカ住宅界が、大體いかなる範圍のものを望んで居るか見當がつくと思ふ。但しこの８案の住宅は、住宅專門の建築家でなく、寧ろ高層建築を專門とする建築家の手によつて設計された點に、氣をつけねばならぬと思ふ。



第13圖　マーシー百貨店の理想住宅　第7案　客本位の家



第14圖　同上プラン

現に住宅專門の建築家、例えばフランク、ロイド、ライトなどは、散々にこれをこき下ろして居るから、これが最もよいとは思はれぬ良否は別として、こゝではたゞ新しい傾向として出した次第である。

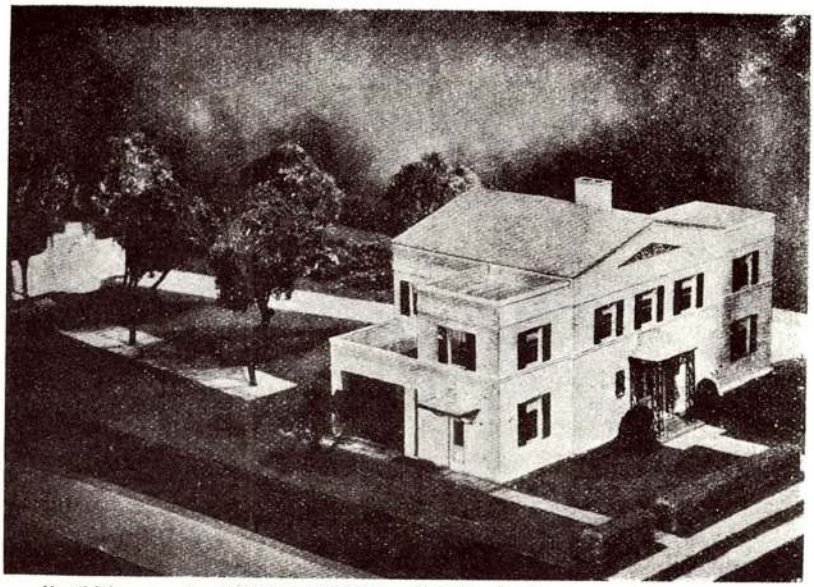
勿論アメリカに建つて居る、又現に建ちつゝある數多くの住宅は依然として第17圖の様なコロニヤル式のものが絶對多數を占めて居るが、しかし住宅專門の建築家の中には、以上述べた8案よりも、更に新しい設計をやつて居るものもある。次にその2例をあげるが、第18圖はロスアンゼルスの山腹にある Richard Neutra 氏設計のもの、第19圖はそのプランである。又第20圖は Howe & Lescuze 氏の設計になるもの、第21圖はそのプランで共にアメリカ住宅建築界の先端を行く家である。

3. イタリーの新しい住宅

イタリーに於ける住宅界の新傾向は、1933 年開かれたミランの博覽會に出品された住宅に見られる。

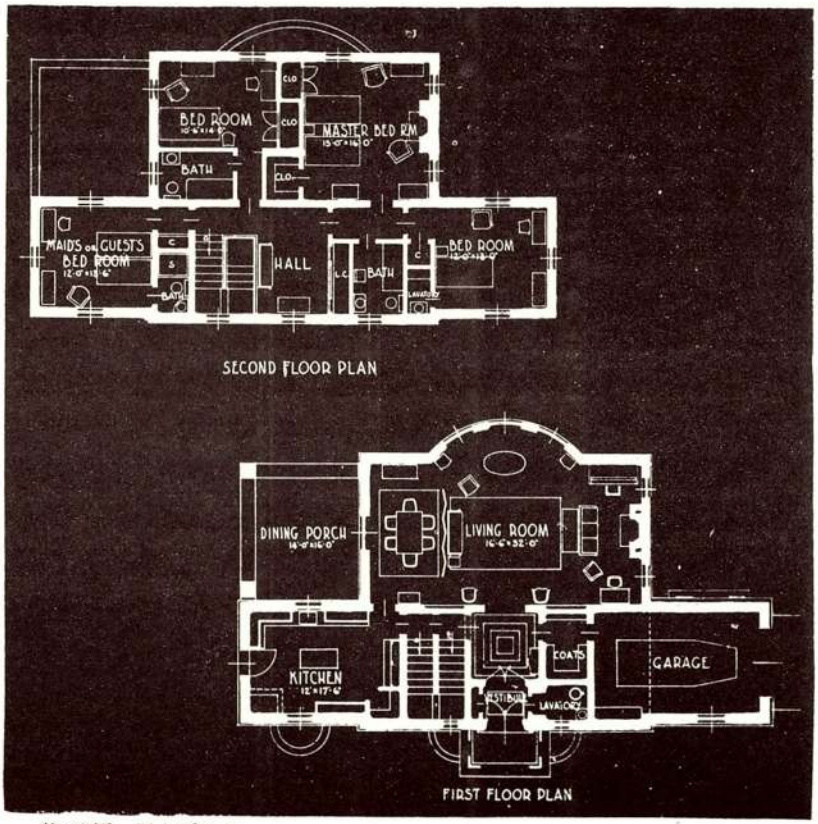
尤もこれは博覽會むきのもので、住む家と云ふより、寧ろ見る家と云つた方が至當かも知れない住居の現實に即しない特殊の住宅であつて、一般の住宅界がこゝまで、變つて來て居ると云ふ意味

ではないが、兎に角イタリー住宅界の新しい傾向を指して居る點で玆に掲げる。



第15圖　マーシー百貨店の理想住宅　第8案　庭園住宅

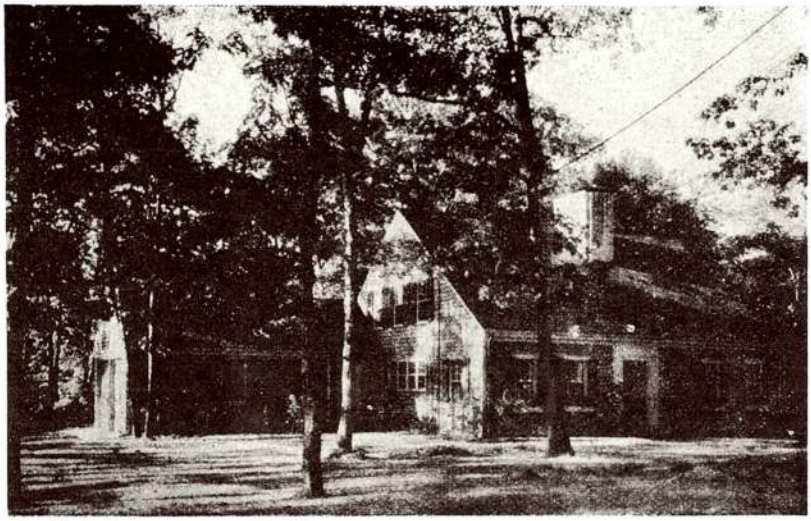
第22圖は Mies van der Rohe 氏の設計したサマーハウスである。プレーンの壁と天井と、プレートガラスの大きな窓から成り立ち、極度に簡明なものであるが、これの單調を補ふ爲に壁にはフレスコの繪が描いてある。第22圖は道から塀越しに庭と家を見たところで、色大理石の門が右下に見える。第23圖は居間の中より、道の方を見たところである。



第16圖　同上プラン

次に Pollini & L. Figini 氏設計の藝術家の家がある第24圖はその外觀で、濃赤色の煉瓦と白堊の壁とが森の綠を背景として、はつきり浮んで見える。內部は大きな室を、居間、工作室陳列室、食堂に用ひ、壁やドアーによらずに整然と區劃されて居る。これも藝術家の家と云ふ、特殊の場合で、一般の住宅とは大分緣遠いかも知れないが、住宅問題解決の試みとして興味深いものである、第24圖はその外觀、第25圖はプラン、第26圖は庭の詳細、第27圖は中庭より書齋を見たところである。

その外、第28圖は自動車庫の代りに、飛行機格納庫を持つた飛行士の家で一階が格納庫と作業室、2階が住ひである。第29圖はそのプランである。



第17圖　コロンヤル式の家

第30圖は、熱帶地方に適する外部に窓の少ない家で、ポンペイの家の様に中庭にむかつて大きな窓出入口が開いて居る。第31圖はそのプラン、第32圖はその中庭を示す。

以上揭げたイタリーの先端住宅に於てもポーチ、テレスが重用されて、住宅は庭園と相交錯の關係にあり、庭は家の內まで侵入し、家は庭の外まで延長して居るのに氣附かれるであらう。これが新しい住宅の著しい傾向である。

4. オランダの新しい住宅

オランダでは、郊外のジードルングが、今なほ盛んに建てられて居る。これ等は大體土地に親しみのある、この國の傳統的樣式の住宅、例えば急傾向の屋根、三角のゲーブルを持つて居るが、この外に英、白、獨、の交通の要路にある關係上、その影響を受けて、鄉土式とは全然趣のかはつた新建築がある。この派に屬する新しい住宅を一つあげて見ると、第33圖の Brinkman & van der Vlugt 氏作のロツテルダム郊外の家がある。

一體ロツテルダムと云ふところは、アムステルダムと異なる新建築が多い所である。アムステルダムに所謂オランダ傳統式の建築が多いに反し、ロツテルダムにはインターナショナルな新建築が多い。

第33圖はその外觀、第34圖はそのプランであるが、こゝでもテレス、ポーチが重用されて居ることが判る。

5. フランスの新しい住宅

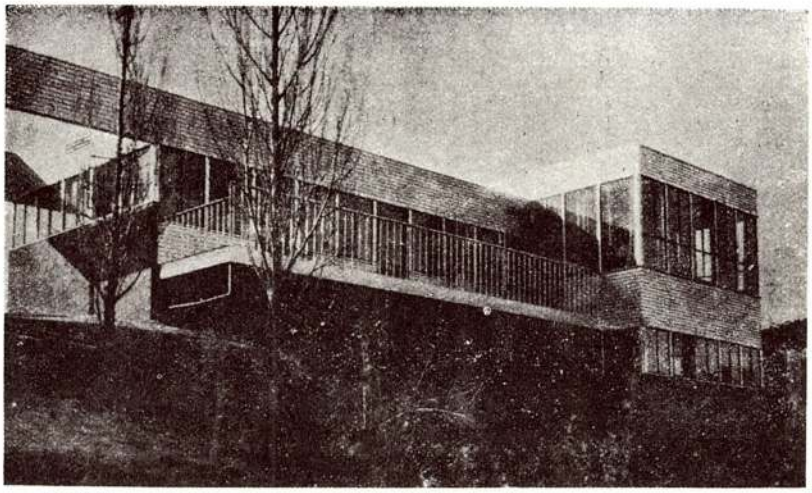
フランスの新住宅を書くには先づ大先輩 Corbusier を引出さねばならぬ。彼は有名な言葉“住宅は住む爲の機械である”と云つて機能主義的な住宅の計劃をなし、なほ小住宅の工場製產、從つて規格統一、標準化などあらゆる新說を出し、既にその理論による新しい住宅を建てて居るが、こゝでは最近の作1つをあげる。

第35圖は彼の近作 Pcissy にある Villa Savoys で、大洋に浮ぶ優秀船の如く、遊步甲板、船室、ブリツヂを持つ超構造的の建物である。

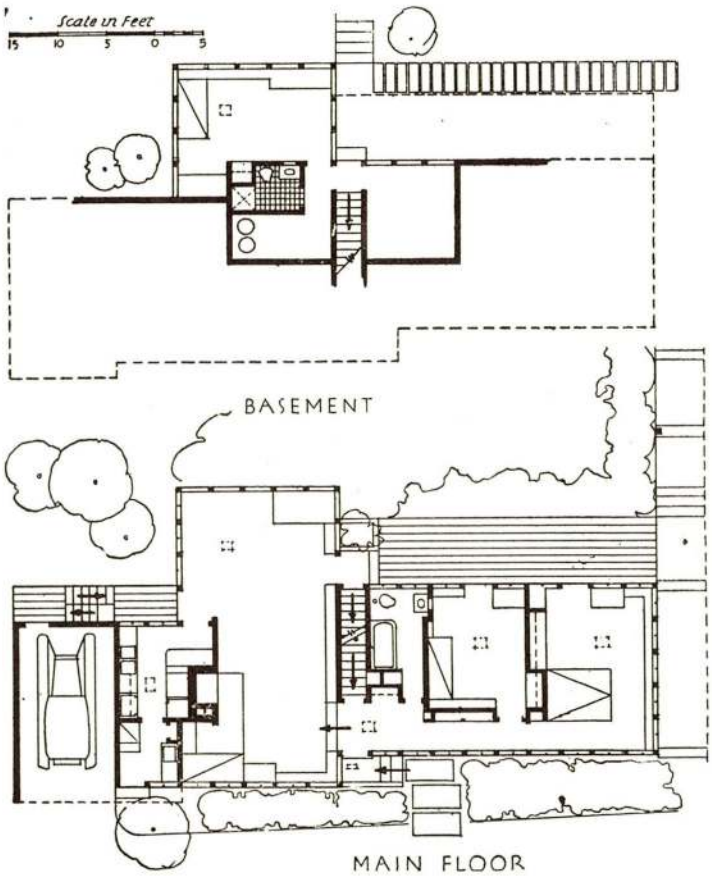
これも避暑の爲の別莊であるから、普通の住宅とは同一に論ぜられず、住宅としては或は例外の

方に屬するかも知れぬが、新しい傾向を覗ふ爲に引出した次第である。

外觀は一見して異樣の感に打たれるが、1 階には大きな自動車庫と、飛行器格納庫と、それに運轉手や使用人の室や倉庫をとり、これは汽船の汽關室と船員室と貯藏室にあたる。



第 18 圖　ロスアンゼルスの家 Richard Neutra 作



第 19 圖　同上プラン

2 階へは階段でなく傾斜道をのぼつて上る樣になつて居る。

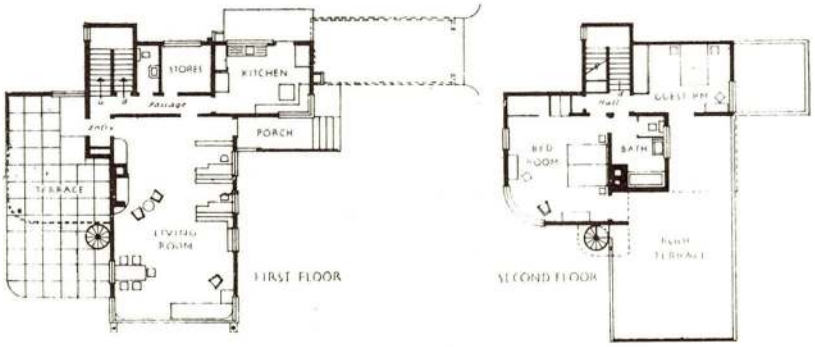
2 階は居間、食堂、台所寢室などが廣いテレスをかこんで、大きなガラスで仕切られ、遊步甲板に船室がある樣に感ぜられる。テレスの敷石の間には彼の慣用手段たる芝草を植える。居間食堂は勿論であるが台所でさえも充分の明るさと、すばらしい眺めを持ち、あらゆる設備が施され、主人自から又主婦自からが料理したくなる位に、きれいにしてあるのは、いかにも別莊らしい氣分を十分に發揮して居る。

3 階には主人室、日光浴室などがある。すべて戶外生活の快適をより一層享受する樣な設備で、日本ならば、さしあたり春秋の好季には快いものであらうと考へる。第 35 圖はその外觀、第 36 圖はそのプランと斷面圖、第 37 圖はテレスより居間を見たところである。

次に醫院住宅ではあるが Pierre Chareau 氏作の鐵骨フレームとガラスブリツクの家を見やう。彼



第20圖　ニューハートフォードにある家 Howe & Lescage 作



第21圖　同上プラン

は科學者の家は、學校や病院と同じ様に健康的であらねばならぬと主張し又鐵ガラス、コンクリートを生かして使ふべしと唱へて居る

第38圖はガラスブリツクの壁と大きなガラスの窓のある内庭を示し、第39圖は同じく玄關、第40圖は2階の大ホール、第41圖はプランを示す。

フランスの新建築を論ずるにあたり忘れてならぬ新人 Mallet-Stevens 氏作の Roubaix にある、9家族の爲の住宅は、やゝ穩健なところを示す。

第42圖がそれであるが、建物に接してプールを設け、建物の影をこれに寫したところに新機軸の一片を見せて居る。

6. ドイツ、オーストリー、ハンガリー、スイスの新しい住宅

ドイツ、オーストリー、スイス、の諸國では、つとに新住宅の設計や施工が盛んであつて、現今の新建築は、獨墺にその源を發すると云つても過言でない。從つて以上に述べた様なアメリカ、イタリー、オランダ等の新しい住宅は獨墺ではあえて珍としない。その理論も様々あり、實例も數多いがあまり長くなるから、こゝでは各國につき1例づつ擧げることにしてパスさせよう。

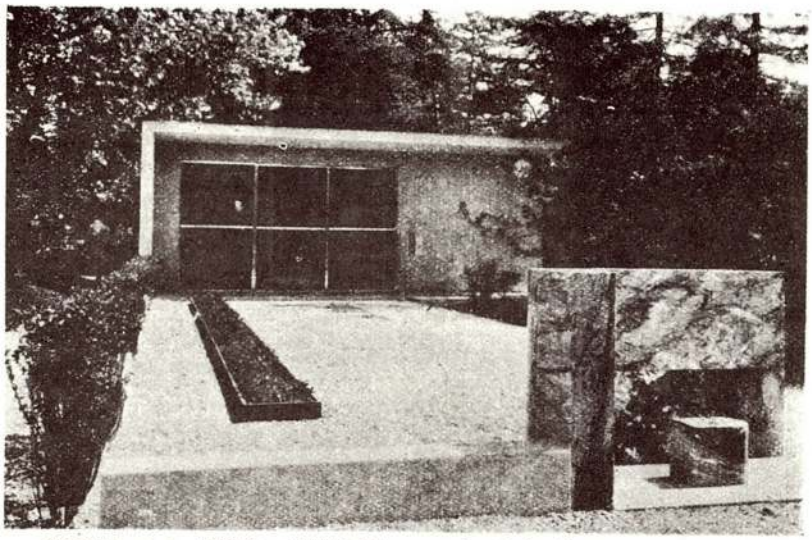
第43圖は、ベルリン近郊の家で、第44圖はそのプラン、建築家は Frity Glentz 氏である。

第45圖は、ウヰーン（オーストリヤ）の近郊にある家で、Armand Weiser 氏の設計になるもの、第46圖はそのプランである。

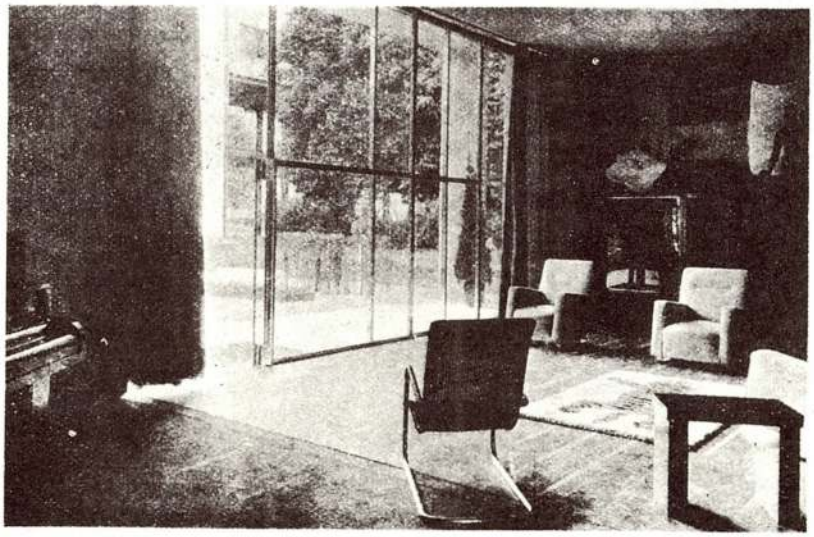
第47圖はブダペスト（ハンガリー）郊外にある家で、Ludwig Kozma 氏の設計になるもの、第48圖はそのプランである。

第49圖はブルユン（スイス）にある住宅で、Mies van der Rohe 氏の作、プレートグラスの大きな窓とテレスに注目されたく、第50圖はそのプランである。

7. シカゴ博覽會の新住宅



第22圖　ミラン博覽會の夏別莊 Mies van der Rohe 作



第23圖　同　上　居間より庭を見る

最後に、1933 年のシカゴ博覽會に出品された、今日の家と、明日の家を擧げることとする。

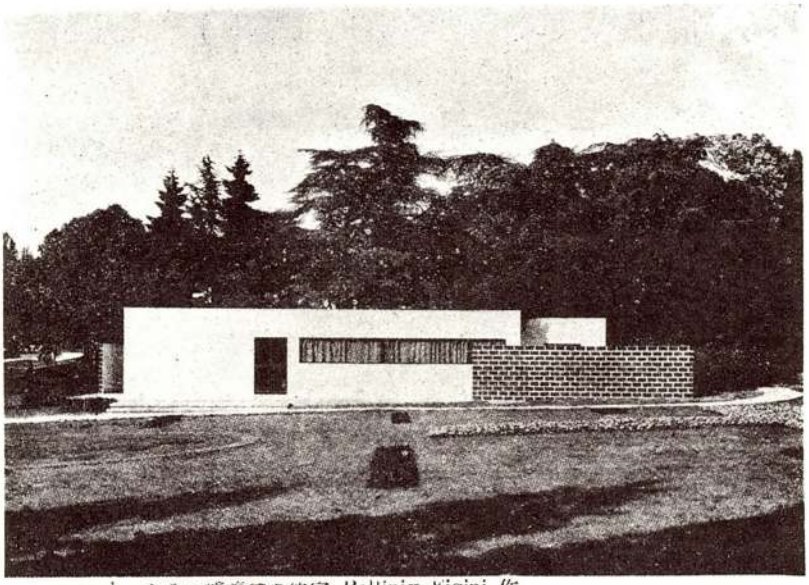
今日の家は、(1)安價と(2)組み立の容易と、(3)どんな廣さにでも伸縮が容易であるのを目的に考案された住宅で、すべてのメンバーを工場で製作し、フレームの組立てに 3 日、壁を張り床を造り、屋根を架し、戸棚、暖房機械の据置など一切の仕上に、3 週間あれば、住み込む迄に出來ると云ふのである。

先づフレームを組み立て外壁には thermasote、內壁には gypsolite と云ふ、いづれもボード、テツクス類を、ボート又はネジ針で留める様になつて居る。價は $ 8.000 の由である。

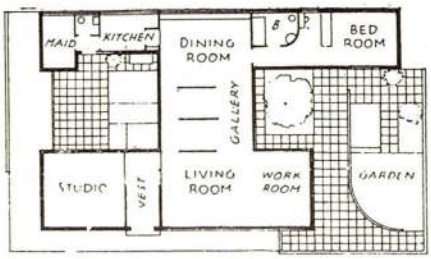
第 51 圖はその外觀、第 52 圖はそのプランである。

明日の家は、George Fred Keck 氏の設計になるもので、機械裝置と、新しい建築材料の宣傳の爲に建てた家であるから、或は現代の生活に適合しないかも知れぬが、明日の家として幾多の暗示を投げて居る。

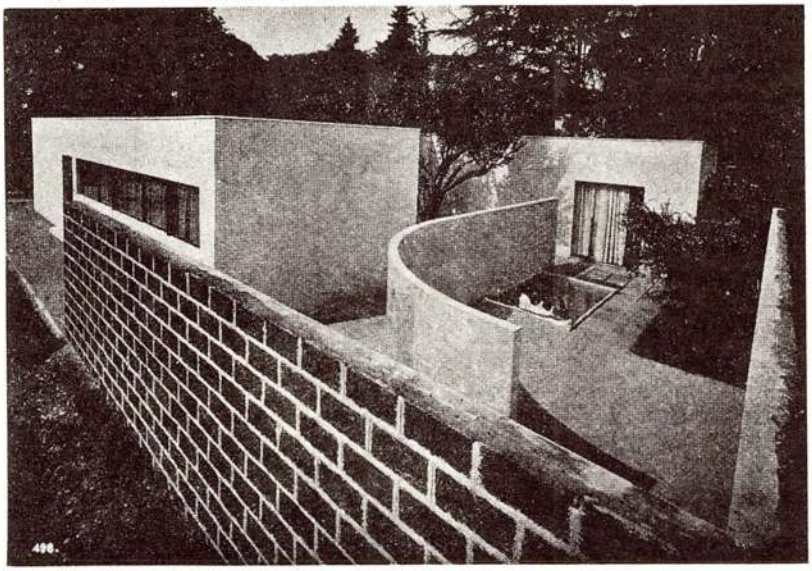
先づ注目すべきは、この家の大きなガラスの窓がすべて、プレートグラスの嵌殺しで、開閉することの出來ないことである。しからば換氣はどうするか、通風は如何、又ガラスの薄い壁では暖房の効果は如何と云ふに、これ等はすべて、機械裝置により、人工で調節する。空氣を洗淨し、溫度の調節から、暖房、冷房、氣流調節、排風など戸外と絶緣して、戸外よりも遙かに優良なる狀態におかうとするのである。但し太陽の光線と熱線は利用するとして、大きなガラスの窓と云ふより壁が



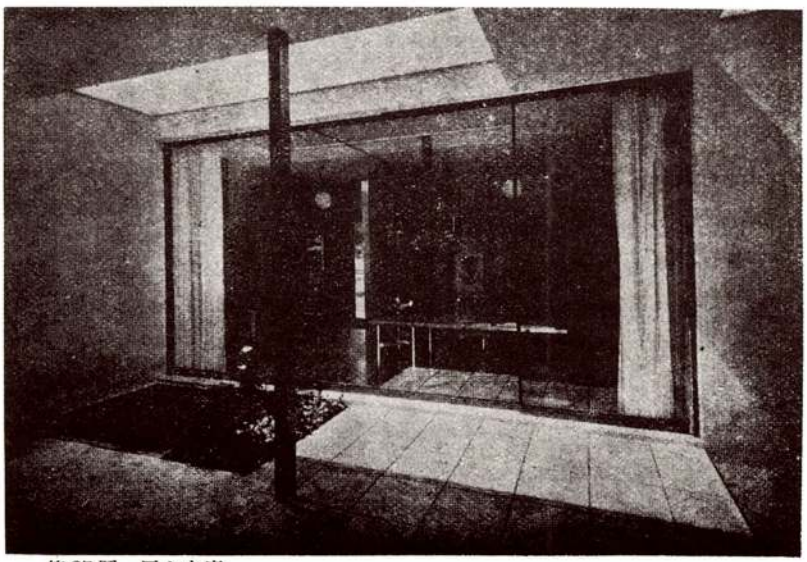
第24圖　ミラン博覽會の住宅 Pollinix Figini 作



第25圖　(24圖)のプラン



第26圖　同上庭の詳細



第27圖　同上中庭

プレートグラスで出來て居ると云つて差支ない。

構造は、コンクリートの基礎と床を造り、その後は乾式構造法をとり、鐵のフレームを工場で作り、現場では組立てるばかりであるが、一切の仕上に早くて1ケ月遲くとも2ケ月あれば十分で、これを壞すには7日あればよいと云はれて居る。

1階の壁は、外部がPhenoloid ボード、內部がプラスターボード、窓はプレートグラスの嵌殺しで、プレートグラスの大さが十二角形の家のプランを定める。床は石膏板に、鐵の根太、間壁はボードの上をグラス、木、ラツカーでカバーしたもの屋根は防水のアスファルト板である。

暖房のロスは、11月中暖房された實驗によれば、ガラスか嵌め殺しの爲に冷氣の侵入、暖氣の

逸出がなく、外壁の大部分がガラスであるにかかはらず、能率はよく、外氣が零下7度の時も、別に暖房の費用は增加しなかつたと報告されて居る。

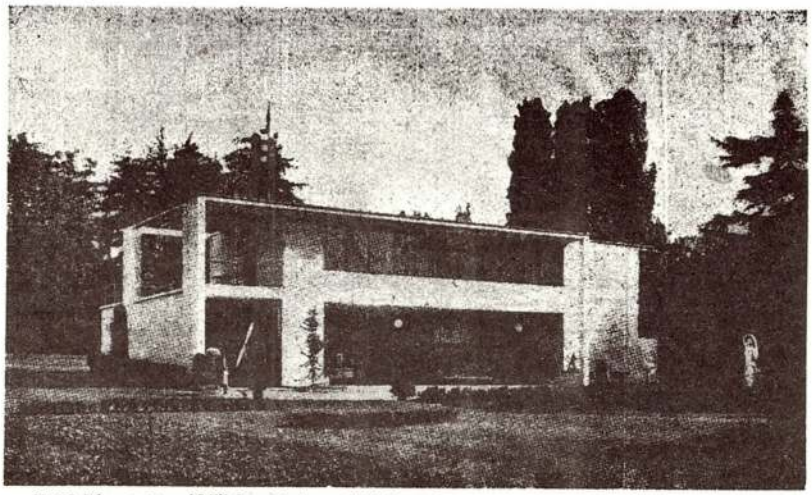
1階は自動車庫と飛行機格納庫、工作室、機械室等、2階には居間、臺所、寢室、子供室がある。

これが日本に建つたとしたら、夏の暑さはさぞきびしいだらうと思はれるが、冷房裝置をすれば凌がれぬことはあるまい。しかし前にも述べた様に、試作の家であるから、現在の生活様式には適して居ない様である。これを住みこなすには生活様式から變へて行かねばなるまい。

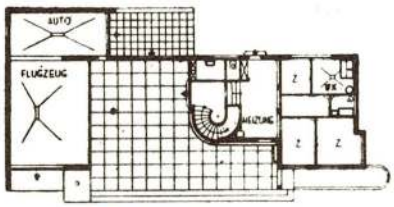
第53圖はその外觀**第54圖**はそのプランである。

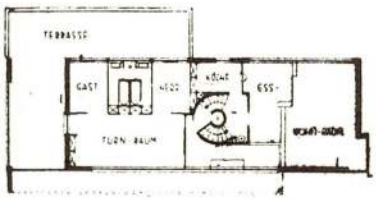
8 結 論

以上筆者は展覽會に陳列された模型住宅、

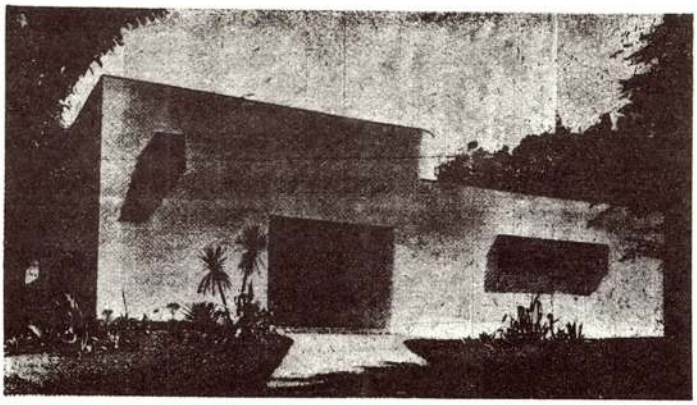


第28圖　ミラン博覽會の住宅　飛行家の家



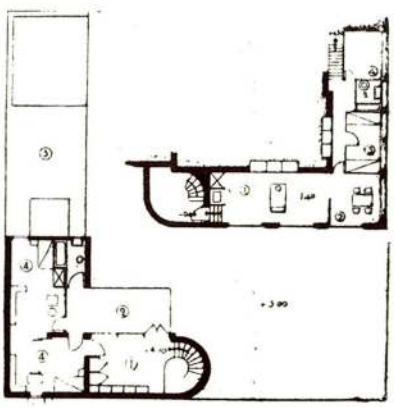


第29圖　同上プラン

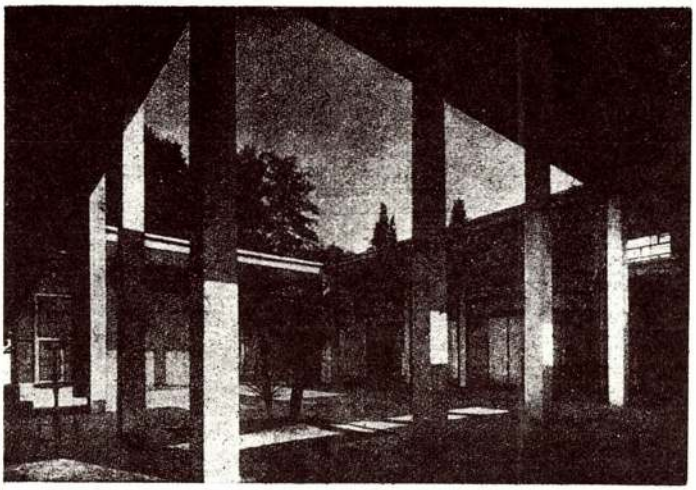


第30圖　ミラン博覽會の住宅■熱帶の家

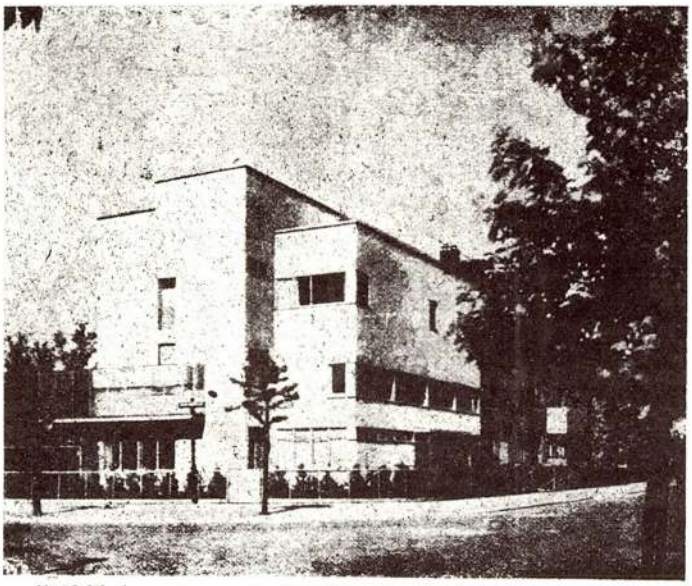




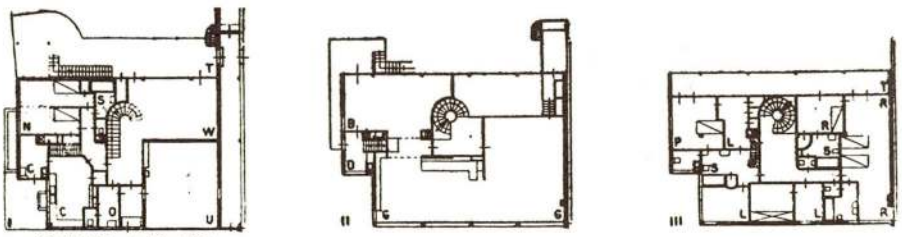
第31圖　同上プラン



第32圖　ミラン博覽會の住宅　熱帶の家の中庭



第33圖　ロツテルダム郊外の家



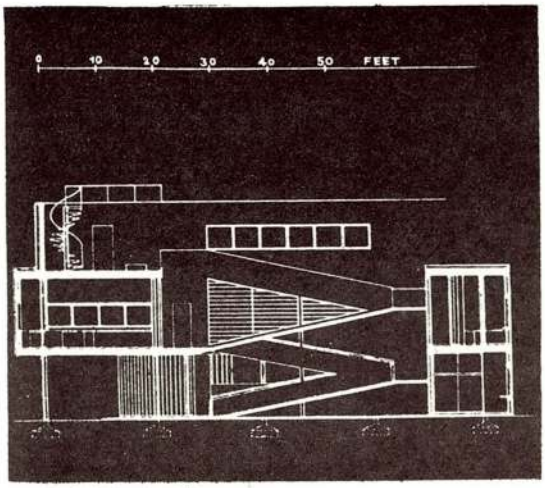
第34圖　同上プラン

博覽會に出品された特殊な住宅、別莊、等を主として揭げて來たが、これは、新しい傾向を探すには、現實の住宅よりも、試作のものの方に種が多いからである。

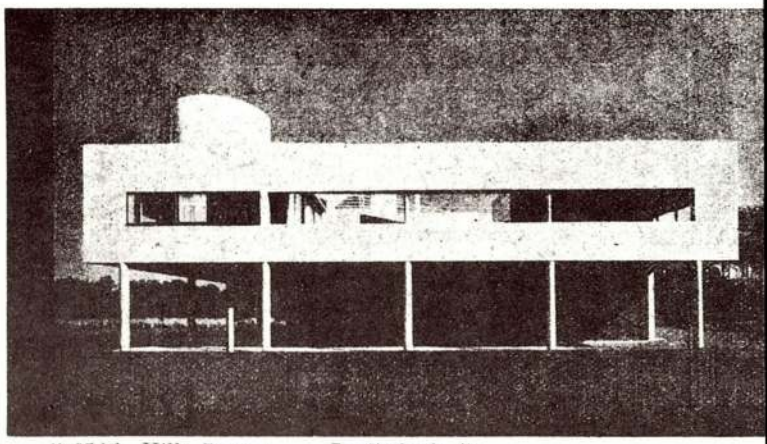
故に此所に揭げた様な住宅が、歐米の國々到る所に數多く建つて居ると誤解されないことを希望する。歐米に現に建ちつつある一般大衆の家は、依然として舊來の傳統様式のものであつて、新しい住宅はその中の 1000 に 1 つ 10000 に 1 つである。殊に、博覽會に出品されて居る様な特殊の住宅は、一般大衆の住居としては、まだまだ相當の距離がある様に思はれる。

蓋しかかる新しい住宅に住むには、先づ住ひ方が變つて行かねばならぬ、そして大衆の住ひ方の變るのは一朝一夕のことではない。

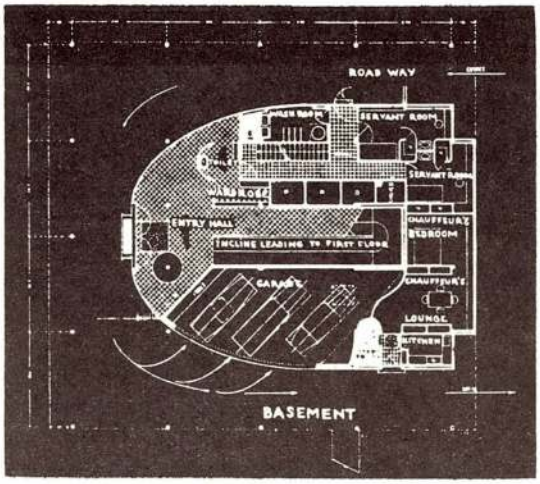
しかし住み方が變らぬとは誰も保證しない、既にチョンマゲがオールバックとなり、袴がモーニングと變つた世の中、やがては住宅も現在の型式を揚棄して、新しい型式になる時があらう。その時に上に揭げた様な型式になるかどうかは分らないが兎も角も、ここでは現在の歐米に於ける新しい傾向をここにかき集めた。これが良いか悪いか、批判する丈の研究もなく、又日本にこれを招來して將して、日本の氣候、風土に適するか否かにいたつては、全然未知のことに屬する。從つて筆者はこれ等の住宅を賞讃もし



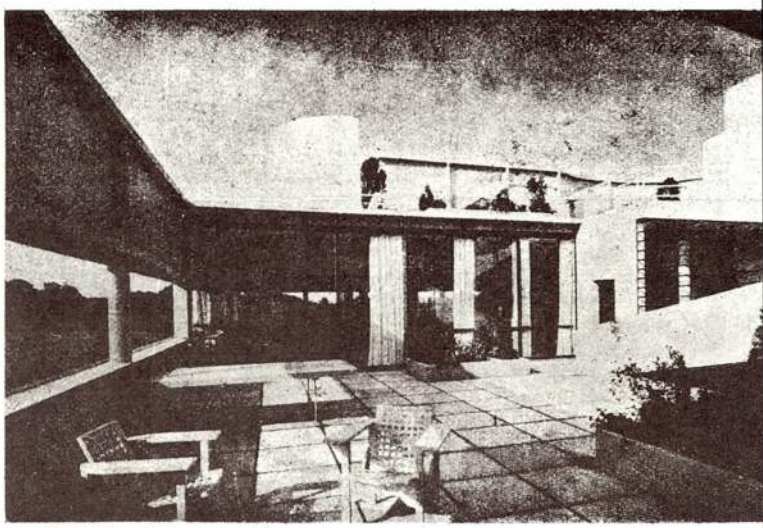
第36圖　同右斷面



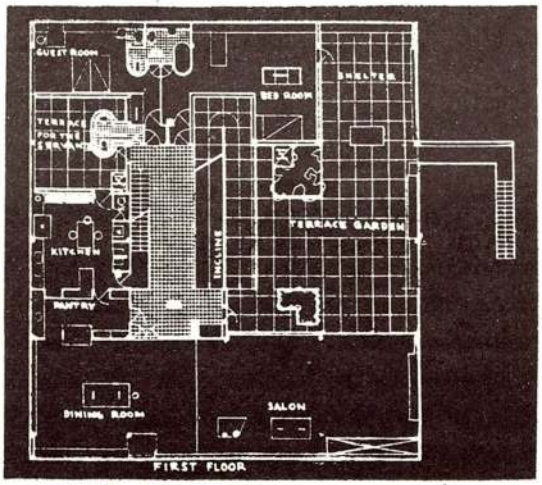
第35圖　Villa Savoye　　Le Corbusie 作



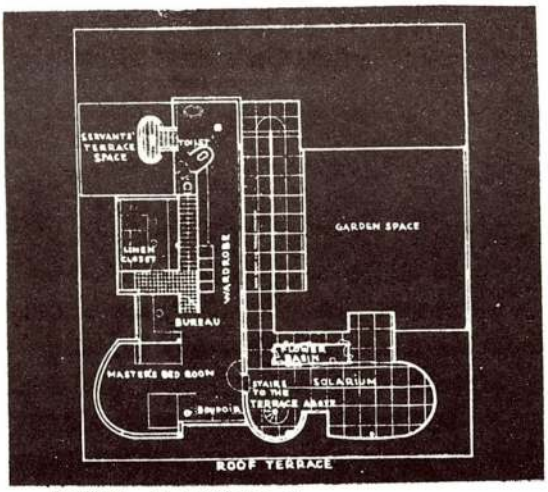
第36圖　同右一階プラン



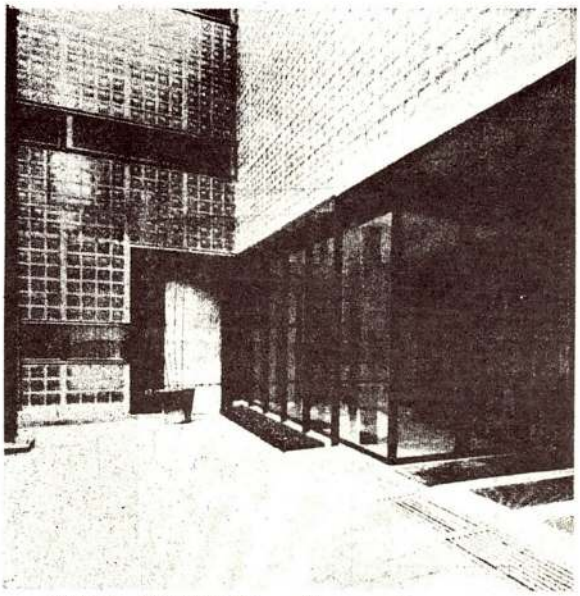
第37圖　同上テレス



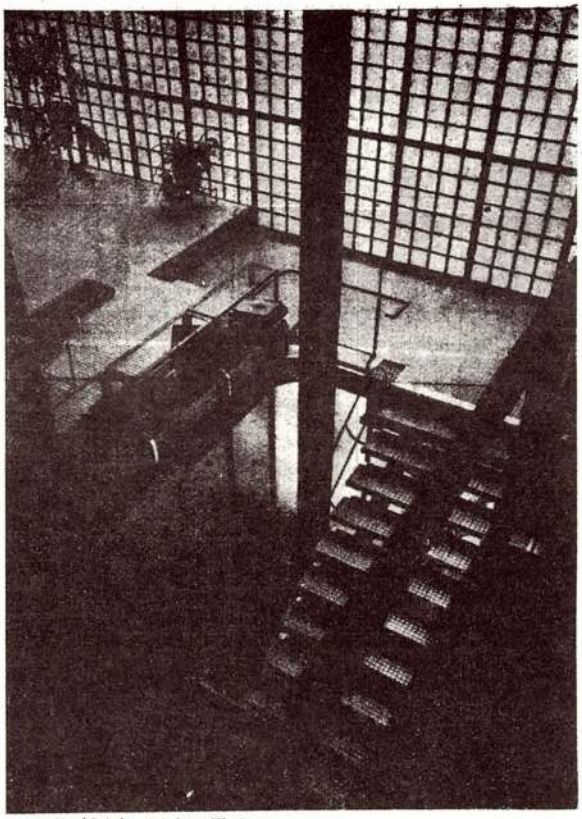
第36圖　同上二階プラン



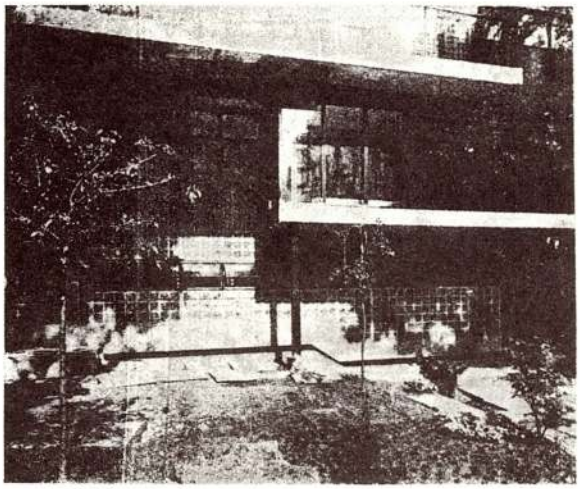
第36圖　同上三階プラン



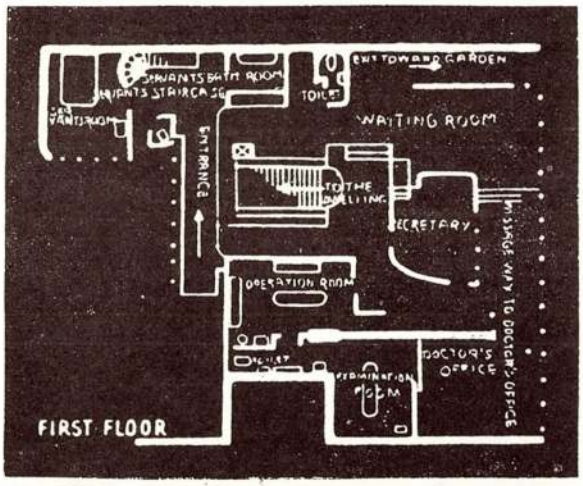
第38圖　醫院住宅 Pierre Chareau 作



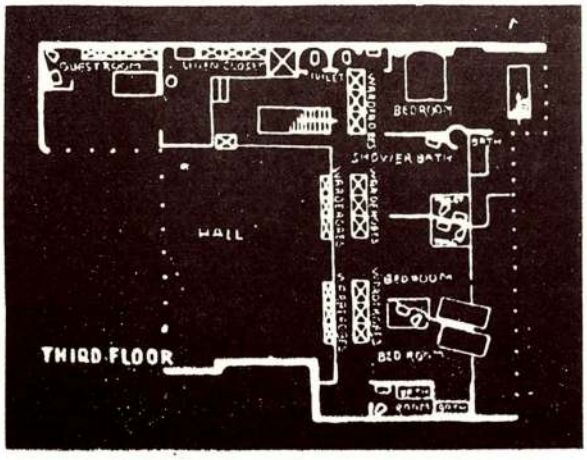
第40圖　同左2階大ホール

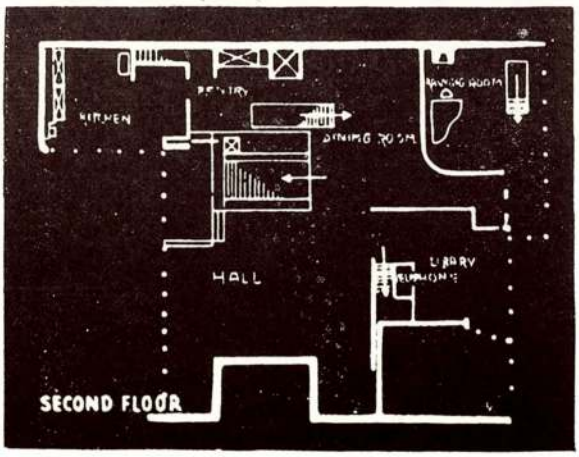


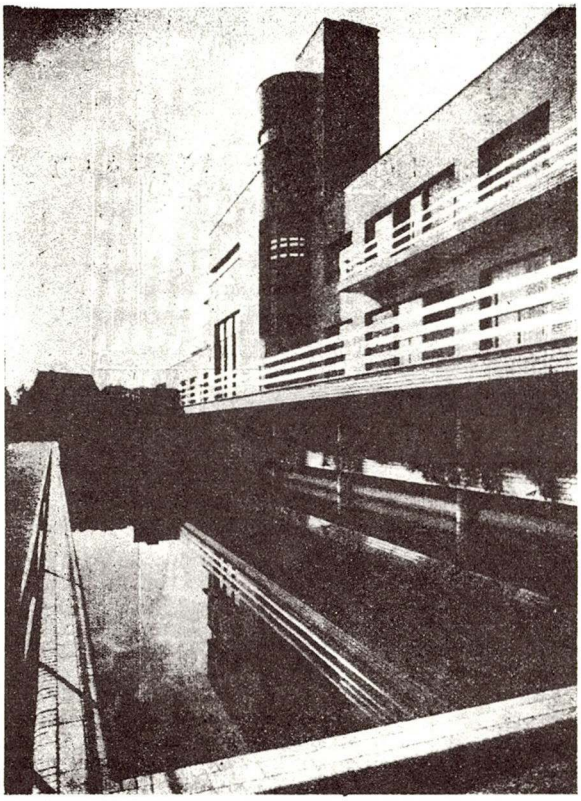
第39圖　同上玄關



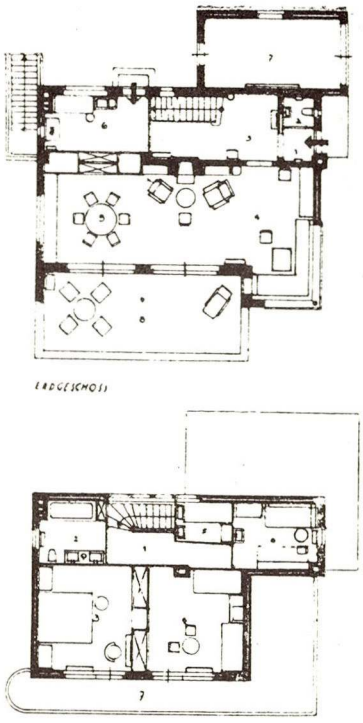
第41圖　同上各階プラン →
↓↘



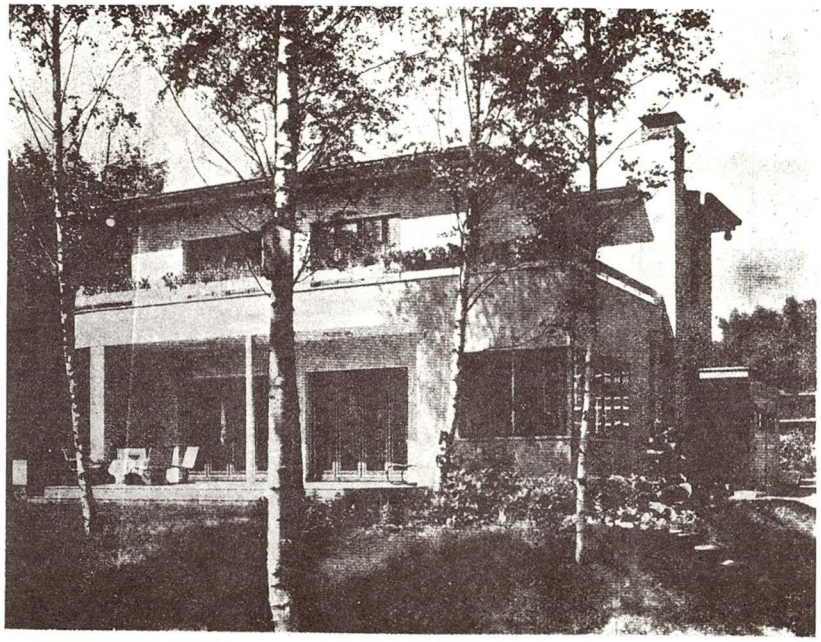




第42圖　郊外のアパート Mallet-Stevens 作



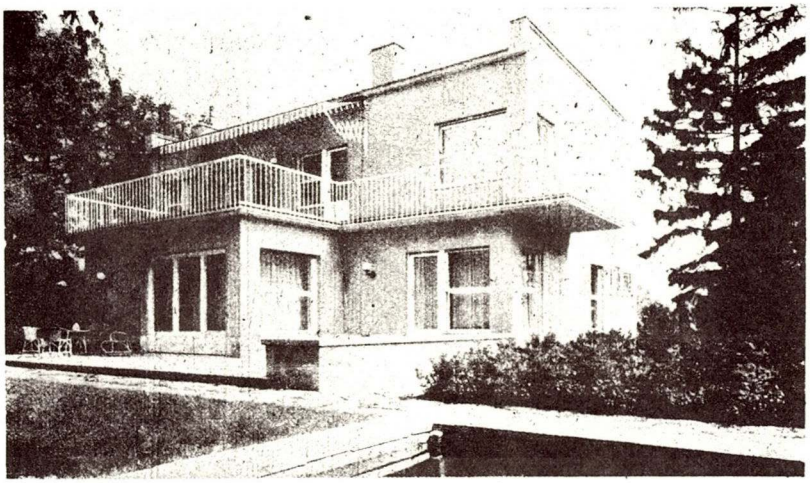
第44圖　同左下のプラン



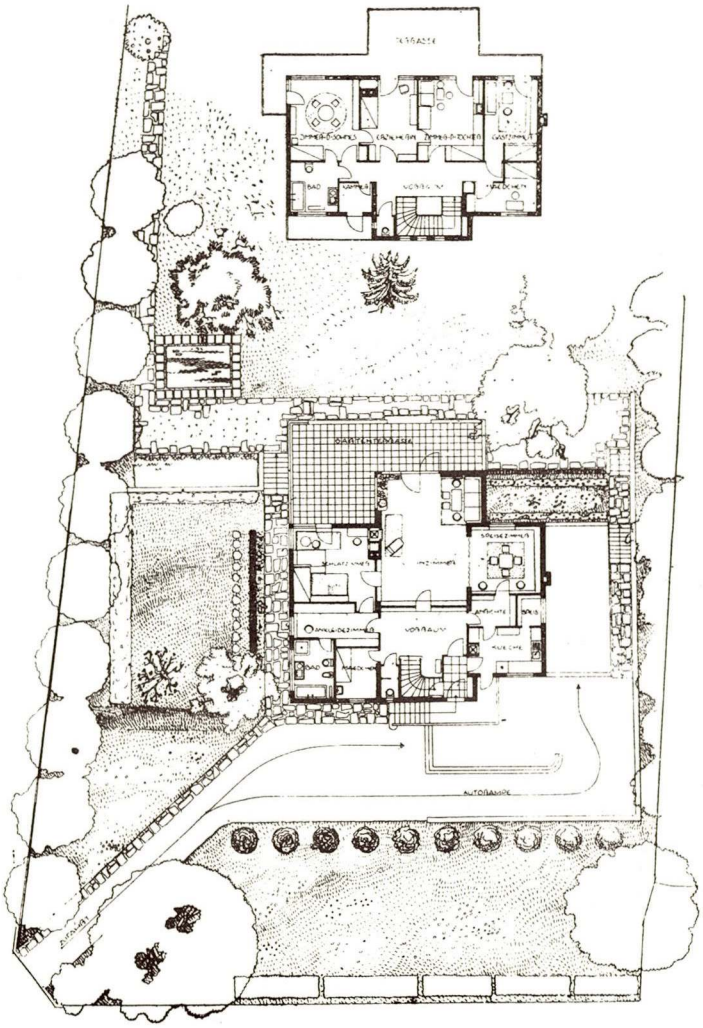
第43圖　ベルリン郊外の家 Frity Glantz 作

なければ、けなしも出來ぬ理である。

却說、上に揭げた住宅を通觀して、最も目立つのは構造法に於てはユニツトコンストラクション、による工費の安價と工期の短縮。設備に於ては、暖房、冷房、冷藏、清掃、其他の機械設備による



第45圖　ウキン近郊の家 Armand Weiser 作

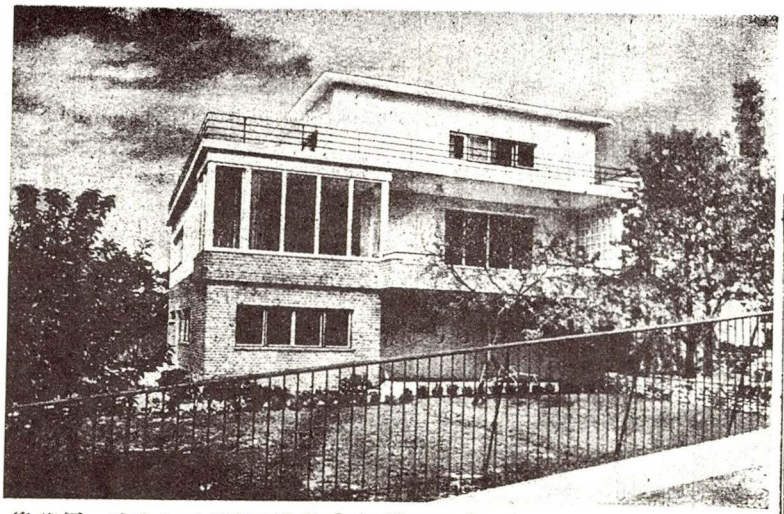


第46圖　同上プラン

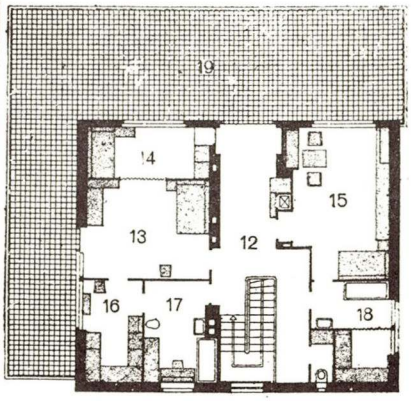
能率の増進。プランに於てはポーチ、テレスの重用による住宅と庭園の交錯である。

このうち構造法、設備の方の問題は一先づ別としてプランに於けるポーチ、テレスの問題をここに取り上げ結論に代えることとしたい。

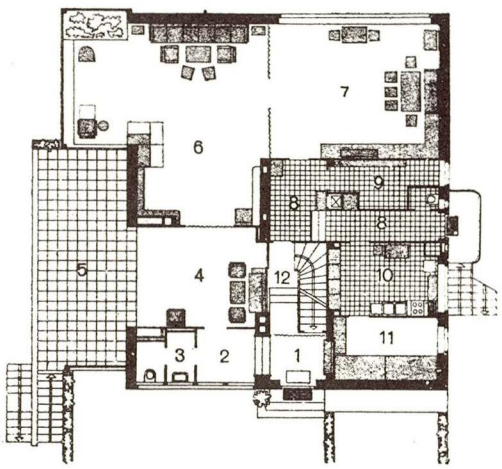
マーシー百貨店の理想住宅案に於ける日光の家にしても、戸外住宅にしても、又コルビュジエ作の避暑別荘にしても、其他いづれもが、ポーチやテレスの如き半ば庭園、半ば住宅の役目をなす部分を重要な位置に据え、これを仲介として、住宅が家の内から家の外に迄進出し、又庭園が家の中まで侵入し、住宅と庭園が交錯して居るのは、既に述べたところであるが、これは住宅に對する、建築家の解釋の變化であつて、今迄は住宅と云ふものは、自然界の暴威を防



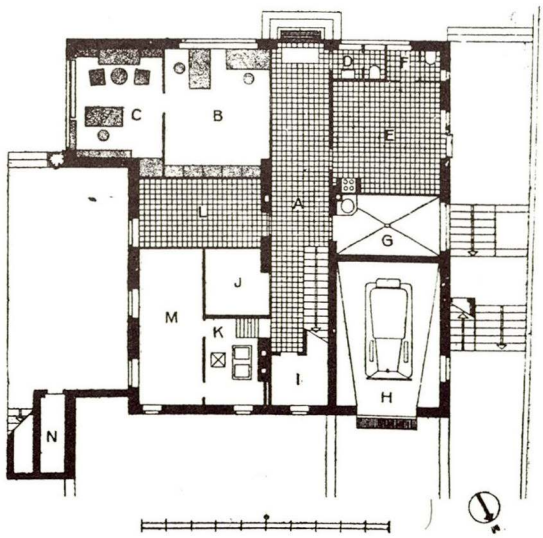
第47圖　ブダペスト近郊の家 Ludwig Kozma 作



禦し、家の内で人をして安心して生活せしめるものと解釋して居た。その爲に壁を厚くし、窓を小さくし、屋根は雨水のとどこうらぬ様傾斜をつけて、丈夫な家を建てて居た。なる程これでは、如何なる暴風雨にも耐え、又如何なる極寒にも、家内は暖房で春の様にすることが出來る。住宅はこれでよいとして居た。

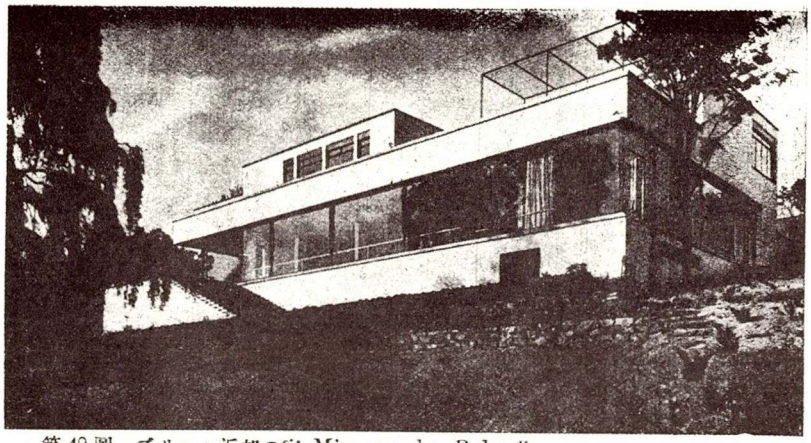


しかし、この様な住宅は、自然の暴威を完全に防禦する代りに、自然の恩惠をも十分に拒否する。自然は暴威を振ふ時ばかりではない。夏の夕べ、又春秋には快適な恩惠を與へる。頑丈な家の圍によつて、これをしも拒否すると云ふ法はあるまい。この快適なる時季に於て、より十分にこの恩惠を享受してこそ、眞の住宅ではあるまいか。即ち暴威はこれを拒否し、恩澤はこれを享受する。これが新しい住宅に對する、近頃の建築家の解釋である。

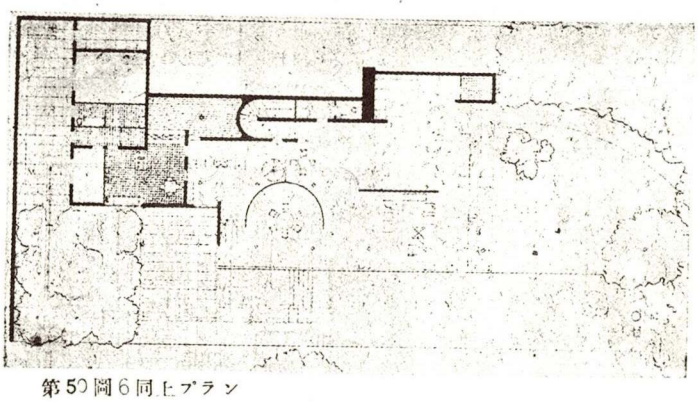


第48圖　同上プラン

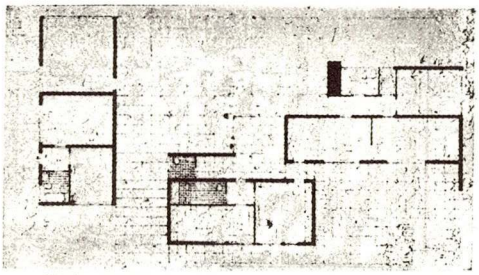
この自然の、恩惠を十分に享受出來る住宅としては、日本住宅は古來より、その眞價を發揮して居た。大きな窓及出入口、隙間だらけの建具、柱と壁の間の隙等によつて、家の



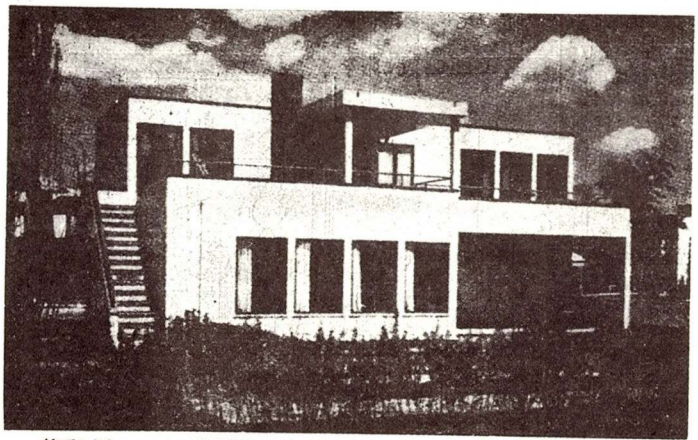
第49圖　ブリユン近郊の家 Mies van der Rohe 作



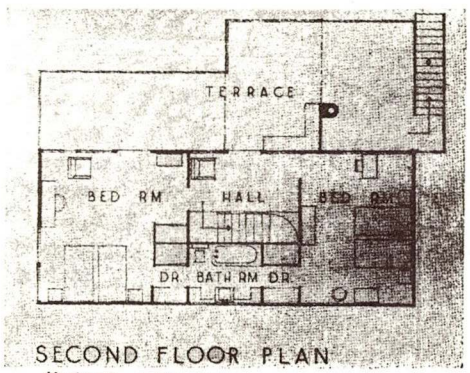
第50圖6同上プラン



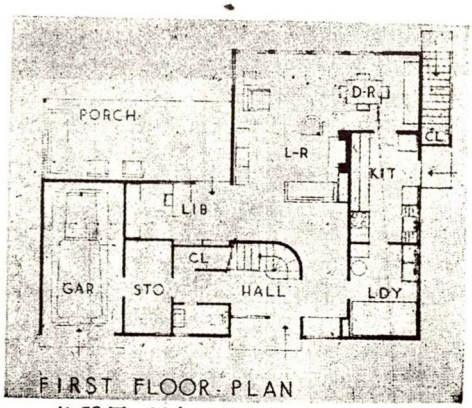
第50圖1左上プラン



第51圖　シカゴ博覽會の今日の家

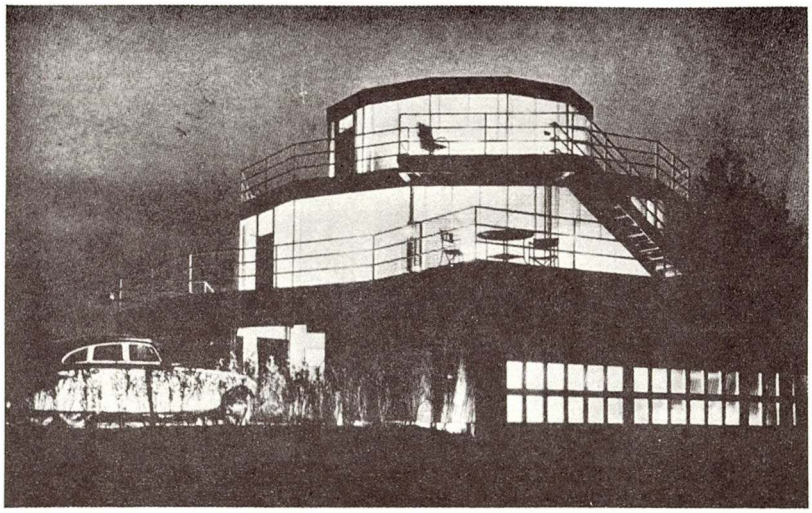


第52圖　同左プラン

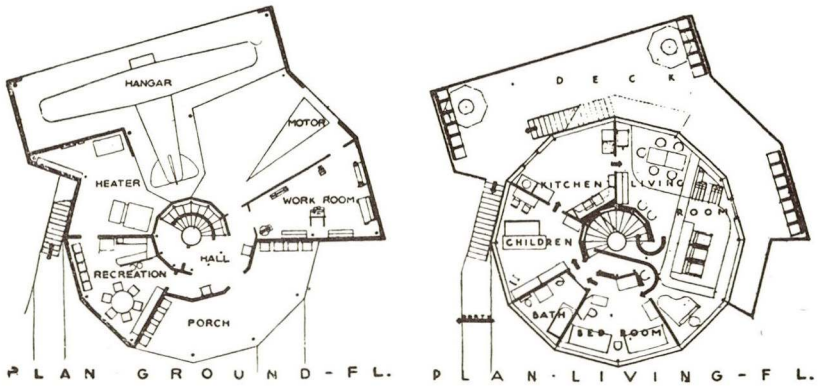


第52圖　同左プラン

內へ自然界が侵入して春秋は十分にその恩惠を與へて呉れた。この點では西洋住宅とは全く異つた行き方をした良い點である。しかしあはれむべし、自然界の暴威に對しては全く無防備であつた。火起れば一朝にして數千の家屋を燒かれ、洪水出ればたちまち土臺ごと押流されるは仕方なしとするも、嚴寒の候には隙もる風に縮み上りわづかに火鉢を抱いて寒をしのぐ外、全く自然界の暴威の荒れるままにまかした感がある。



第53圖　シカゴ博覽會の明日の家



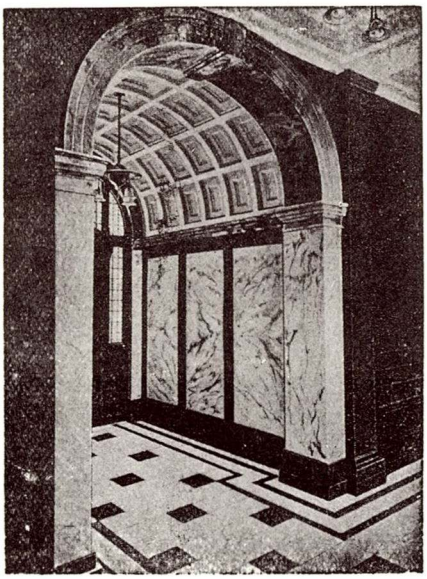
第54圖　同上プラン

しかし日本住宅に於ても、近來その弊を改め、椽側にはガラス戸を入れて寒風を防ぎ、隙漏る風は外部大壁としてこれをなくし、建具に金物に改良を加えて著しくこの缺點を補つたかに見える。

丁度洋式住宅がその頑丈な城廓より出て、解放的の要素を加へ、自然と融和すべき所では、融和せんとする傾向と反對に、日本住宅ではその完全なる自然との融和より離れて、融和すべからざる所では、分離せんとする傾向があり、洋式住宅と日本式住宅は、その兩極端より、次第に中央へ近づかんとする傾向が見えるである。

これを以つて結論に代える。　（昭和9年2月27日）

DUNLOP RUBBER FLOORING





弊社製ゴム床敷は既に數多の官衙、會社、汽船並に諸家庭に敷込まれ、快適なる其の感じは御使用家各位の御滿足御賞讃を得つゝあります。
御必要に應じ何時にても社員を派し詳細に亘り御要求事項を御説明申上げます。

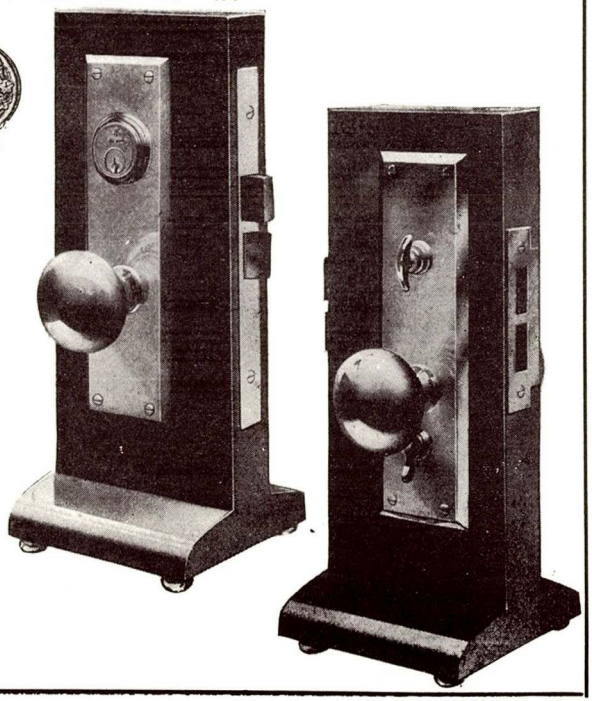
神戸市脇之濱
ダンロップ護謨(極東)株式會社
各地出張所

ダンロップ護謨床敷

純國産日金印シリンダー錠

商工省奬勵金受領





御申越次第型錄進呈

營業科目

各種扉用シリンダー錠　建築用金具一式
家具用特殊各種シリンダー錠
船舶並車輛用各種錠前及金具製造販賣

本社　大阪市西淀川區大仁東二丁目
電話土佐堀(44)五八五番二八五〇番
五八六番四一〇六番

日本金具株式會社

出張所　東京市神田區美倉町十番地
電話神田一三六三
五七一

照　明　器　具　と　グ　リ　ル

0

フランスの雜誌“Mobilier et Décoration 1933 年”には照明器具やグリルの美しい寫眞が滿載されてゐる。作品は數人の藝術家竝に數個の商店によつて發案されたものに限られてゐるので、これを以て直に彼國全體の狀況を知ることは出來ないが、確にその流れの一方向を窺ふことは出來るし、又、我國の建築界にも參考となる點尠くはないと思はれるので、その中の代表的なものを表示的に纏めて轉載し、餘白を利用して簡單なる解說を試みる次第である。

1

住宅內に於ては、松明・燎火・蠟燭・瓦斯燈のやうな、燃燒による光源を使用して得る人工照明法は實用上最早殆ど行はれず、專ら電燈を採用されるに至つたことは玆に更めて云ふ迄もないが、何れにしても、工場或は事務所等の如き建築物と異り、住宅に於ては實用と能率上以外に趣味的の工夫を要することが多い。明るさを適當にし、眩輝を防ぎ、光の方向及び色に注意すべきことは如何なる場合に於ても同樣であるが、照度は必ずしも均一なるを要せず、却つて變化ある照明の方が心理的方面から見て望ましい。

2

光源から發した光は直接、或は天井及び壁面等に反射擴散されて間接に作業面に達するが、その方式は次の如くに大別することが出來る。

1）直接照明　能率が優秀であるため最も多く用ひられてゐるが、電球の纖條が絕對に見えぬやう、又、燈器を眼の高さ以上に取り付けるやうにして眩輝を防がねばならぬ。フランスその他の西洋住宅內に於ても勿論一般的に採用されてゐるが、天井や壁面の比較的暗い我國の和風室內に用ひて特に都合がよい。

2）間接照明　能率惡しく且つ經濟的に不利なる故一般の住宅に於ては殆ど用ひられない。眩輝を防ぎ均等溫和なる光線を得るには理想的であるが、その特徵は却つて歡迎されないやうである。

3）半間接照明　以上兩者の長所を取り混ぜた照明方式である。

尙、照明方式として次の如くに大別することも出來る。

1) 一般照明　天井に一個所或は數個電燈を取り設け室内を比較的均一に照明する方式

2) 局部照明　机や化粧臺その他種種の作業面のみを照明する方式で、從來我國に於ては一般に前者の一般照明法のみによつてゐたが、これにスタンド或はブラケツトによる局部照明法を適當に併用すべきものと考へられる。能率上からは云ふ迄もなく、且、斯くして始めて室内に變化ある興味深き明暗の美を醸し得るのであつて、茲に載せた器具の中にもその目的に合致せしめんがために造られたものが多い。夜を晝の如くに照さんとするのが以前の照明法の理想であつたが、夜は夜らしくと云ふのが現代の照明法の觀念と變つたため、そこに趣味的の種種の考案、各種照明器具の進歩が生れたものである。

3

光の集中或は分布を加減し、或は一種の裝飾用として夜間良好なる室内環境を得んがための照明器具は頗る數多いが次の如く大別して考へることが出來る。

1) 反射笠(シエード)　電球からの光を反射して適當なる配光を得んがために用ふ。主要材料としては硝子最も多く、半間接照明用の如き特種な形のものもある。

2) 蓋球(グローブ)　電球からの光を透過して眩輝を防ぐために用ふ。主要材料としては各種硝子・紙・絹布等がある。艶消硝子は擴散が不完全であり、乳白硝子は透過率惡しく且透過光を赤色化する傾向があり、アラバスター硝子はこの點に於て最も適當である。電球の性質によつては透明硝子を以て造れる蓋球が頗るよい效果を齎すこともある。紙は特に我國の室内用としてこれに用ひて優秀なものである。

尙、照明器具を取付方法によりて分類すれば次の如くである。

1) 直付式(シーリング・ライト)　天井等に直接取付けたもの。電球が天井面より下にあり天井面の反射を利用するものと天井面の中に嵌め込んだものとがある。

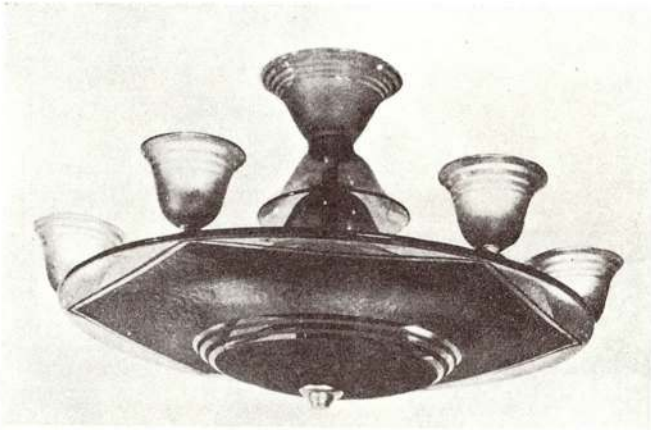
2) 吊下式(ペンダント)　紐(電線)・管・鎖を以て天井より吊り下げたもの。

3) 持送式(ブラケツト)　壁體から腕を出して取り付けたもの。

4) 移動式(スタンド)　持ち運びの自由なもの。普通局部照明用として使用され裝飾的なもの多く、反射笠にも種類が頗る多い。眼に近い關係上特に眩輝を防ぐべき工夫を廻らさねばならぬ。

4

フランスに於ける硝子製美術品は從來と雖も左程低位に置かるべきものではないが、電燈の普及による照明器具の進歩に伴つて近年その方向に大なる飛躍を印し、硝子と電氣光線との論理的且必然的の提携は優れたる效用目的に適用せるその裝飾的形態の探索を鼓舞することとなり、以來硝子器製造家は彼の實在の眞價を明かにするに至つたかの觀がある。



第1圖　枝付電燈（Daum）

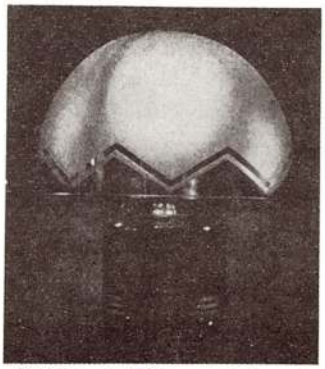
茲に掲載せる寫眞の作家は何れも其意味から生れた代表的の斯界藝術家である。

圖に明かな如く彼地に於て用ひられる美術的直接照明器具には所謂枝付のもの多く、而かもその各枝は蠟燭その他の類似形態を保持せるものが尠くはないが、その理由は云ふ迄もなく古往を懐しむ樂しい追憶から生れたものにちがひない。僅か五ワツトの電球が雄雄しくも昔の各種光源に打ち勝ち、人人も勇敢なる勝利者として大いに歡迎し滿足してゐた時代ならばとにかく、現在の如く數百ワツトの光源を連ぬるも尚事足れりとせざる時代にあつては照明に關する觀念は最早既に往古のそれと全く異れりとし、その姑息を嗤ふ論者にも確に一理はあるが、時と塲所に應じてはこの論に一概に双手を擧げて讃辭を呈することは出來ない。趣味的情緒にはとかく歷史や傳統が背景となり易い。我國和風住宅室内に程よく行燈の火影を偲び得る照明器具の置かれてゐる塲合、安寧と休養の氣に滿ちた環境を感ぜられるのと同樣の心境が彼地の枝付器具に藏められてゐるのであらう。

5

フランスに於ける裝飾的照明器具の歷史は最初 Antonin Daum の試みから始まり最近現代式裝飾藝術の發展に綜合的興味を與へた Paul Daum に至る Daum 商會にあるものと認めることが出來る。1900年頃と思はれるが、その頃“電氣の仙女”と名乘つてあらはれた作品は、雪深く積れる林や群鳥游ぶ湖水に傾く太陽が輝く風景を目のあたり室内に再現したかの如き感があつた。當時の鑄込硝子製品は今尚蒐集家の爭奪の的となつてゐる。

茲に挿入せる寫眞は Daum 商會の廻り廻つた進路をその作品の中に表明せるものであるが、要する所艶消硝子製の管を種種の形態を用ひて應用せるに止まり、何等理論的効果の路に於ては進んでゐない



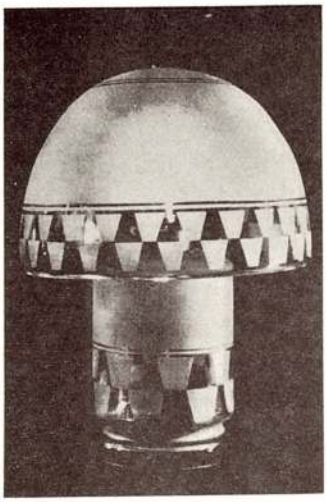
第2圖　半球型ランプ（Daum）



第3圖　氷塊型ランプ（Daum）



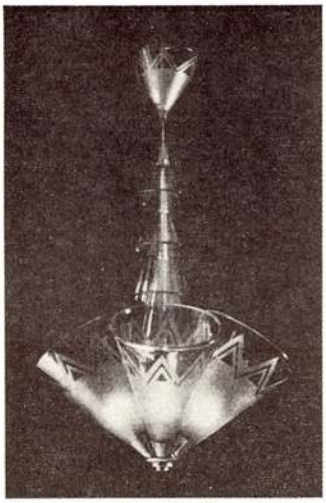
第4圖　結晶硝子製球形ランプ（Daum）



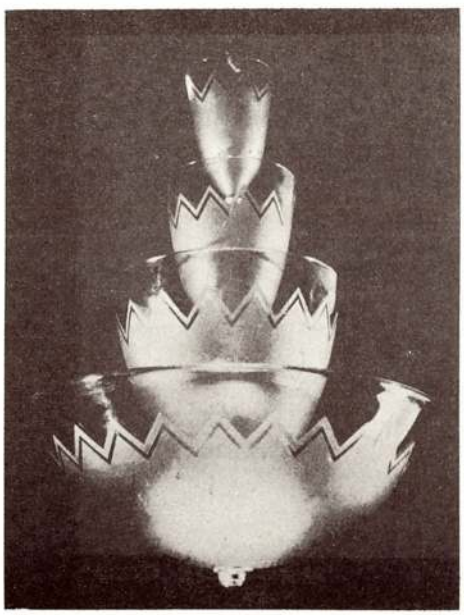
第5圖　彫刻せる圓型ランプ（Daum）



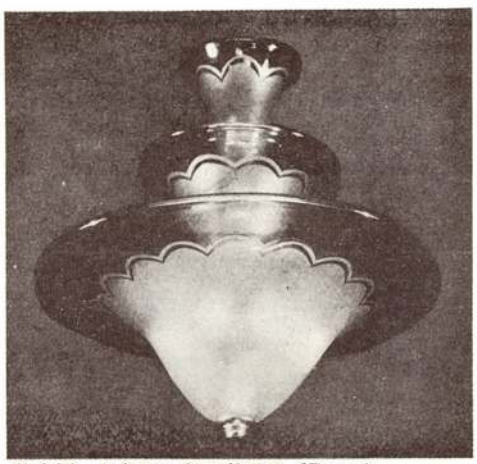
第6圖　吊下電燈（Daum）



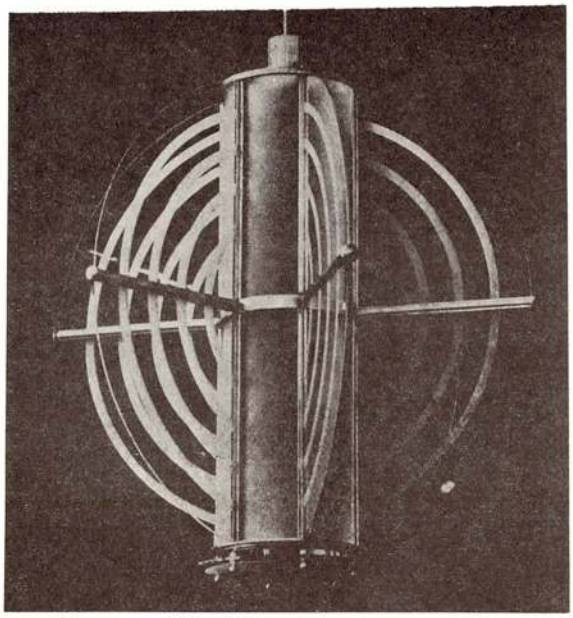
第7圖　枝付電燈（Daum）



第8圖　球形水盤型釣電燈（Daum）



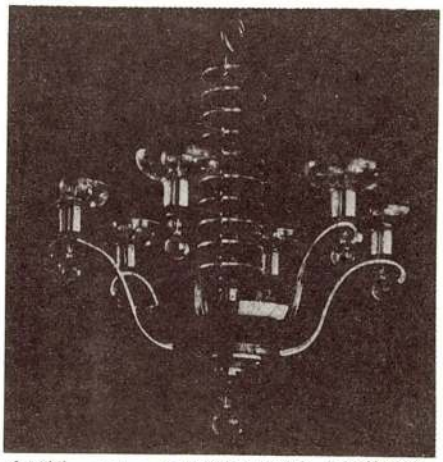
第9圖　圓錐形水盤型釣電燈（Daum）



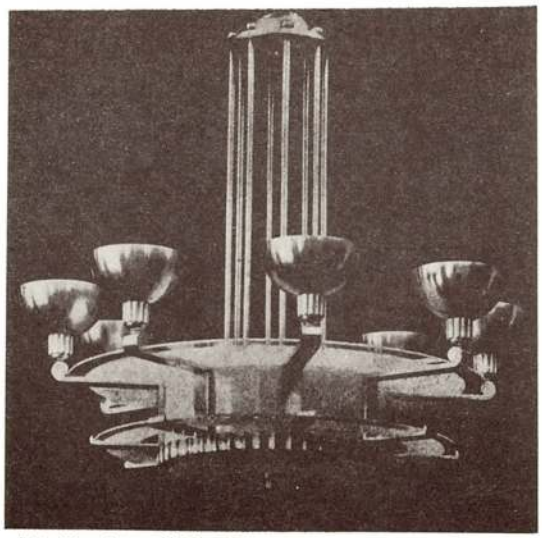
第10圖　ホール內釣電燈



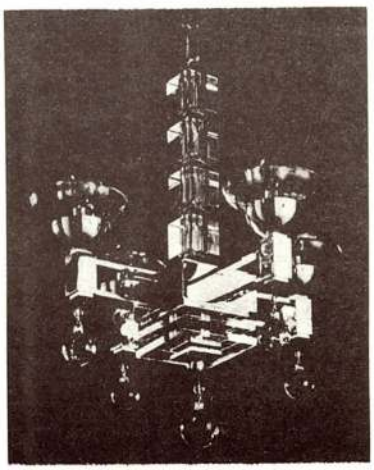
第12圖　客室內天井燈(Simont Frères)



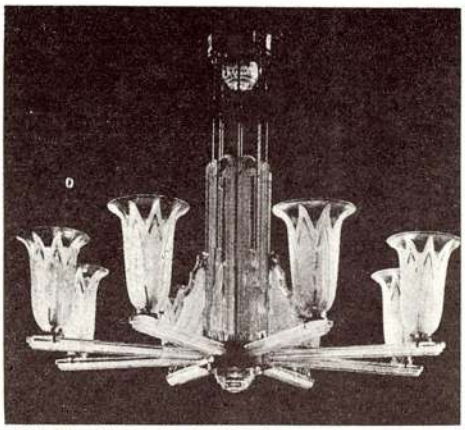
第13圖　クローム及び銅にて飾れる枝付電燈
(Sabino)



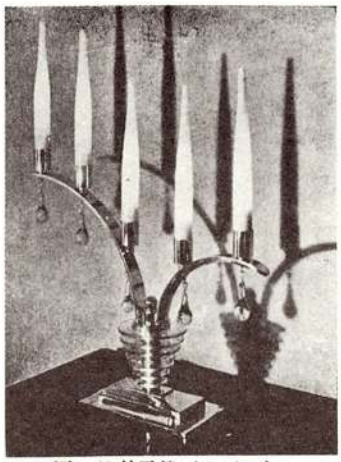
第11圖　食堂內枝付電燈



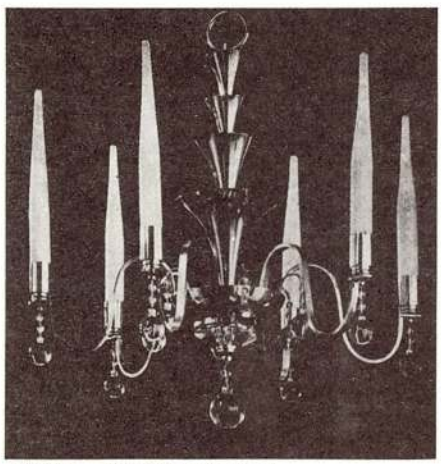
第14圖　枝付電燈 (Sabino)



第15圖　枝付電燈（Sabino）



第16圖　枝付電燈（Sabino）



第17圖　枝付電燈（Sabino）

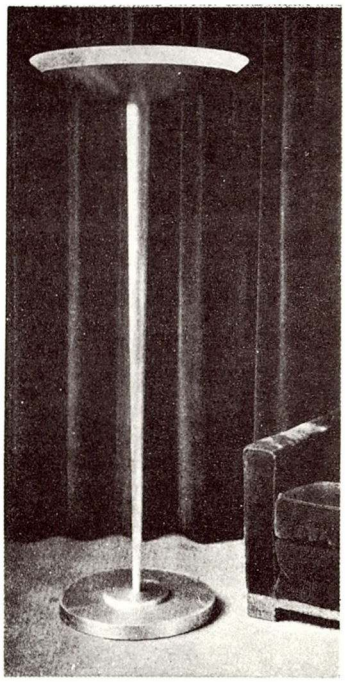
とが見られる。彼はクローム鍍金の上に冠せた乳色金屬鈑の効果を信じない人人、硝子のみによる創造の中に實用的特質を打ち消すことの出來ない魅力ある幻想を發見し得る人人を無上に喜ばし續けた。

Daum の照明器具は全くの硝子製品であつて、殆ど總ての場合唯硝子だけであると云ひ得る。必要に迫まられて止むを得ない所には金屬材料の介在を見るが、それとても出來得る限り少量とし又は隱蔽されてゐるのがその特性である。

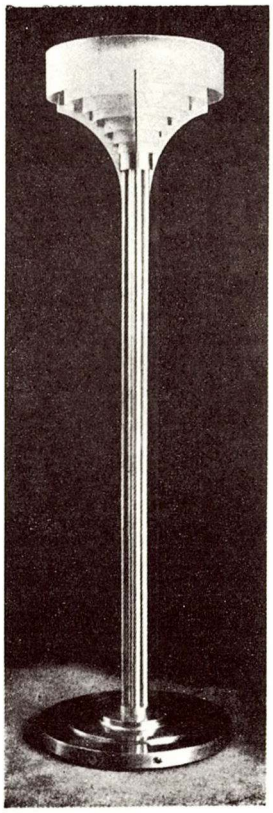
故に、各種材料の持つ特質を夫夫鑑識しこれを巧に利用すべきであるとの現代建築界の一般的思潮理論を尺度とすれば、彼はその點に於て全くの無資格者であるが、一方そのため硝子と照明との提携を益々濃厚ならしめ且深き研究をなした人として意義をもたすことが出來やう。彼の作品にあらはれた公式的形狀は一言にして云へば雅味ある單純性である。屢屢光を擴散させる材料を透明•燻し•薄色付•金箔張り硝子等、時に應じてその何れかになし、又、酸を用ひて硝子の表面に細い條痕を腐刻し或はこれと反對に厚い部分を深く堀り刻む等の手段によつて樂しい作品を創造したのである。

6

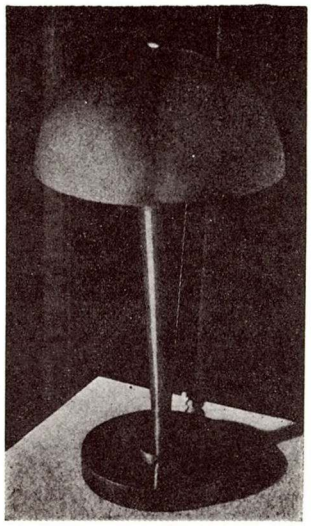
硝子製品のみに限らずあらゆる應用美術の各分派に於て、最も新しい傾向は照明器具の中に見出される。電點になる光源は種々の未だ公にせられざる器具を生み、屢々光線それ自身も室內の必須な裝飾的要素の一となつてゐる。終始純硝子製照明器具を創造した Daum とは反對に、硝子と金屬との親密なる融和により、簡單と理論を尊ぶ現在の時代に應すべく、美學と理學とから割り出して目下の照明にその才能と技術を打ち込んだ第一人者は Damon である。Damon は幻想をも形態をも犧牲にしてゐないで、而も使用目的への完全なる適合性の中に美を發見してゐる。彼の作品にあらはれた質素な雅味は決して無味乾燥に流れてゐるものでなく、愼重さと洗練さの溢出であることはその寫眞を眺められた讀者の既に認められる所であらう。



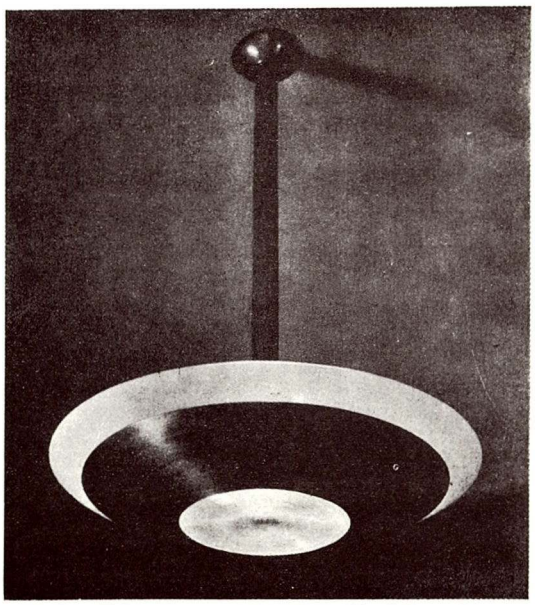
第18圖　電燈 (Jean Perzel)



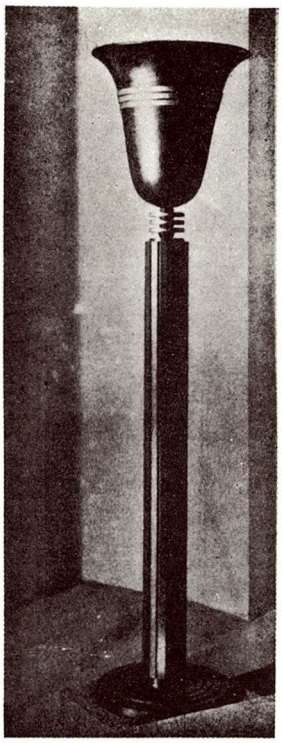
第19圖　半間接照明用電燈
(Jean Perzel)



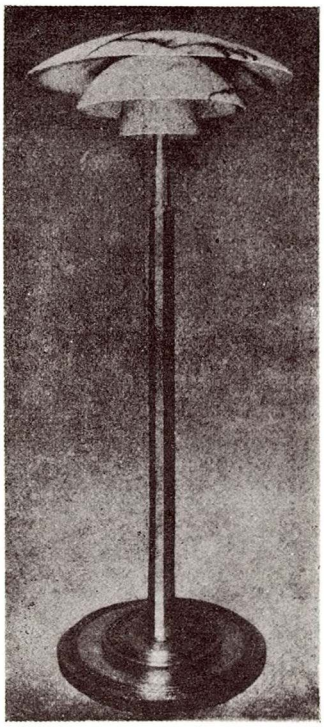
第20圖　廻轉反射笠付ランプ
(Jean Perzel)



第21圖　眩輝除けレンズ付天井燈 (Jean Perzel)



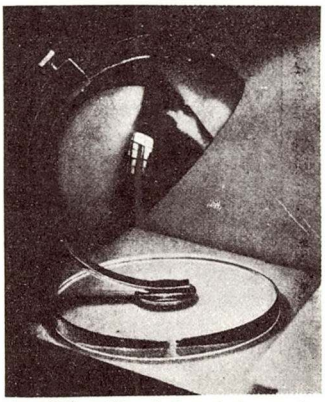
第22圖 ブロンズ製電燈器具
金工家 Raymond Subes



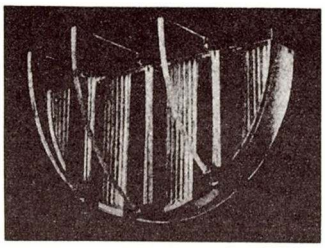
第23圖 光澤ある鋼鐵製電燈器具
金工家 Raymond Subes



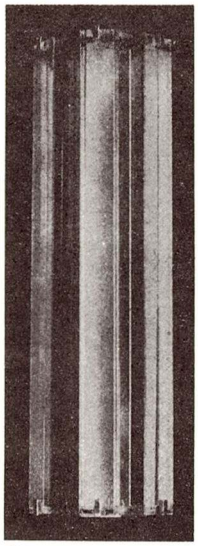
第24圖 光線の方向を自由になし
得る事務用ランプ（Damon）



第25圖 光線の方向を自由になし
得る居間用ランプ（Damon）



第26圖 硝子製壁付電燈（Damon）



第27圖 板硝子製壁
付電燈
（Damon）

フランスに於ける照明器具の優秀なものには、建築家及び應用美術家の手を煩はしてなれるものが多い。René Lalique は英雄時代の奇跡な先覺者、例へば Engène Grasset, Emile Gallé, Guimard 等と共にその一人であつて、様式への服從を破り、模寫と云ふ退屈な强制から裝飾美術を開放し、フランス藝術の傳統から生まれた多數の觀念を一般人に課した人である。彼の行動は停滯でも繰言でもなく、探究であり、闘爭であり、絶えず展開し適合し變形する人生それ自身である。

Lalique は裝身具や細工物を手始めに、後一般應用美術界にその才能と手腕とを傾注した人であるが、彼の創造を實現するに至つた熱情をよく知るには遙か四十年の昔からの彼の經路を先づ識らなければならない。茲に揭げた作品は曾て彼が催した Pavillon de Marsan に於ける作品展覽會に陳列せるもので、極めて贅澤な裝身具から屢々ジアンゼニユス派の如き質素なもの、日本式の綿密なものから秩序ある幾何學様のものなど、三十年間の彼の趣味的變化をよくあらはせるものの中、電燈器具に類する數種を選んだものである。Lalique は驚くべき藝術的表現を鑄造硝子を以てなすため、彼固有の技術を創造し、硝子藝術を進歩せしめた人である。

8

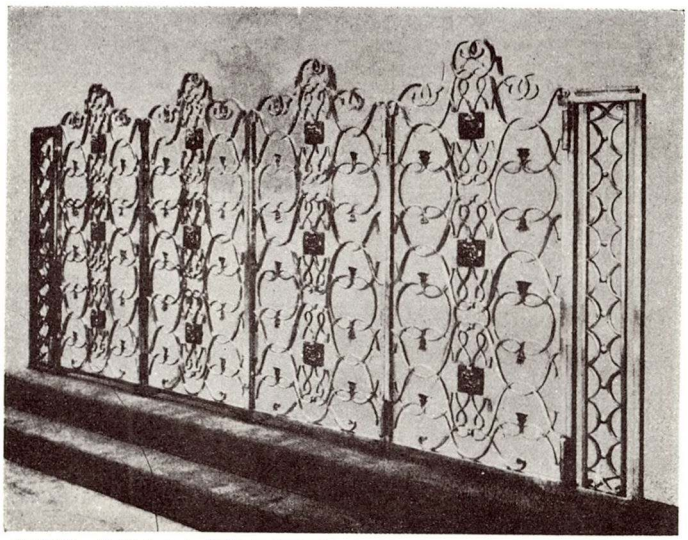
フランスに於ける金工藝術の隆盛は古今を通じて變らない。

茲に揭げるものは金工藝術品の中最も多く建築物にあらはれるグリルを中心とした。而もその作者を金工界の大家 Raymond Subes に限つた事は、總ての傾向を大觀するには頗る策を得て居らないが、多種多様に亘る神の如き彼の技術は、現代の斯界を知るに最も適當な鍵であるとして大に意義あるものと考へられる。

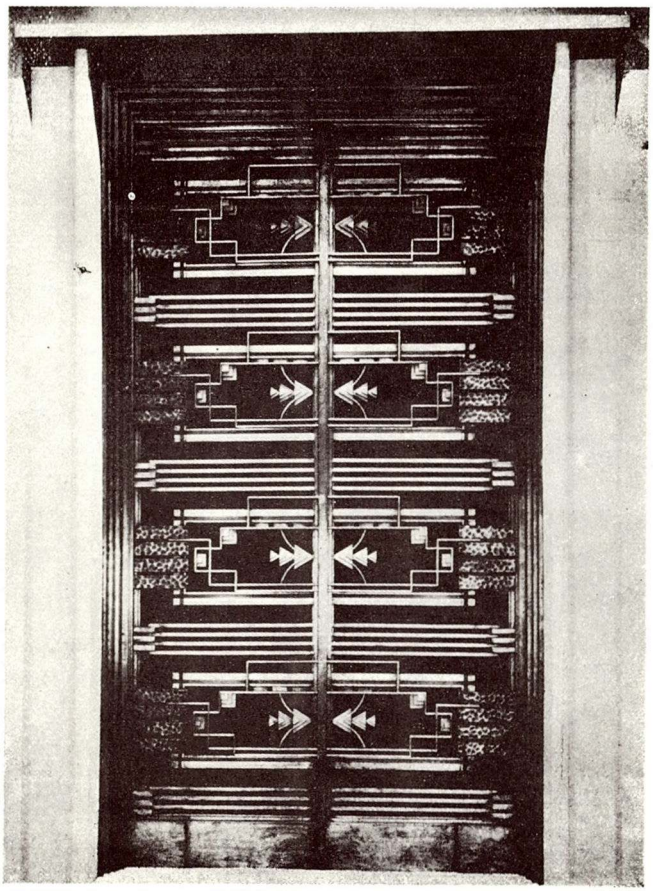
奇蹟——若し奇蹟なるものがこの世にありとすれば——は一般人士及び藝術家の性質を絕えず摑んで居り屢屢機會なる使徒をしてその門戸を叩かしめる。フランスの金工界に於ても近年二度の使徒を派遣した。一は Emile Robert の內へであり、一は Raymond Subes の內へである。

巨匠 Robert が、彼の名が Borderel 及び Robert 商會に常に記されてゐた所の Damrémont 街の宏大な工場を再び見ることが出來たとしても、殆どそれと認識することを得ないであらう。鑢や槌の懷しい音は今も尙僅か改築せられた大きなホールの中に續いてゐるが、一方により完全な機械工具は易易として鋼鐵を撓曲し、鐵鈑を寸斷するに遑がない。蒸汽鐵鎚や鉋工•磨工•滑面機械が昨日の勞働に代つてゐる。斯く急激な發展進化の中にその後十五年を經て金工家 Raymond Subes がそのアトリエに現れ、名も工場長として斯界の創造家として手腕を發揮することとなつた。

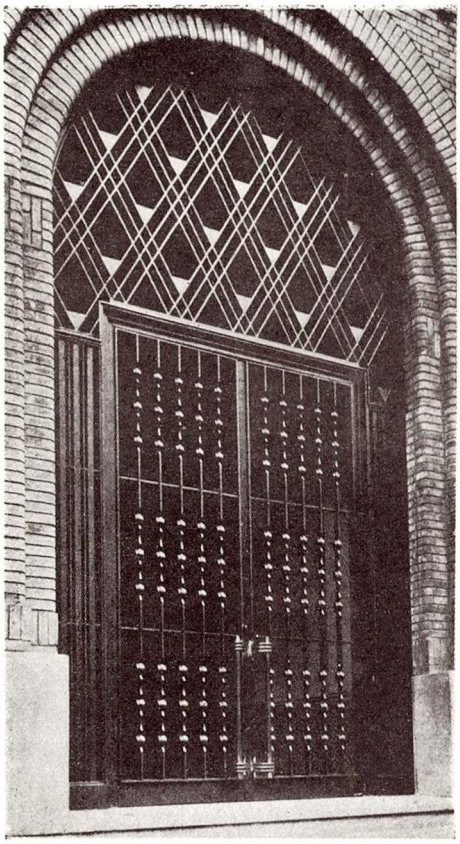
Subes は從來融和のとれない兩敵



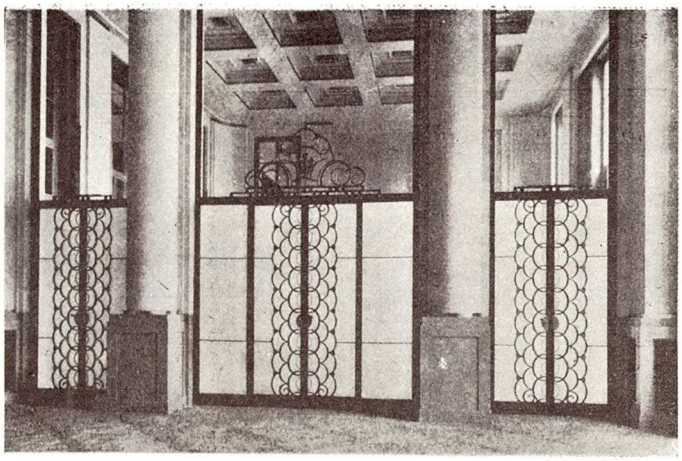
第28圖　光澤ある鋼鐵製室內用グリル　　金工家 Raymond Subes



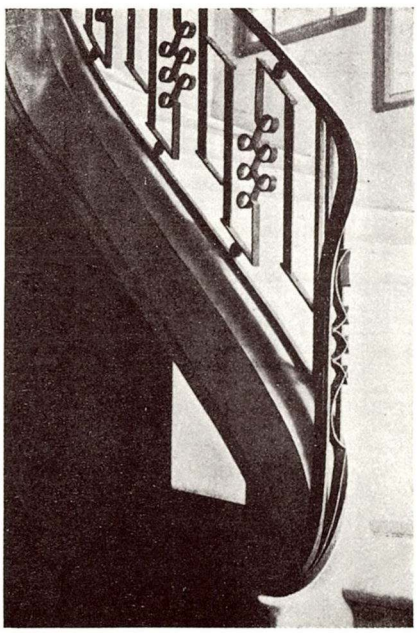
第29圖 入口グリル　建築家 Mermans 兄弟 金工家 Raymond Subes



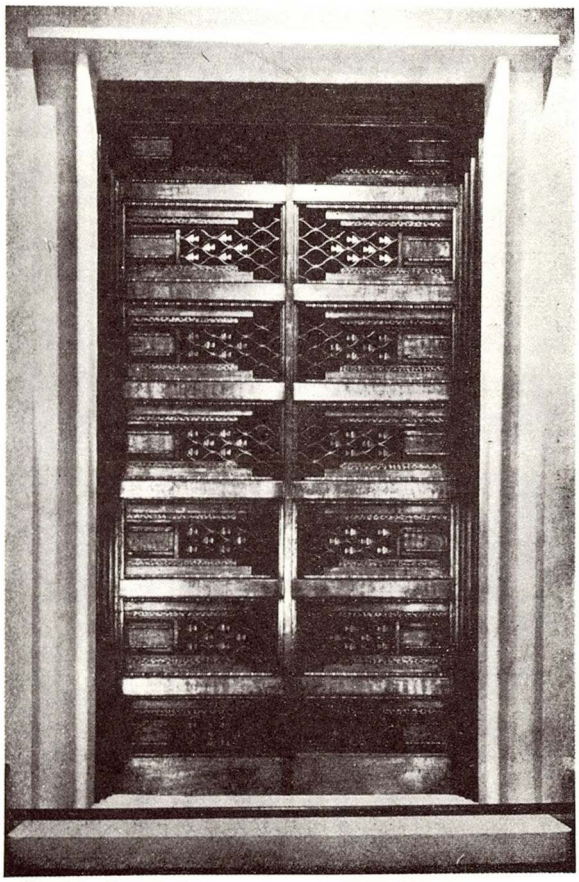
第30圖　家屋入口グリル
建築家 Tiers
金工家 Raymond Subes



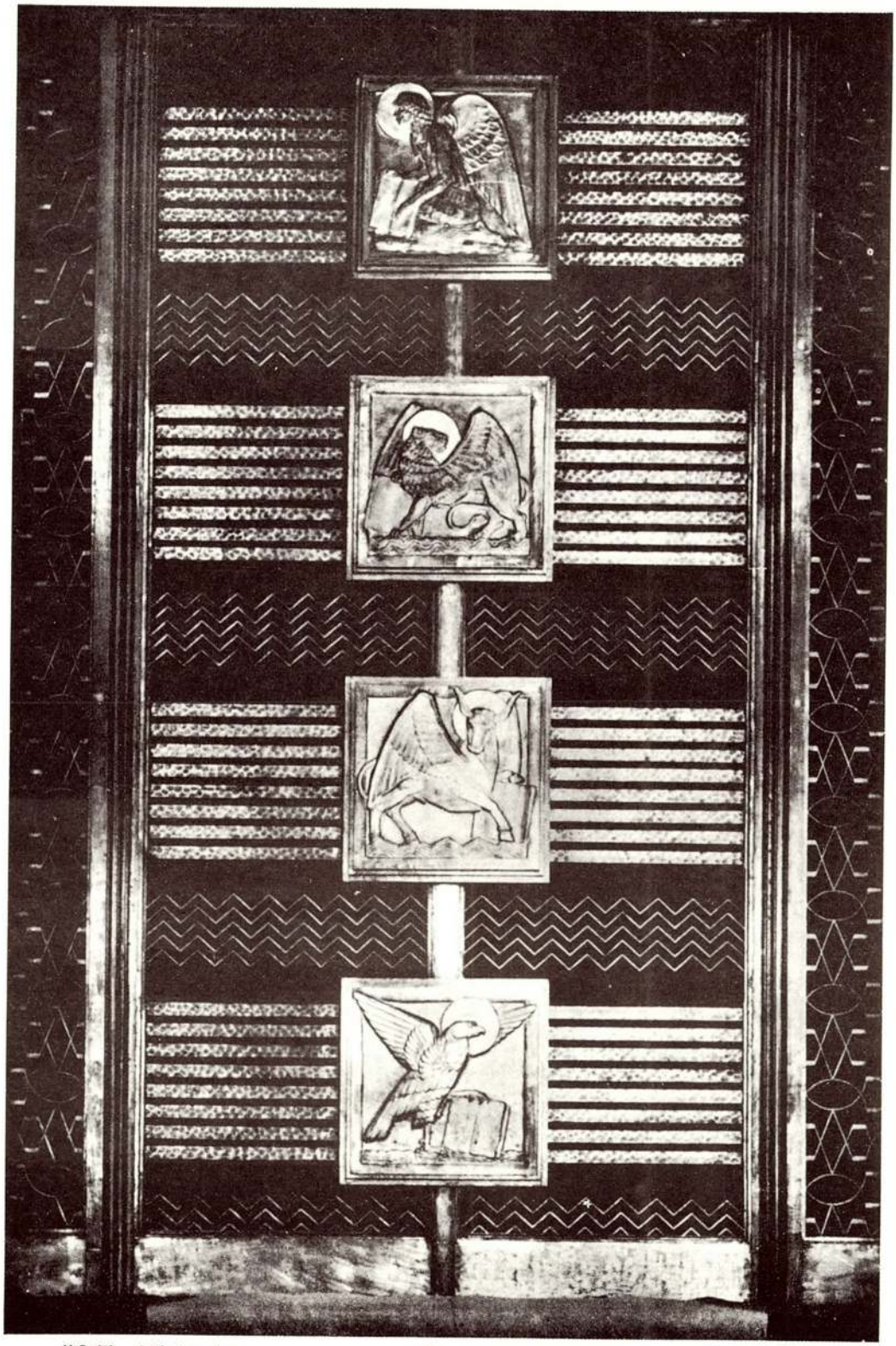
第31圖　饗宴室グリル　　建築家 Patouillard-Demoriane
金工家 Raymond Subes



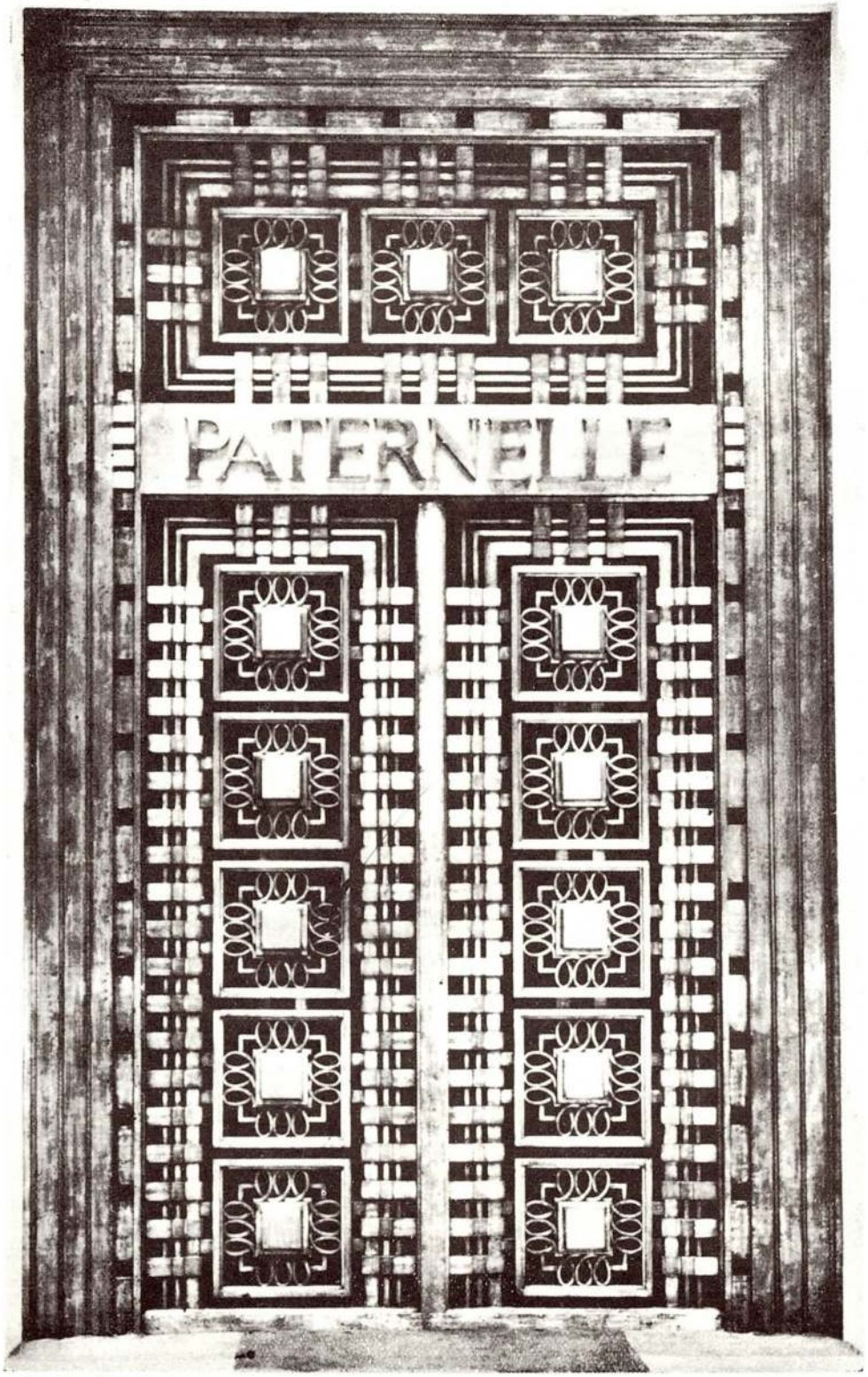
第32圖　階段手摺
建築家 Colin
金工家 Raymond Subes



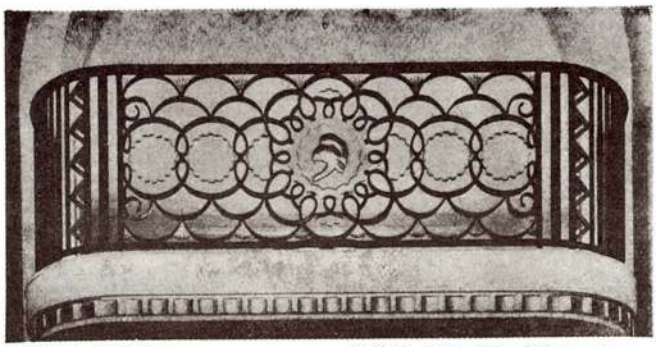
第33圖　鍛鐵製グリル　　建築家 Niermans
金工家 Raymond Subes



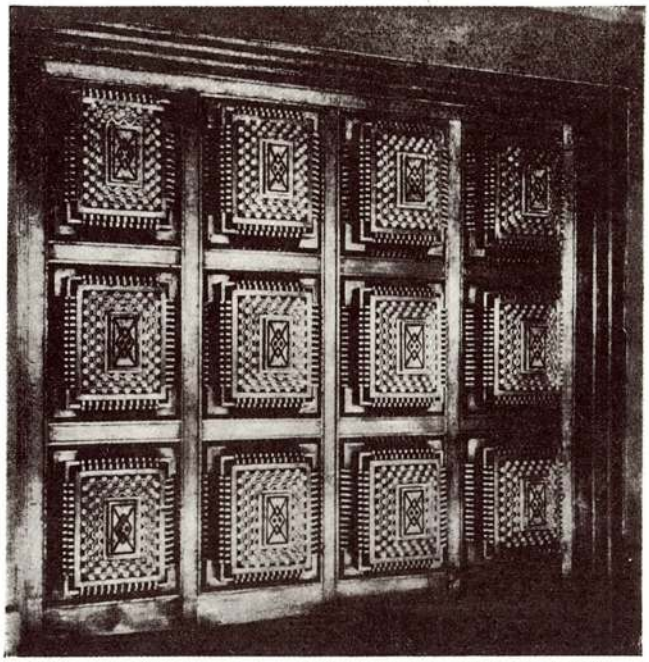
第34圖　寺院入口グリル　　建築家　Daval 及び Gonse　　金工家　Raymond Subes



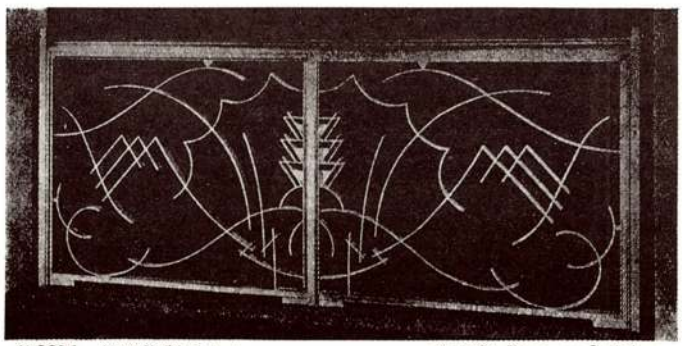
第35圖　鍛鐵製グリル　　建築家　R. Février　金工家　Raymond Subes



第36圖　饗宴室バルコン　　建築家 Patouillard-Demoriane
金工家 Raymond Subes



第37圖　美術館入口グリル　　建築家 Hiriart, Tribout 及び Beau
金工家 Raymond Subes



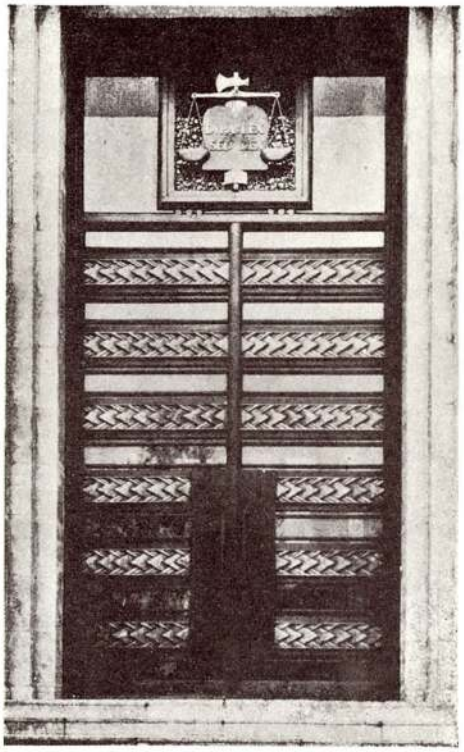
第38圖　鍍金鐵製グリル　　金工家 Raymond Subes

手と信じられてゐた所の藝術家と工業家との間を和睦さした點に於て先づ彼の價値が見られる。彼はその作品の中に絶えず警戒してゐる幻想を爆發さしたが、常に裝飾を機能の下に從はしめ、裝飾の興味を建築の効果の下に置いてゐながら、毫も藝術的評價を失することはなかつた。

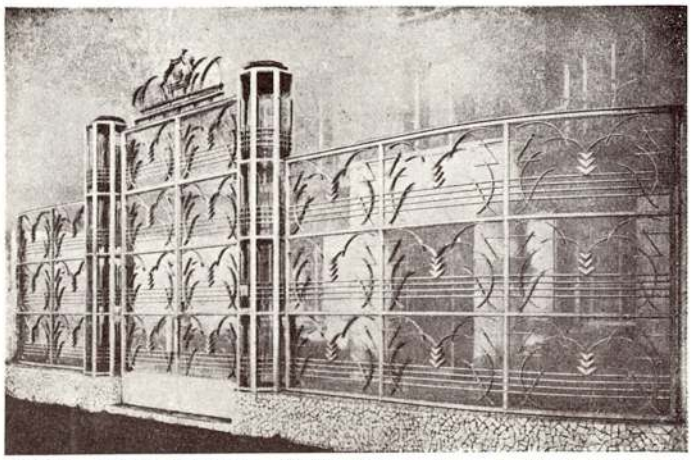
Subes は餘り年若いので永い過去と云ふものを持つてはゐないが、年十歳にして既に應用美術に優れた手腕を發揮してゐた。1930年の Subes は1920年の彼でもなく、1925年の博覽會の時の彼でもない。彼は常に創造力の如何に豊富なるかをその作品に充分に移したかの觀がある。1920年の鐵と銅とを以て創造した室內用の小グリルは宛も Maurice Dufrène のデザインの如き刺繍を思はせるやうな輕いアラビア模樣であるのに反し、銀行の大扉は簡單な線や鋭い區劃からなる頑丈な質量的作品であるのを見て、殆どそれらが同一人のものと想像するさへむづかしい。

Subes は立派な建築家と共にデザインや研究をしない時は、常に工場の技術的問題、特に二つの未解決問題に身を打ち込んでゐる。即ち、一はその作品の抵抗力や持久力を傷はない範圍に於て輕量になすこと、一は自己の藝術的特徴を失はない程度に於て安價に作品を造ることである。そして又、彼は頑丈な鐵骨やアルミニウムとヂユラルミンとの合金にもこの方針を附加することに躊躇しない。近年蒸氣鐵鎚は容易に如何なる形にもなすことを許されるやうになつたため、鋼鐵鈑を用ひた作品の創造及び探究に餘念がない由である。

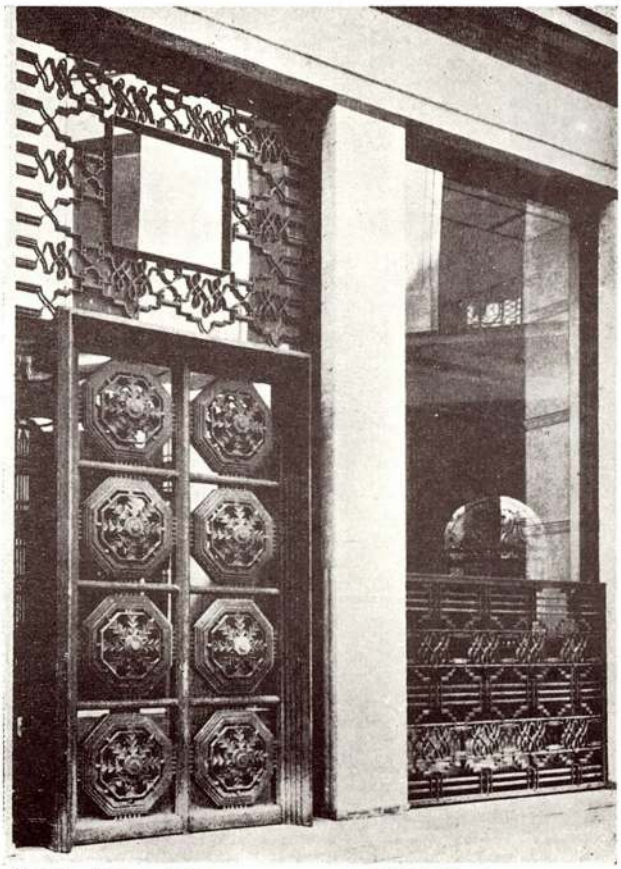
（吉田信武）



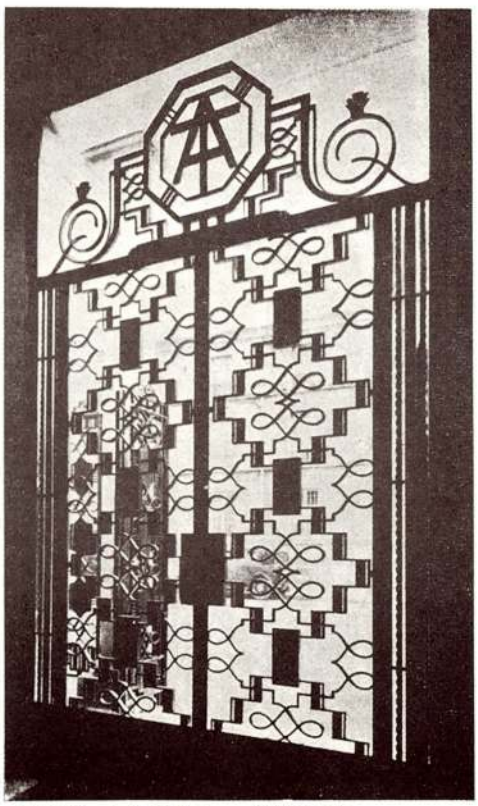
第39圖　裁判所の入口グリル
建築家 Decaux 及び Crevel
金工家 Raymond Subes



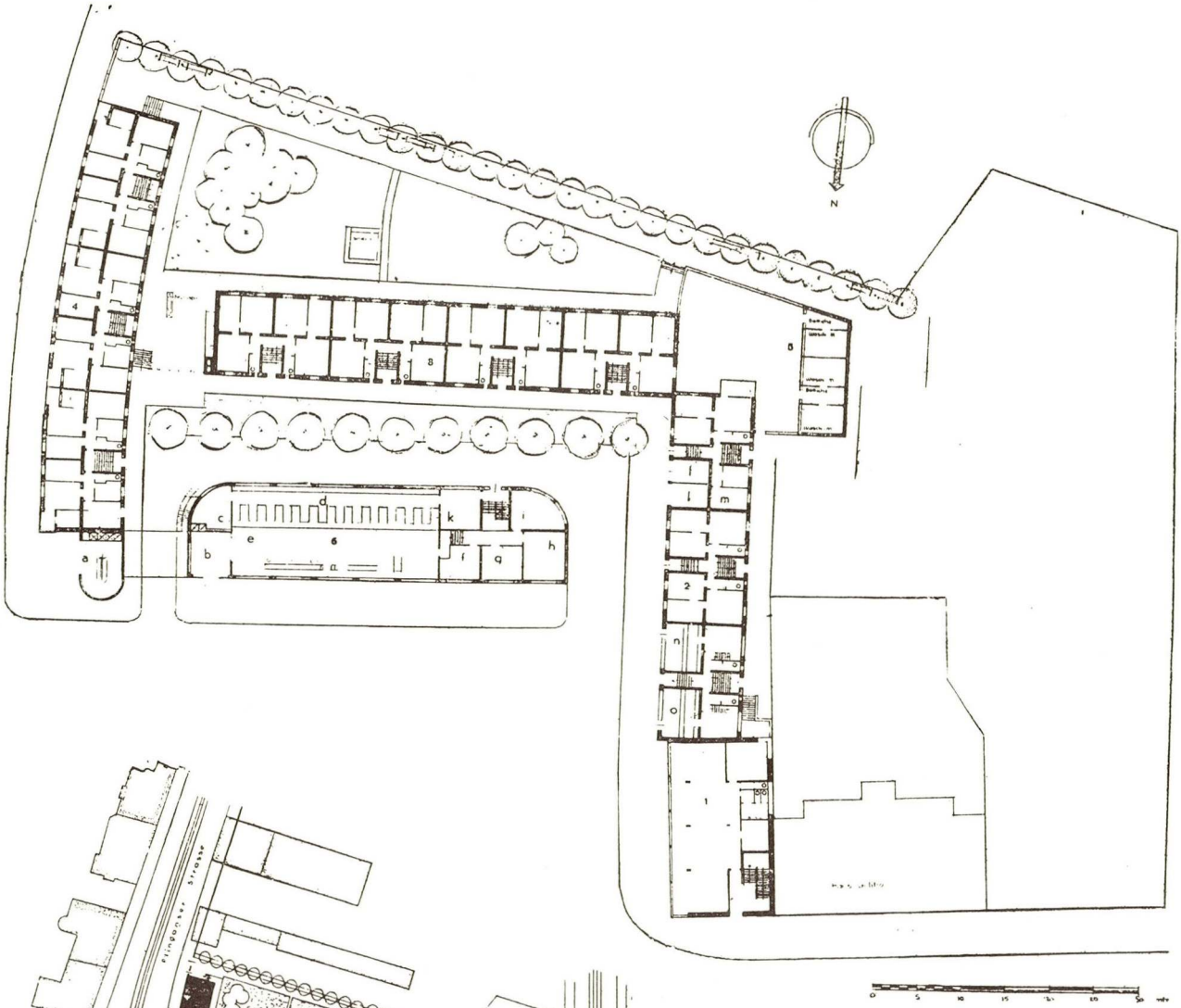
第40圖　住宅群入口グリル　建築家 Bassompierre, de Rutti 及び Sirvin
金工家 Raymond Subes



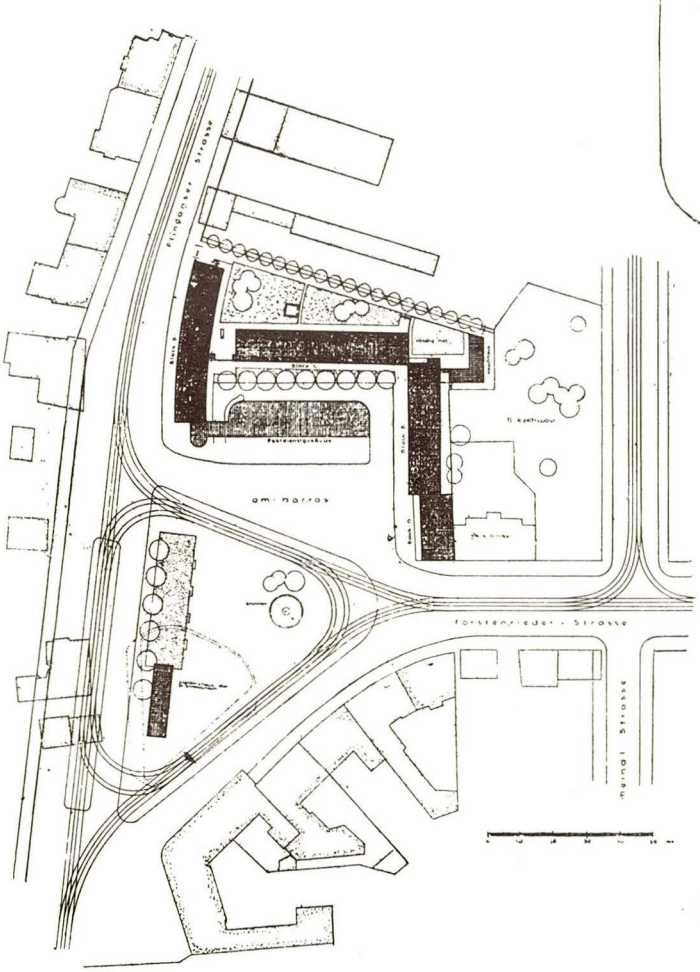
第41圖　銀行のグリル　建築家 Ventre
金工家 Raymond Subes



第42圖　入口グリル　建築家 Mamez
金工家 Raymond Subes



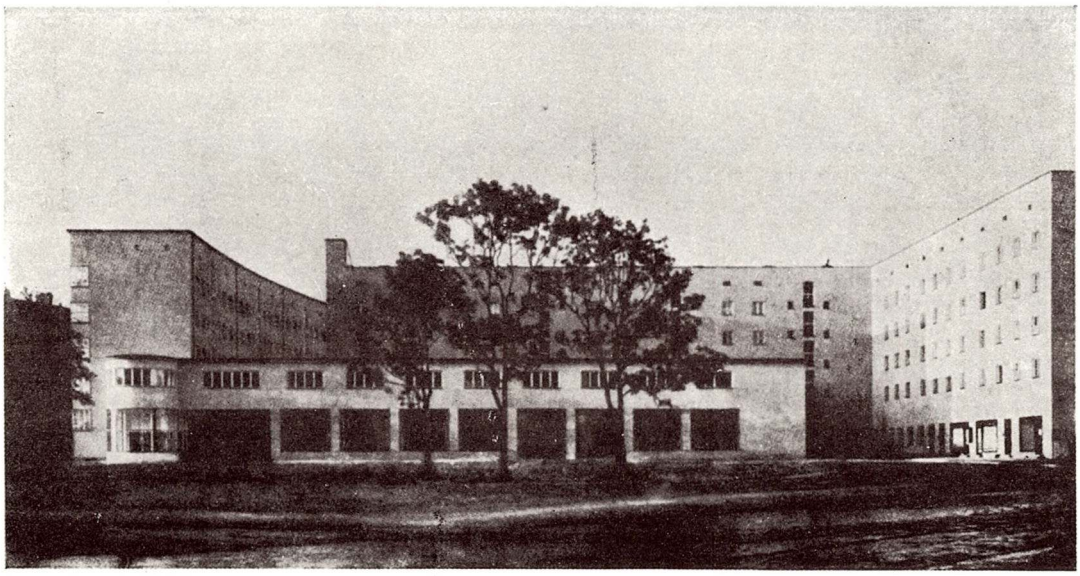
1 階 平 面 圖



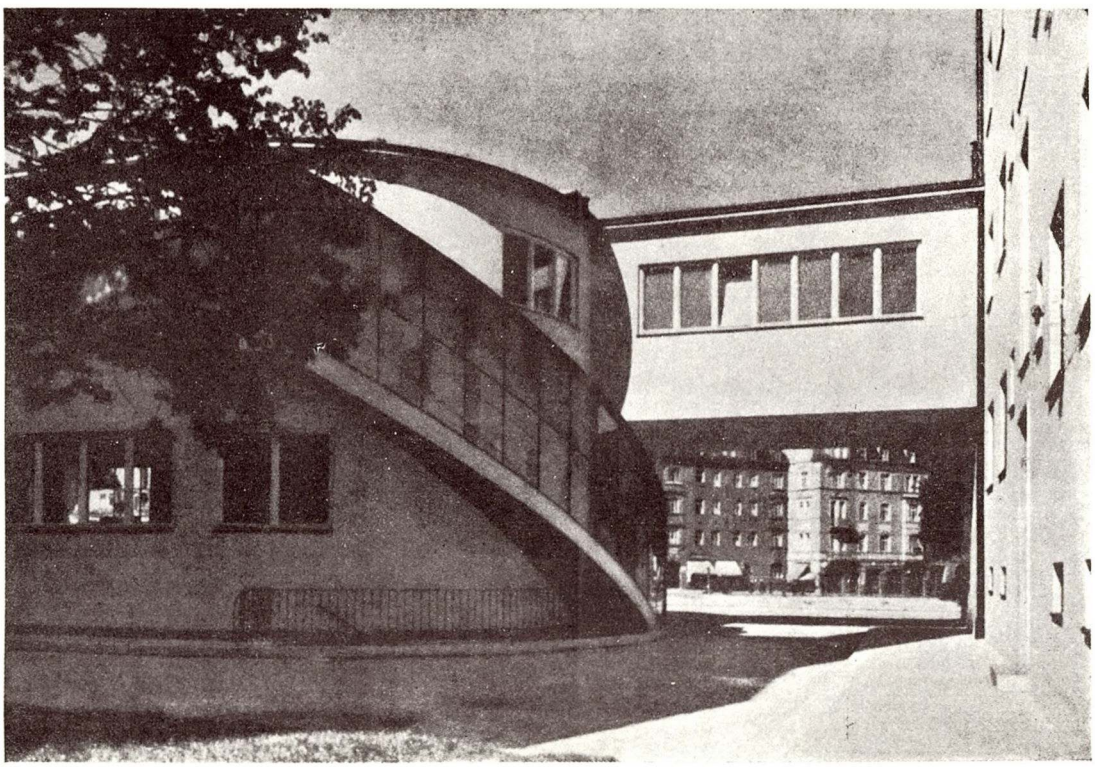
配 置 圖

郵便局の附屬したアパート

建築家 ロバート・フオルヘルツアー 69 III



北 側 外 觀



バス乘客待合室南側外觀

ミュヘンの町はづれの大通りに近い電車や自動車其他の交通頻繁な所にある。此うした場所にあるアパート設計の原則に違はず臺所、事務室、階段を表通りに、居室、寢室を後の庭園に面するやうに配置して、比較的靜かに、又日當りもよく居住する事の出來るやうに努めてある。

郵便局は辻に面し、その後に道を隔てゝアパートがある。店とか或は之に類似のものゝ上部を住宅にする事はどちらにも不都合が多いものであるから、此の場合にも郵便局は上部を住宅とせず獨立した建物である。各住宅は35平方米乃至40平方米で極く小さいが便到に設計されてあり、又各住宅に床まであるやうな窓をつけ、或は1階がコロネードとなつてゐて、日光に浴し、外氣に接する機會をあたへるに努めてある。その他庭園には泉水と運動場の設備がある。

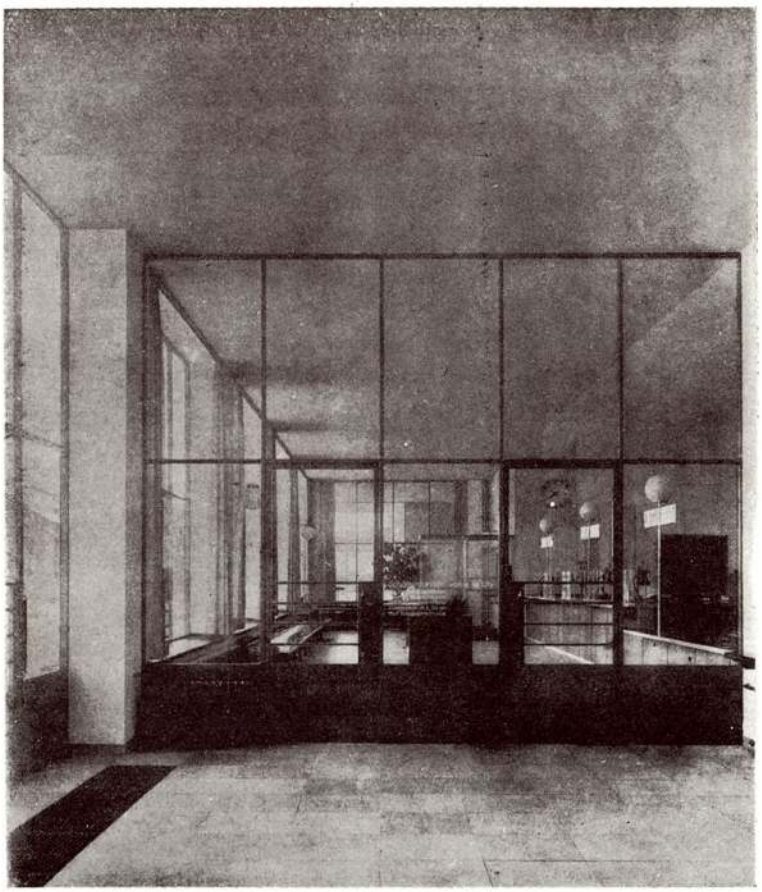
(Moderne Bauformen 1. より　本多　正道)

III 70 郵便局の附屬したアパート

建築家　ロバート・フオルヘルツアー



アパートの庭園側外観



郵便局内部

郵便局の附屬したアパート

建築家　ロバート・フオルヘルツアー

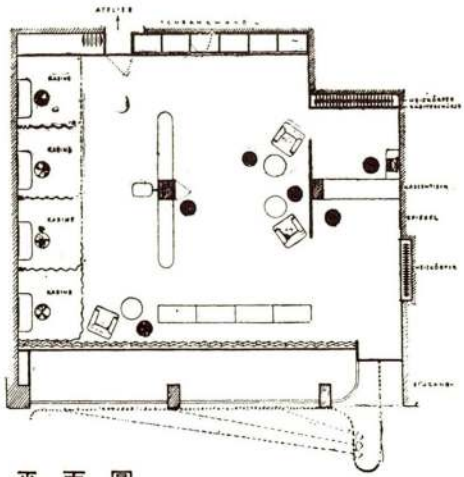


店内より屋外を望む

庇様のものは金色で文字とドアがテラカツタ色、カーテンは内部からは透明である。

(Moderne Bauformen
1.より　本多　正道)

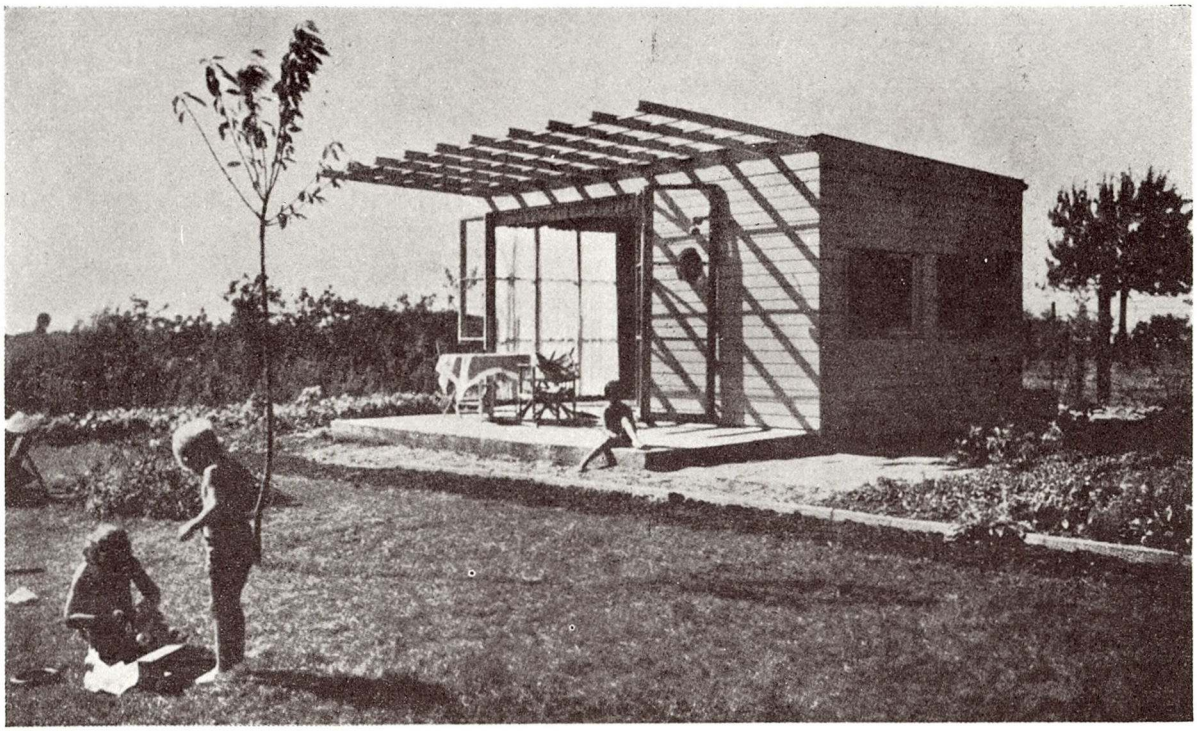
外　　觀



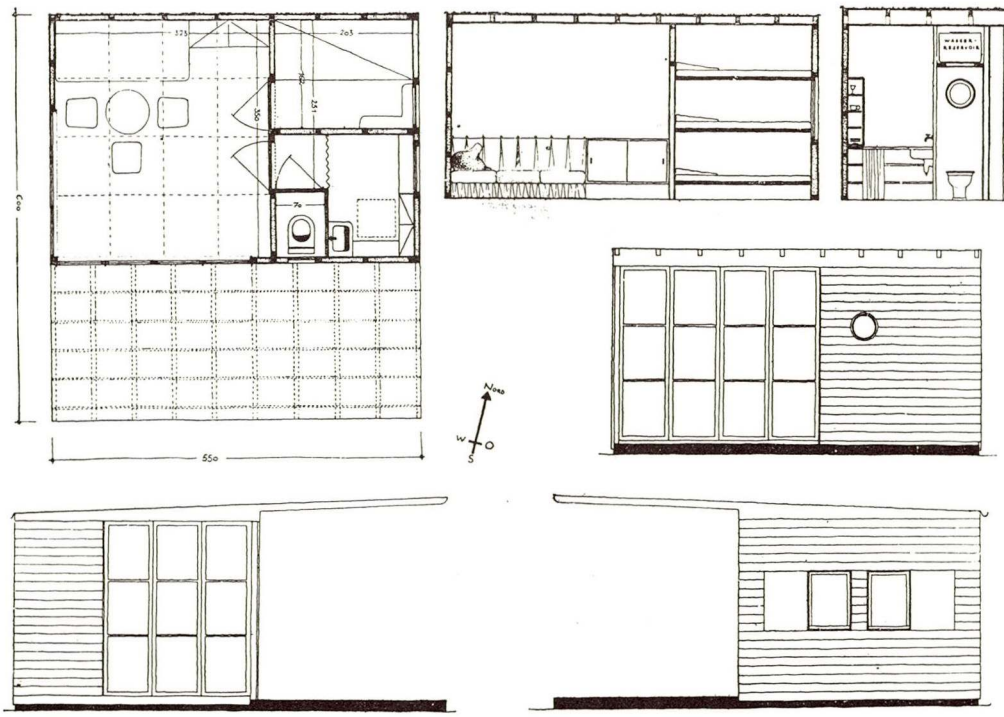
平面圖



III 72　ドユツセルドルフの商店「モーデプレンツラウ」　建築家　ベルン・ハルトプフアウ



外　　觀



平面及斷面圖

建築費 2000 マーク、室の内壁はベニヤ板張り

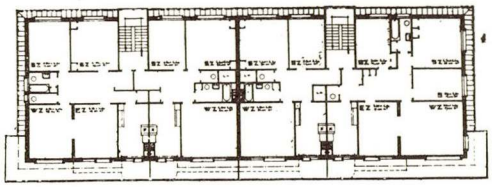
(Moderne Bauformen 1. より　本多　正道)

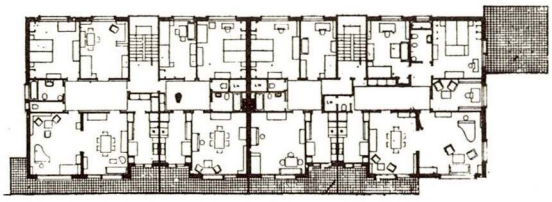


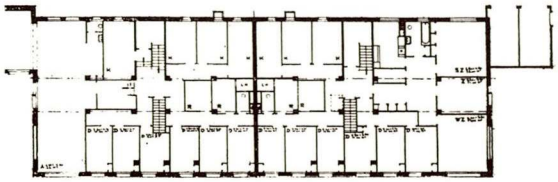
北側外觀



道路側外觀



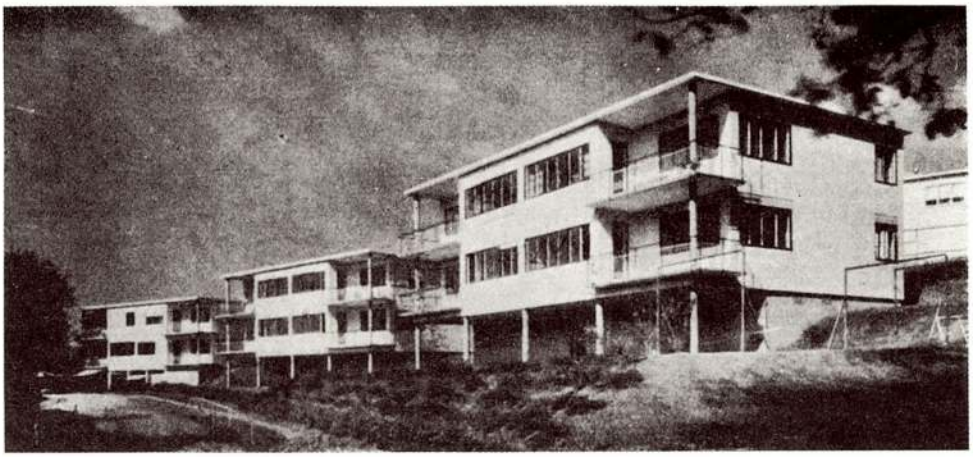




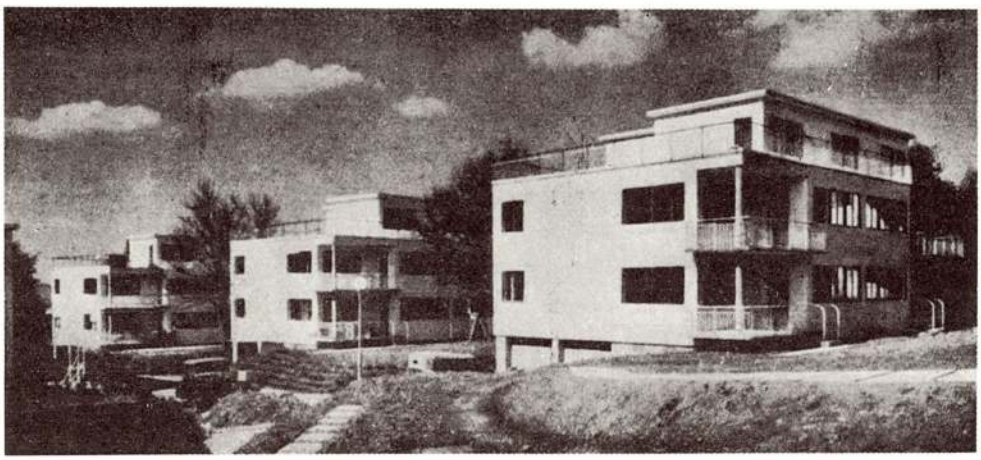
平面圖　上第4階　中標準階　下第1階

北側にアルプスの絶景をひかへてゐるので各階共西北側にテラスが設けてある。上部は法規によつて後退してゐる。地階には女中部屋倉庫及び兩翼に小さい二つの住宅がある。臺所は北側，外氣に接してゐない浴室には換氣筒の設備がある。屋上には洗濯場物干，等が附屬してゐる。

(Moderne Bauformen 1. より　本多　正道)

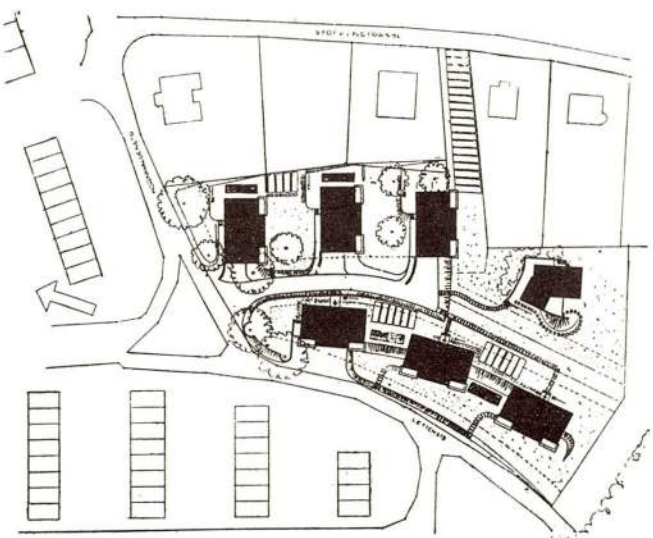


外觀その1

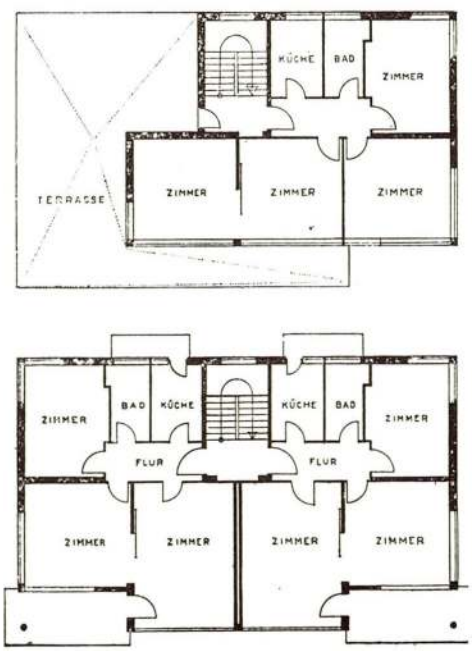


外觀その2

(Moderne Bauformen 1. より　本多　正道)



配置圖



平面圖　上3階　下1・2階

チユーリヒ・ノイビユールの五家族住宅

建築家　ウイリヤム・ドウンケル



1931年3月ゼネバに於ける國際交通會議により是認せられたる型式に準據したる交通標識がアムステルダム市に採用せられましたが、交通標識などは將來は國際的に明確なる標識に統一さるべきものと考へられます。

圖の第1標識は、左り曲りを禁す "No left turns" を意味し、矢は黒、外圓及び斜線は赤である、"Links of verfvaden" なる文字は公衆が標識の意味になれた時は直ぐ廢止されるものである。

第2標識は、ラツシユアワー例へば、8時より9時30分、12時より14時 午後2時）16時（午後4時）より16時（午後7時）の間如何なる車も停車を許されないことを示す、標識の地色は綠にて文字は白、外圓と斜線は赤である。

第3標識は、馬車及手押車は8時より9時30分まで、及11時30分より19時 午後7時）までは禁ぜられることを意味す、車の形は黒、文字は白、外圓と直線は赤色である。

第4標識は、終日駐車を禁す "No parking" の意味である、Parking の意味は、ニユーヨークと同樣に如何なる車も通路上に立停り又は客待ちしつゝあるものにして實際に乘客又は商品を乘せたり降したりしてゐないものを云ふ。P なる文字は黒、外圓と斜線は赤である。

（American City 1. より　内藤亮一）

現場打「コンクリート」並にその骨材の試験に就いて

張　菅　雄

吾々の試験室で行つてゐる材料試験の中現場打コンクリートの應壓强度試験の成績に就てその概略を記述して御參考に供して見たいと思ふ。

吾々の方では現場打の「コンクリート」の實際の强度と計算上に採用してゐる「コンクリート」の强度との關係を確めて幾らかでも工事の合理化經濟化を圖り度い趣旨から昭和7年12月以來現場打「コンクリート」の應壓强度試験を行つてゐる。或る工事が落札決定して工事に着手すると現場監督員を通じて請負者から「コンクリート」骨材即砂及砂利を各2種以上約5立宛を夫々內法 15 cm 角高さ 23cm の箱に收めて營繕課內材料試験室に送付せしめることにしてゐる。現場使用骨材の良否が現場打コンクリートの强度判定上有効なる判斷資料であり又その性質によつて試験室からは適切な調合比を指示し得るからである。

○○郵便局電話事務室新築　工事用骨材試料送狀

逓信省經理局營繕課工事係施工部御中

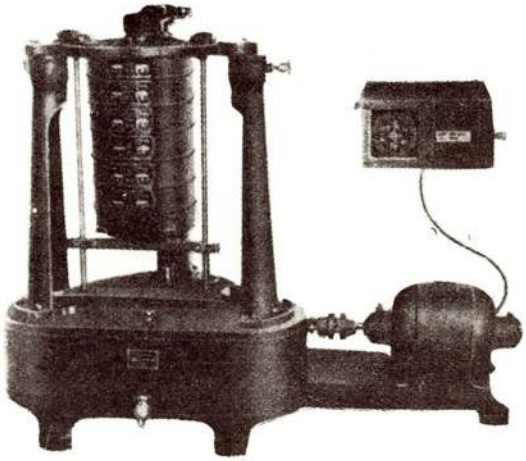
第　○　回發送試料　　昭和 8 年 9 月 9 日

試料番號	1 號	4 號	2 號	5 號
骨材種類	砂	砂　利	砂	砂　利
骨材採取月日	昭和 8 年 8 月 24 日	昭和 8 年 8 月 24 日	昭和 8 年 8 月 24 日	昭和 8 年 8 月 24 日
產地及俗稱	王川產 東京府北多摩郡砧村 上流小田急鉄橋附近	王川產 東京府北多摩郡砧村 上流小田急鉄橋附近	江戸川產 千葉縣松戸町地先	厚木產 神奈川縣厚木
河口ヨリノ距離（粁）	23	23	24	40
工事場ヨリノ距離（粁）	16	16	26	112
分布狀態	揃フ	揃フ	揃フ	揃フ
價格（1立方米）	2.20 円	3.00 円	1.60 円	3.00 円
運搬狀態	採取場～現場（トラック）	採取場～現場（トラック）	採取場～飯田町河岸（船） 飯田町河岸～現場（トラック）	採取場～代々木（鉄道） 代々木～現場（トラック）
產量	採取可能總量 18.000 m³ 一日採取量 120 m³	採取可能總量 1.118.000 m³ 一日採取量 300 m³	110.000 m³ 200 m³	數量ハ不明 300 m³
材質其他	硬質ニテ青黒色	硬質青黒色赤味交リ	硬質ニテ赤味ヲ帶ブ	硬質青黒色

以上　4　箇

工事監督者　技手　○　○　㊞

試驗室備付コンクリート試驗用機械



ロータップ篩振盪機（セメント、砂、砂利等）
½馬力電動機直結　**タイムスキッチ付**





ルシャテリエー
比重測定器

監督員が試料を採取するに當つて砂利は特に粒の大さによつて分離を來す恐れがあるのでその平均品質を表すと思はれる部分を選擇送付する樣注意することを怠らない樣にして居る。而して試料と共に砂及砂利の產地或はその採取箇所は之を參謀本部の $\frac{1}{20.000}$ 或は $\frac{1}{50.000}$ の地圖に標記して骨材に添付送付せしめて一目その地理的關係を判するに便してゐるが其他送狀に記入すべき事項として次の樣な項目が要求されてゐる。送狀は別紙の通りのものを使用してゐる。

1. 採取年月日
2. 產地（俗稱共）
3. 採取場所
4. 採取場所より現場迄の距離及運搬の方法利便等
5. 骨材各 1 m³ の價格
6. 骨材の分布狀態とその產出量の多寡

以上の調査事項を添付濕潤のまゝ送付して來た骨材試料を試驗室に於ては四分法により更に選別採取した上次の階程の實驗をする。

1. 篩分析試驗
2. 單位容積重量測定
3. 比重測定
4. 空隙率測定

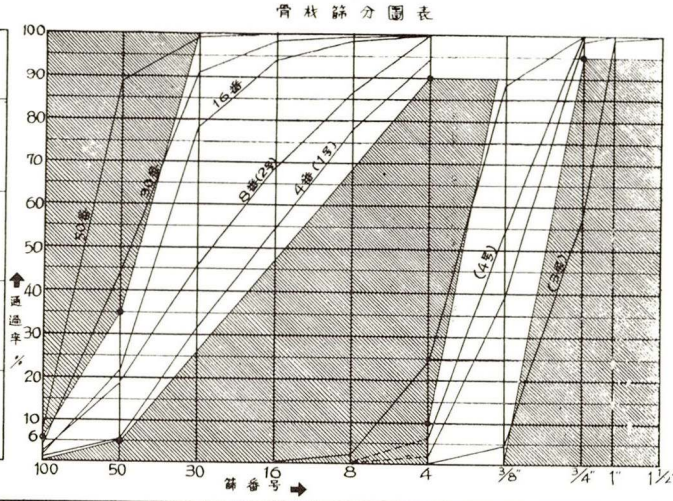
骨材試驗成績報告

檢印　　第　回　其

工事場　　監督

番号	骨材種類	産地及俗稱	採取月日	備考
1	砂	荒川砂 埼玉縣入間郡古谷村産	昭和8年5月8日	
2	砂	瀨戶川砂 愛知縣瀨戶市小瀨戶內産	昭和8年5月2日3	
3	砂利	小石原川砂利 福岡縣三井郡本郷村 字本鄕當地産	昭和8年6月15日	
4	砂利	多摩川砂利 東京府多摩川上流中島産 (稻田堤附近)	昭和年月日	

骨材篩分圖表



番号	材種	篩回数	1 1/2"	1"	3/4"	3/8"	4	8	16	30	50	100上	100下	粗率	粒位	單位容積重量g/l	比重	空隙率%	決定
1	砂	1					5.0	22.2	45.8	68.8	94.8	99.4	0.6		8番篩 4番篩 22.6%−5.4%=17.2%				
		2					5.8	23.0	44.8	68.8	94.6	99.4	0.6						
		平均					5.4	22.6	45.3	68.8	94.7	99.4	0.6	3.36	17.2%>15%∴4番以下	1,775	2.657	33.20	合格
2	砂	1						15.0	34.2	57.2	84.0	97.2	2.8		16番篩 8番篩 31.2%−13.8%=17.4%				
		2						12.6	28.2	50.8	81.4	96.8	3.2						
		平均						13.8	31.2	54.0	82.7	97.0	3.0	2.79	17.4%>15%∴8番以下	1.665	2.616	36.93	合格
3	砂利	1		1.8	42.5	96.4	100.0												
		2			46.1	96.1	100.0												
		平均		0.9	44.3	96.3	100.0							7.42		1,740	2.732	36.31	不合格
4	砂利	1				45.1	94.55	100.0											
		2				45.05	93.50	100.0											
		平均				45.08	94.03	100.0						6.39		1.750	2.631	33.50	合格

逓信省經理局營繕課

昭和　年　月　日

係印

5. 泥土及粘土の含有量測定

6. 有機不純物測定

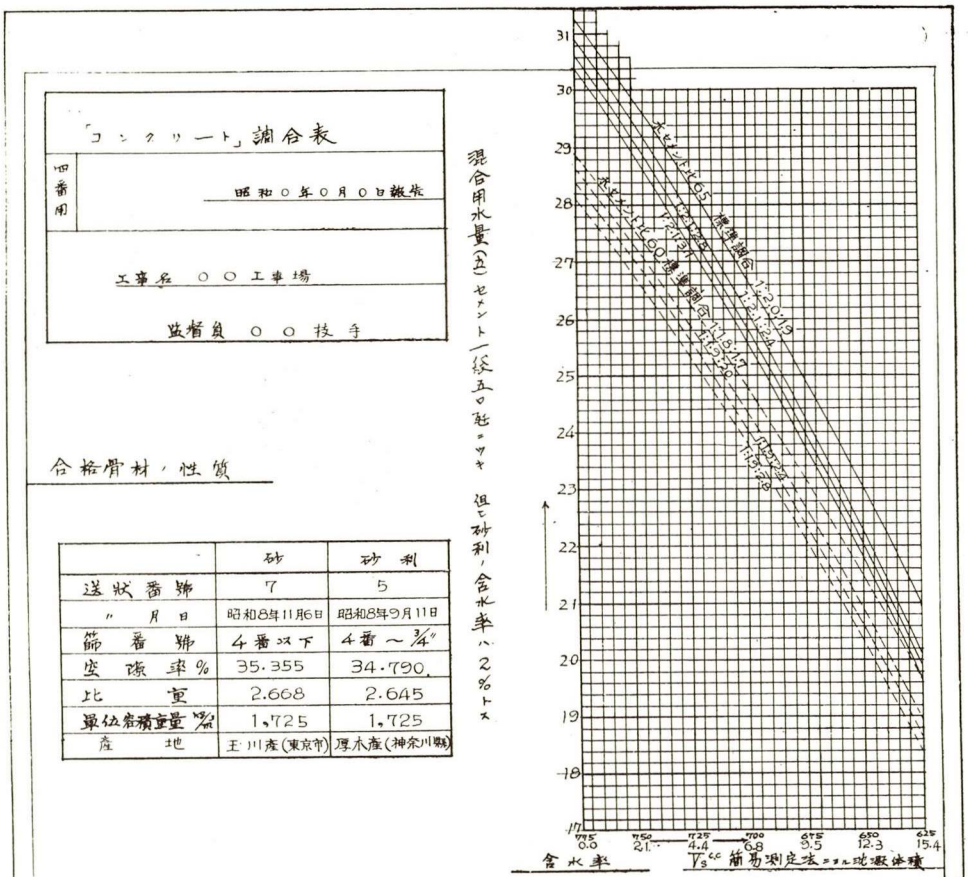
單位容積重量測定及篩分析試驗用に供する試料は空氣乾燥器に依つて 100°C から 110°C の溫度で乾燥し然る後冷却して行ふ。

1. 骨材篩分析試驗

骨材の粒の大さ及割合の如何は「コンクリート」の强度や單價に關係し經濟的見地からも大切な問題であるから之の粒の割合を知る爲に砂 500 gr 砂利 2,000 gr を秤量し建築學會標準篩を積重ねて同時に篩ひ得る振盪機 Rotap-Shaker にかけて篩分けてゐるが篩ひの限度の標準として 1 分間に各篩を通過する量が砂砂利等全重量の 1%（即ち砂は 5gr 砂利は 20gr 以內）となる迄篩ふことに定めてゐる。

表　示　方　法

篩分析は同一試料に對して 2 回行ひその結果は各篩を通過する量を全體に對する重量の



「コンクリート」調合表

四番用

昭和〇年〇月〇日報告

工事名　〇〇工事場

監督員　〇〇技手

混合用水量(五)セメント一袋五〇粁ニツキ　但シ砂利ノ含水率ハ2%トス

合格骨材ノ性質

	砂	砂利
送状番号	7	5
〃 月日	昭和8年11月6日	昭和8年9月11日
篩番号	4番以下	4番～¾"
空隙率%	35.355	34.790
比重	2.668	2.645
単位容積重量 瓩	1.725	1.725
産地	王川産(東京市)	厚木産(神奈川県)

含水率　　V_s^{66} 締固測定法ニヨル硬凝体積

投入水量圖表

上記骨材ニヨル調合表

種別	水セメント比	スランプ cm	標準調合	現場調合 容積増加率 砂 28.2% 砂利 52%	枡計量法ニヨル調合量(セメント50瓩ニ付キ) 砂 現場容積 ㎥	砂 枡ノ大サ cm	砂 杯	砂利 現場容積 ㎥	砂利 枡ノ大サ cm	砂利 杯	出来上ノ概略容積 ㎥	水量
第一種	65	15	1:2.1:3.1	1:269:326	0.0896	30×30×33.2	3	0.1086	30×30×30.1	4	0.1609	上圖表ニヨル
		19	2.1:2.8	269:294	896	33.2	3	980	27.2	4	0.1544	
		22	2.1:2.4	269:252	896	33.2	3	840	31.1	3	0.1457	
		24	2.0:1.9	256:200	853	31.6	3	660	24.4	3	0.1328	
第二種	60	15	1:1.9:2.8	1:243:294	0.0810	30×30×30.0	3	0.0980	30×30×27.2	4	0.1476	
		19	1.9:2.4	243:252	810	30.0	3	840	31.1	3	0.1390	
		22	1.9:2.0	243:210	810	30.0	3	700	25.9	3	0.1303	
		24	1.8:1.7	231:179	770	28.5	3	596	33.1	2	0.1216	

鐵道省建築課材料試験室

百分率で表はし之を骨材成績報告書に記入して骨材の性質を一目瞭然ならしめるやうにつとめてゐる、而して工事には下の規格に合格し且粒位の大なる骨材を使用することにしてゐる。

種　　類	粒　の　大　さ	重量百分率
砂	第4番篩を通過する量	90 以上
	第 50 番	5 以上　35 以下
	第 100 番	6 以下
	洗滌試驗により失はるゝ量	3 以下
砂　利	¾″ 篩を通過する量	95 以上
	第 4 番篩	10 以下

2. 單位容積重量測定法

砂及砂利の如き粒體は一般に其の計量方法によつて實量に差を來す事が多いので建築學會の標準方法に據つて之を行つてゐる。

3 比　重　測　定　試　驗

乾燥砂 90～95gr を秤量して「ルシヤテリー」比重瓶を用ひ砂利は一定重量の乾燥試料をとつて「メスシリンダー」で見掛比重を測定してゐるが比重 2.6 以下の骨材は軟弱で不良として取扱つてゐる。

4. 空　隙　率　測　定

空隙率は單位容積重量と比重とより計算によつて求めてゐる。

$$\text{實積率} = \frac{W}{S}\times 100\%$$……茲に W……單位容積重量　S……比重

$$\text{空隙率} = 100\times\left(1-\frac{W}{S}\right)\times 100\%$$

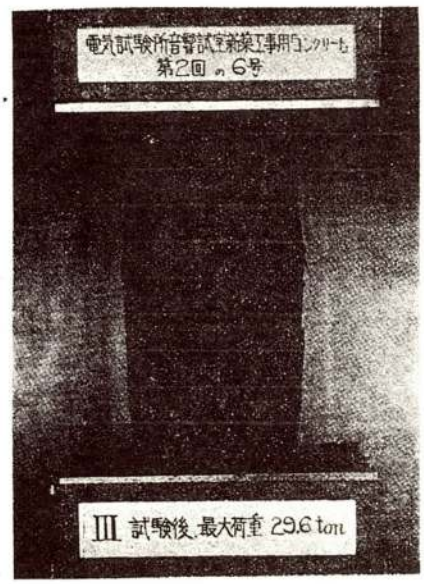
5. 泥土及粘土の含有量測定及有機不純物測定

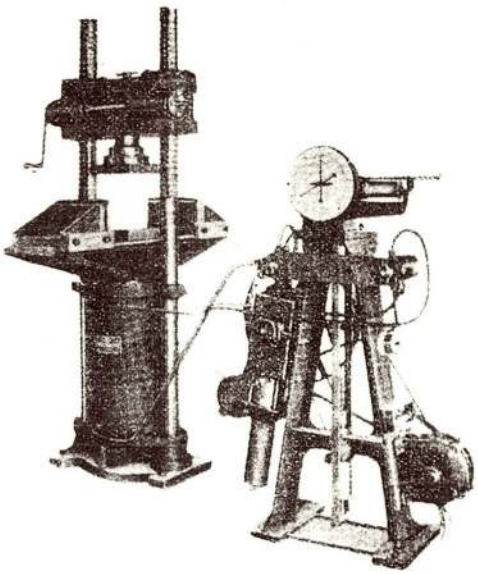
兩測定とも建築學會標準方法によつて試驗を行つてゐる砂に有機不純物を有害な程含むことは稀の様であるけれども時に腐植土の類が混入してゐることがあつて之は泥土粘土の類以上著しく「コンクリート」の強度を害するので嚴重に試驗をすることにしてゐる。以上の試驗完了の上に骨材の合格不合格を決定して別表の様な報告書を作成現場監督員に送付し尚骨材の一部は之を標本瓶に採取してその履歷を付し試驗室に保存して置く。

「コンクリート」調合圖表作製

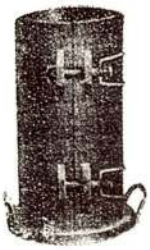
以上の様な手續で骨材の合格不合格を決定現場に通知すると現場監督員は現場に於ける各種の條件を考慮して合格骨材中何れをその工事に使用すべきかを決定し砂及砂利の骨材番號を試驗室に通知する。試驗室では之によつて別表の如き「コンクリート」調合表を作製して現場監督員に送付し現場監督員は之によつて現場の「コンクリート」打を實施する段取となるのである。「コンクリート」調合表は篩分析に依つて決定したる粒位即ち 4 番以下 8 番以下或は 16 番以下 30 番以下によつて異ること勿論である。

試驗室備付コンクリート試驗用機械

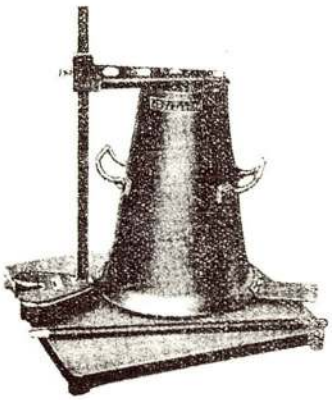




60—200瓲耐壓試驗機（セメント、混凝土、石材等）
振子動力計、自動記錄裝置、彎曲試驗裝置付
瓦馬力電動機付カムポンプ付ス



應壓强度試驗體型枠
（鐵板製、內徑15×內高30糎）



スランプ測定器

「コンクリート」强度試驗

「コンクリート」に於てはその應張强度や剪斷强度は壓縮强度程重要でなく且試驗も容易であるから試驗室では現塲打「コンクリート」に就ては唯その壓縮强度のみを試驗する事にしてゐる。即ち現塲に於て「コンクリート」打込直前に抜き取つた供試體を硝子板で覆ひ水分の蒸發を防ぎ上面が大體硬くなつた時分受壓面に仕上を施したる後濕砂又は水中に養生し製作日から4週强度試驗日迄に到着する樣に送付せしめ且別表の樣な送狀に詳細に製作條件を記入せしめる。而して送付の際供試體の各箇には記號並に「スランプ」を墨書し供試體は周圍 5cm 以上の濕砂中に包み內法 25cm×25cm×45cm の嚴重なる箱詰として動搖を防ぎ運送途中破損の處ない樣に注意してある。「コンクリート」供試體の記號番號へは各1工事中1連の通し番號とする「コンクリート」の强度は其の製作から試驗に到る迄の間に下に述べる樣な各階程の處理方法によつて左右されることが大きいので左樣なことのない樣細心の注意を拂ふ事にしてゐる。

1. 「セメント」の品質
2. 骨材の强度及硬度
3. 水　　質
4. 骨材粒の割合

○○郵便局電話事務室新築　工事用「コンクリート 試料送状

遞信省經理局營繕課工事係施工部御中

第 ○ 回發送試料　　昭和 8 年 7 月 10 日

試料番號	19	20	21	
採取箇所	梁 版	梁 版	梁 版	
採取月日	昭和8年7月2日	昭和8年7月2日	昭和8年7月2日	
脫型月日	昭和8年7月3日	昭和8年7月3日	昭和8年7月3日	
「セメント」製造會社	大分「セメント」由良工場 ポ五圓 12袋	大分「セメント」由良工場 ポ五圓 13袋	大分「セメント」由良工場 ポ五圓 13袋	
砂ノ産地及俗稱	春木町地先春木産	春木町地先春木産	春木町地先春木産	
砂利ノ産地及俗稱	和歌山市地先紀ノ川産	和歌山市地先紀ノ川産	和歌山市地先紀ノ川産	
配合比	1 : 1.7 : 3.2	1 : 1.7 : 3.2	1 : 1.7 : 3.2	
水「セメント」比	65	65	65	
混合方法及時間	機械練約一分間	機械練約一分間	機械練約一分間	
填充方法	供試体製作標準方法	供試体製作標準方法	供試体製作標準方法	
「コンクリート」ノ軟サ	「スランプ」 18.2cm	19 cm	18 cm	
養生法	水槽中ニ靜置ス	水槽中ニ靜置ス	水槽中ニ靜置ス	

以上 3 箇

工事監督者 技手 ○ ○ ㊞

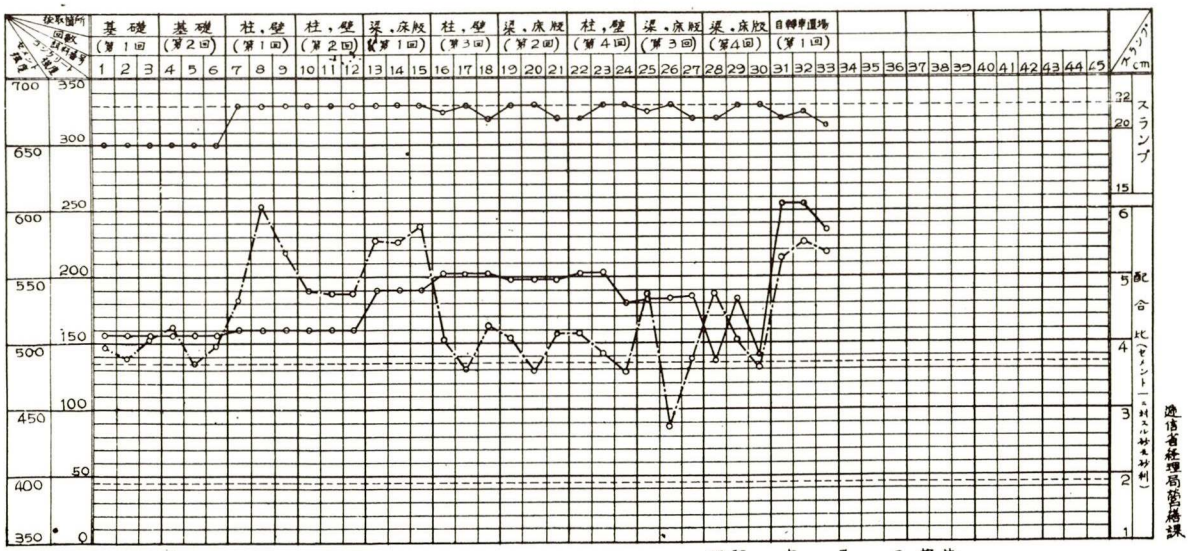
檢印

「コンクリート」試驗成績報告

第 回 其

工事場　　監督

番号	採取日	脫型日	試驗日	採取箇所	砂産地及粒度	砂利産地及大サ	配合比	水/セメント	軟度スランプcm	壓壞強度 四週強度 セメント袋(袋)	壓壞強度 全荷重ton	壓壞強度 kg/cm²	備考
28	8. 9.27	8. 9.28	8. 10.25	梁,床版 (第1回)	橫川 16番以下	橫川 4～¾"	1:1.7:2.8	65	21.0	485.7	32.9	186.2	受壓面及底面共良.
29	8. 9.27	8. 9.28	8. 10.25	梁,床版 (第1回)	橫川 16番以下	橫川 4～¾"	1:1.7:2.8	65	22.0	533.3	26.7	151.1	受壓面及底面共良.
30	8. 9.27	8. 9.28	8. 10.25	梁,床版 (第1回)	橫川 16番以下	橫川 4～¾"	1:1.7:2.8	65	22.0	490.7	23.0	130.9	受壓面及底面共良.
31	8. 11.22	8. 11.25	8. 12.20	自轉車置場 (第1回)	橫川 16番以下	橫川 4～¾"	1:1.5:2.5	60	21.0	605.0	37.8	213.9	受壓面仕上稍不良底面良.
32	8. 11.22	8. 11.25	8. 12.20	自轉車置場 (第1回)	橫川 16番以下	橫川 4～¾"	1:1.5:2.5	60	21.5	605.0	39.7	226.7	受壓面仕上稍不良底面良.
33	8. 11.22	8. 11.25	8. 12.20	自轉車置場 (第1回)	橫川 16番以下	橫川 4～¾"	1:1.5:2.5	60	20.5	584.0	38.6	218.5	受壓面仕上良底面良.

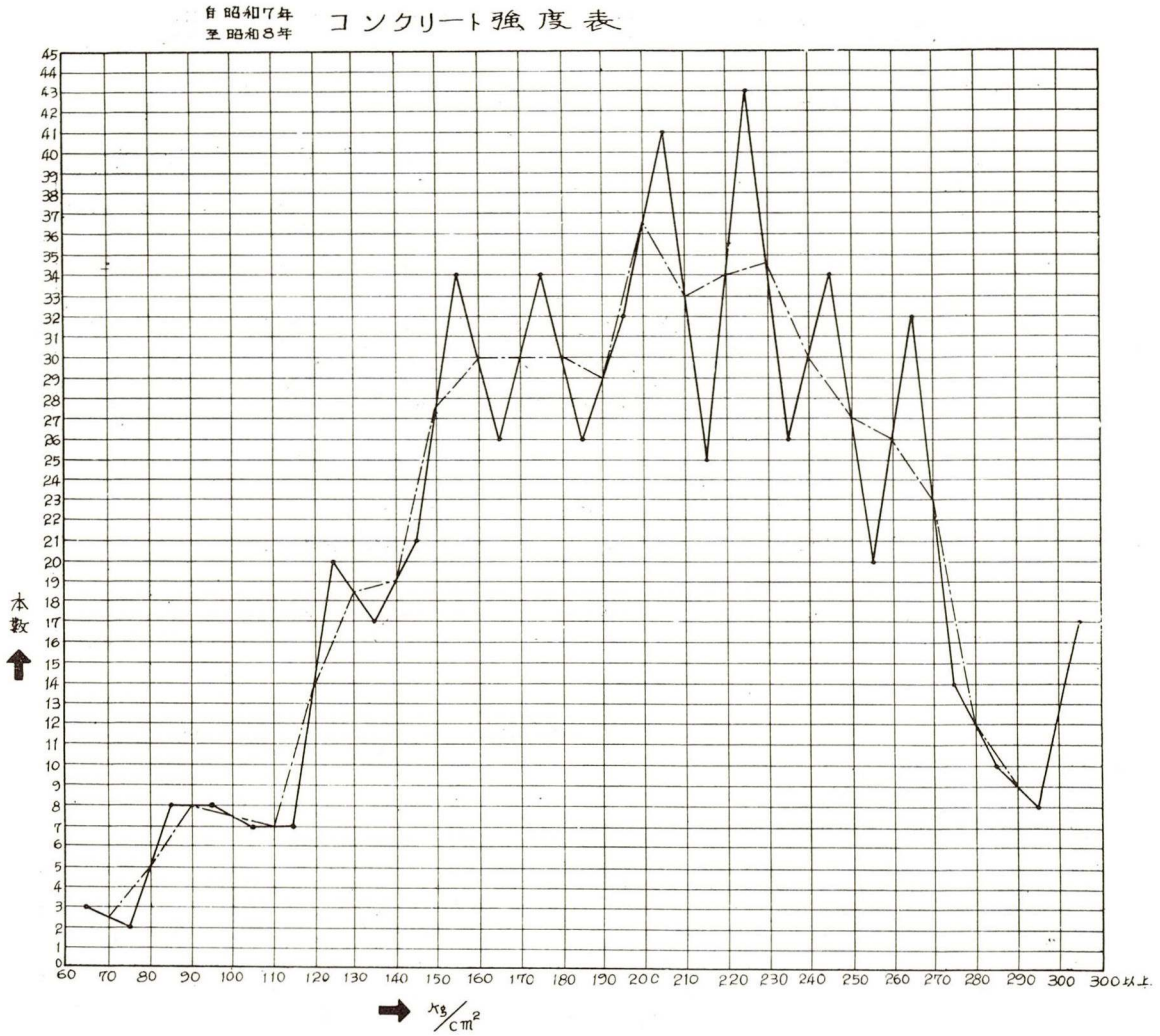


凡例 ○—·—○ コンクリート 四週強度
○——○ セメント(使用)四週強度
○——○ スランプ

昭和 年 月 日報告

遞信省經理局營繕課

係印



5. 「セメント」と骨材との比
6. 軟　　度
7. 製作方法（濕砂塡充）
8. 養生方法（溫度、濕度）
9. 材　　齡
10. 試驗體の形狀大さ、含水率、加壓速度等

（1）の「セメント」の品質に就ては該工事場使用の全部の「ポルトランドセメント」に就いて日本標準規格により 100 樽毎に 3 罐の割合で「セメント」試料を材料試驗室に送付せしめて粉末程度凝結試驗 1 週耐壓試驗及 4 週耐壓試驗及 1 週耐伸試驗等を施行してゐるが若し著しい強度低下を見る様な場合には現場に注意を促すことを怠らない様にしてゐる（2）の骨材の強度及硬度の點は比重や觀察及經歷等によつて判定する。（3）の水質に就て

は殆ど水道水を用ひてゐる(4)の骨材の粒の合は前述の篩分試驗の結果を用ひてゐる。(5)の「セメント」と骨材との比は「コンクリート」調合表に從つて施行し(6)の軟度は「コンクリート」の出來榮えに重大な關係を有する事項であるので完全に均一な「コンクリート」を得る事を前提として建築學會標準仕樣書通りの「スランプ」試驗を行つてゐる。(7)の製作方法も標準仕樣書に準據し(8)の養生方法は現場に於ては濕砂中に試驗室到着後は試驗期日迄水槽中にて養生する(9)の材齡は勿論4週間とし。(10)の供試體の形狀大さ及含水率加壓速度については供試體は徑 15cm 高 30 cm の圓壔型で「コンクリート」の凝結後も正確なる寸法を維持してゐる。1回の試驗の結果は3箇の平均値によつて決める。又供試體の拔取箇所はなるべく打込まれた實際のものに近いものをと云ふ建前から打込直前にとること前述の通りである。而して其の拔取量は1練の「コンクリート」からは1箇宛即ち平均すべき1組の3箇は各別の練上りからとつて試驗箇所の公平な平均を得る事に努めてゐる。含水率の測定に就ては現場監督員は建築學會標準仕樣書に據つて「コンクリート」製作直前數回施行して投入水量の調節を計つてゐる筈である。試驗室で使用してゐる試驗機は「アムスラー」型容量 100 瓲の耐壓試驗機で試驗時に於ける加壓速度は試驗の結果に相當影響するから無荷重の狀態に於ける傳壓板の移動速度を1分間に就き 1.3 mm とする事に決定之によつて試驗を行つてゐる。試驗にはその最大荷重のみを求め之を供試體の斷面積で割つて破壞强度を算出してゐる。以上の試驗を完了した上成績を別紙報告書に記して現場監督員に發送して作業上の參考に供する事にしてゐる。今迄に行つた供試體總數 515 本の成績は別表の通りで供試體の作成其他取扱上色々改良を要すべき點もあると思ふが現場打の「コンクリート」が如何なるものであるかの概念はつかみ得る樣である。折角の御依頼を無にするのもとの意味でホンの有り合せの材料で責を塞ぐ次第である。

供試体總本數五一五本

強度 kg/cm²	試料數	總本數ニ對スル10 kg/cm² 差ノ百分率	百分率
60以上 70	3本	0.583%	
70以上 80	2	0.388	
80以上 90	8	1.553	
90以上 100	8	1.553	
100以上 110	7	1.359	16.06%
110以上 120	7	1.359	
120以上 130	20	3.883	
130以上 140	17	3.301	
140以上 150	21	4.078	60 kg/cm²以上150 kg/cm²
150以上 160	34	6.602	
160以上 170	26	5.049	18.25%
170以上 180	34	6.602	150 kg/cm²以上180 kg/cm²
180以上 190	26	5.049	
190以上 200	32	6.214	
200以上 210	41	7.961	
210以上 220	25	4.854	44.08%
220以上 230	43	8.350	
230以上 240	26	5.049	
240以上 250	34	6.602	180 kg/cm²以上250 kg/cm²
250以上 260	20	3.883	
260以上 270	32	6.214	16.31%
270以上 280	14	2.718	
280以上 290	10	1.942	
290以上 300	8	1.553	250 kg/cm²以上300 kg/cm²
300以上	17	3.301	300 kg/cm²以上 3.3%

建築材料陳列場記

徳政金吾

前號に於て所謂吾等の陳列場の誕生を報し、同時に其の健全なる成長を希望した。斯る關係上今後其の內容を讀者に紹介することは筆者の義務にして又前號の豫告を裏書する所以である。

此記述を爲すに當りて前以て御斷り申置くことは其の順序及其の觀察は總て筆者の所見に係るものなるを以て、其の當を得ざる點は讀者の叱正を俟ちて他日是れが正誤を爲す機會を與へられんことゝ、記述の足らざる點は更に是れが補足を爲すべき機會を俟たれんことを希望する次第である。

◎東洋リノリユーム株式會社

大阪市東區瓦町二三和ビル(電話本局 2060 3910)

吾々の生活が座式から腰掛式に轉化せるとき其床面が疊から離れて行くときリノリユームが其の實用上、衛生上最も有要なる材料の一つであつたことは我が同人の等しく認識する所であらう。

斯の如き必需品であつたリノリユームも過去に於ては優秀品と言へば外國品に依るより他なき有樣であつた。

此の時に當りて東洋リノリユームは大正8年創立され、其の材料は主として內地品を用ひて優秀なる製品を社會に送らんとの熱望に燃へた。國家經濟の見地から、多大の犧牲と、幾多の忍苦とが拂はれた結果は、大正11年7月に海軍當局の嚴密なる實地試驗を經て本邦唯一の指定工場の榮を得ることゝなつた。

リノリユームの特性は

强靱、殺菌、耐火、無色塵、等にして而も掃除の簡易、數込の平易自由及色彩の數種ある點は事務所建築の床用として最も適當なり、住宅にては洋風の場合は無論各室に佳良なるも和風の場合に於ても應接室、食堂、臺所、廊下化粧室等に格好なる床材である。

本品の使用に當りては、其の敷込法と手入法に就ては其の効果を充分發揮せしむる爲めの注意は同社カタログに記載されてある之に就いて熟覽されたい。同社の製品リノタイルはリノリユームを美化したる高級品にして、上記用途の高級なるものに適せるものなり。同社製產能力は年額200萬平方碼以上也。

第 1 號

リノリユーム種類及定價表

(昭和9年2月 25日改正)

印	厚さ	糸色值段碼に付	色物值段碼に付	ジヤスペ各色
		円	円	円
D	1.7粍	3.20	3.70	
X	2.0〃	3.50	3.95	
E	2.2〃	4.30	4.80	
C	2.5〃	5.10	5.70	6.60
B	3.0〃	6.00	6.70	
EX	4.0〃	8.00	9.00	9.90
DEX	5.0〃	9.50	10.70	
TEX	6.0〃	11.20	12.50	

1. XECB は1本15坪分(長30碼)(幅2碼)
1. EX DEX TEX は1本7坪半分(長15碼)(幅2碼)
1. 伊丹工場渡

第 2 號

四粍厚リノタイル值段表 (材料代のみ)

銘柄	1坪枚數	1坪單價		摘要
1尺角	36枚	21	80	但し伊丹
1尺×5寸角	72〃	23	00	工場又は
5寸角	144〃	24	20	東京支店
5寸×2寸5分角	288〃	25	40	倉庫渡
2寸5分角	576〃	26	50	

◎ユニオン・トレーヂング コンパニー

(神戸市葺合區御幸通四丁目)

吾々が煉瓦や、タイルや、コンクリート壁に後

から何物かを取付くるとき從來は木煉瓦を用ひた併し是れは木材の收縮の爲め多くの場合は積込木煉瓦を除いては失敗の結果をもたらした、ロールプラッグは此欠點を補ふのみならず、其取付は頗る簡單にして、而も外觀に何等見惡き點を表さゞる特徴を持つて居る。斯の如き極めて輕便なるものに係はらず其の支持力は强大で中位の大さのものにて約半噸、大なるものは一噸に及ぶ程である

專賣特許ロールプラッグ其物は植物性纖維を特種防腐性藥品にて處理したるものを、中空圓筒形に製作したる物で其種類は木捻用及コーチスクリユー用の2種で價格は次の通りである。

第　1　表

木捻用ロールプラツグの種類定價表

ロールプラッグ番號		3	6	8	10	12	14	16	18	20
使用し得る捻釘の番號		1,2,3	4,5,6	7,8	9,10	11,12	13.14	15,16	17,18	19,20
ロールプラッグ長さ	½″	1.03	1.21	1.36	1.60	…	…	…	…	…
	⅝″	1.14	1.24	1.54	1.72	…	…	…	…	…
	¾″	1.21	1.36	1.66	1.86	2.17	2.58	…	…	…
	1 ″	1.30	1.60	1.92	2.17	2.49	2.95	1.99	2.40	2.82
	1½″	…	…	2.40	2.71	3.19	3.78	2.46	2.89	3.40
	2 ″	…	…	2.82	3.24	3.78	4.50	2.89	3.40	4.00
	2½″	…	…	…	…	…	…	3.40	4.00	4.56
	長短混用	1.24	1.36	1.99	2.23	2.82	3.60	2.82	3.40	4.00
1箱數量		百本入						五十本入		

第　2　表

コーチスクリユー用ロールプラツグの種類定價表

ロールプラッグ番號	使用し得るコーチスクリユーの徑	ロールプラッグ長さ						長短混合
		1½″	2″	2½″	3″	3½″	4″	
22	⅜″	2.90	3.78	4.36	5.22	5.80	6.68	4.22
24	7/16″	3.78	4.50	5.38	6.10	6.96	7.70	5.22
26	½″	4.36	5.38	9.10	7.12	7.84	8.86	6.10
28	⅝″	5.80	6.96	7.84	9.00	10.02	11.02	7.98

（一箱廿五本入）

此のプラッグを壁に取付るには其太さに適合する孔を穿つ丈のことであるが、其れには最も適當なる工具が備へられて居る即ち。

1. ジヤンピング（鋼鐵製、多角形の銳頭の錐）
1. プレツト（同樣品にて軟壁に用ふるもの）
1. ウオールボーラー（同樣品にて壁を貫通穿孔に用ふ
1. ツールホルダー（上記錐の柄となるもの）

1. イゼクター（ジヤンビングとホルダーとを取外す小錐）
1. ハンマー（錐頭を叩くもの、錐の大小に依り半封度一封度半）
1. シムビ電氣ハンマー（短時間に多數の穿孔用）
1. ユニオン電氣ドリールハンマー（ドリールト、ハンマーを兼たるもの）
1. 國産ユニオンハンマー（手働、機械ハンマーなり）

以上の工具に依りて穿たれたる孔に、ロールプラッグを挿込み、木捻又はスクリユーを取付るものなり。其用途は

階段手摺、便器、スタタレ、瓦斯器具、樋受、洗面器、タオル掛、メートル器、スプリンクラー各種棚用持送り、電話機、額釣、窓掛、各種配線配管用、其他電燈器具等の用途頗る廣汎なり。本社の創立は明治 44 年即ち 1910 年なり

◎富士建築工藝株式會社

大阪市東淀川區中津南通4ノ14
（電話土佐堀　149　6738）

同社は藤井盈次氏が大正 11 年 5 月、大阪市東淀川區中津南通りに製作所を創立し專ら家具製作及室内裝飾を營業して漸次發展しつゝありしが昭和 8年 11 月現在の如く其組織を株式會社に改め同時に東京不二サツシ製作所と特約してサツシ及シヤターを販賣しつゝあり。

工場は敷地 750 坪　工場建坪 650 坪

木材乾燥室、電動機 25 HP、其他製作機械。

營業課目は主として

家具製作、造作建具類、室内裝飾

特製合板製作、寄木工事、圖案設計

不二サツシ及シヤター受註販賣。

同社の製品の信用程度は次の納入先を見ることに依りて推測することが出來る。

納　入　先

（銀　行）

三十四銀行、野村銀行、住友銀行、鴻池銀行、山口銀行、第一銀行大阪支店、其他地方3銀行

（會　社）

住友系諸會社、東京火災保險會社、大阪瓦斯會社、日本生命保險會社、三菱系諸會社、其他六大會社

（百貨店）

十合、松阪屋、京阪デパート、其他十大百貨店

（ホテル）

寶塚、都、甲子園、萬平、六甲山、池の坊其他

（學　校）

明星、神戸女學院、關西學院、夕陽丘高女、其他二校

（官公衙）

第四師團司令部、大阪鐵道局、京大、阪大、愛媛縣廳、福岡市役所、四日市市役所、其他

（其　他）

大阪倶樂部、大阪商工會議所、有恒倶樂部、其他新聞社病院數ケ所

以上の外知名の紳士方の住宅の用命を受けたるもの多數ある由なり。

◎西原衛生工業所大阪支店

大阪市北區中ノ島5ノ30
（電話土佐堀　3718）

同支店の梗概は筆者が言ふ迄も無く已に讀者の詳知さるゝ所で蛇足の感あれども筆者の責任上次に其の要領を記述すべし。

1. 經　歷

大正四年本邦に於て始めて水洗便所汚水淨化裝置を考案し、衛生設備工事と共に爾來實施せるもの、畏くも宮殿を始めとし官衙、學校、會社、病院、百貨店、病院及住宅其他二千有餘ケ所にして最近の主なるものは文部省、東京高等商船學校、福岡簡易保險支局、大阪控訴院、大阪帝大附屬醫院日本銀行大阪支店、同松山支店、府中競馬場、南海ビルデング、阪神三宮ビルデング、東武鐵道淺草停車場、大丸、松坂屋、甲南病院、寺田邸等である。

1. 特　長

大正十二年以來國産衛生器具製造の合資會社ヤンソン製作所製品の特約販賣をなす、汚水淨化裝置は汚水中の有機性固形體を獨特の液化槽に依り其の液化力極めて旺なり從つて掃除の煩少し又酸化槽に於ては全ての機能均齊なる故酸化効率甚大なり、以上の理由に依り設備場所の所要面積比較

的少なく然も其成績極めて佳良なり。

ヤンソン製作所製の衛生器具は其の材質、工法共に嚴密なる技術的見地に依り外國優良製品を凌駕す。

1. 出品物說明

ヤンソン製作所製品は全て「パイロット」の商標を一々刻印し其の製品の責任を明にす、パイロットフラッシュバルブはフラッシュバルブの中樞機能のピストンを磨損變質し易き材質を用ひず特種金屬を用ひる事に依り恒久性なり。

パイロットシスタンバルブは在來のシスタンはサイホンを鎖引手にて働かせ居り兎角故障勝にして之に鑑み多年研究の結果引手及サイホンを全然要せず、亦フラッシバルブより機構單純にして作用絕對確實なり。

パイロットドレインネーヂ型繼手は亞鉛引鐵管に使用する排水專用繼手にして鐵管を捻ぢ込みたる場合には其の內面が一同面となりて汚水の疏通に支障なき繼手にして從來種々の不便不合理を忍びて鉛管を使用し居りしも之れを一掃し得たり。

以上の外に住宅衛生設備が逐年普及さるゝに伴ひ其の施工が在來の專門衛生工のみに俟たず一般の銅鐵工又は建築工の手により容易に施工し得るものを考案し、之れを「パイロット組立式住宅衛生裝置」として通信販賣式にて弘く提供するものなり。

◎野澤幸三郎商店（電話北 3469）

大阪市北區絹笠町大江ビル

洋藍を輸入さるゝ野澤氏が明治 39 年春に石綿盤を我國に輸入されたと言へば其れは獨逸品であり、恐らくは我國のアスベストスレートの擁籃であろう。氏は擁籃を我建築界に染付けて今日の隆盛に迄導いたことは同氏の功績も亦大なりと言ふべきである。日本石綿盤製造會社が同商店を母體として生まれたものであり、又其機械が獨逸のガスパリー會社に依りて設計され其の原料の一部は加奈陀の石綿を用ひ、小野田セメントを以て製造さるゝとすれば其當時の製品は日、英、獨の國際的合作品と稱すべきものであつた。

六甲山の南スロープが紅色の瓦で花の如く點々として色彩られたのは六甲スレートの誕生からであつたらう。此紅色から黑や、黃、綠等の色彩の要求となり、更に又一進せる新色、からす、小豆金紫、大紅、新綠等の生まるゝに到つたことは、一切の事物の進化道程に合致する歸趨である。

石綿盤の名が野澤氏に依りて名付けられたるものとは、今日では餘り知られない事實であらう。六甲瓦が其持續性に於いて、石綿スレートに優り此色彩の自由と成型の正確とが、日本瓦に一步を進め居ることは何人も異論なき所であるべく、而して恐らくは其の爲めに日本瓦が手工から機械化に進みたる原因を爲して居るものであらう。

同商店取扱品は

日本石綿盤
六甲スレート
六甲タイル
野澤浪スレート
野澤大平板
パイオニヤルーフイング
アルテツクス
等である

◎山本窯業商店（電話北 303）

大阪市北區芝田町

山本窯業商店は山本氏の個人經營である。同氏は建築界に於て殆んど知らざる人なきが如き存在であることは、如何に氏がタイル界に對し貢獻すること大なりし結果と、需要側に對しても好き相談相手であつた賜に外ならない。

氏が備前陶器より日本窯業品川白煉瓦に、其業務の合同推移に伴つて、其の販賣の手腕を繼續しつゝ遂に大正 6 年 5 月各製造所と提携して獨立開業し、今日に到る迄前後約 20 年間只是れ斯界の爲めに活躍し、今後も亦變らず斯界に盡力さるゝであらう事は、次ぎ次ぎに新案タイルを我が建築界に提供することに徵しても是を證明することが出來る。此の表現の一つは自由タイルを推賞することである、自由タイルは、タイルの形の上に現はれたる整正から來る、固さをぼかして天然の環境に調和せしめんとの要求に應じて製作されたもので、是れは煉瓦の愛好國である英國や、和蘭陀の煉瓦造建物に表現される企圖と全然一致せる思想である。

自由タイルの製作者は斯く云ふ。

1. 自然と人工の美を遺憾なく發揮し
2. 我國の時物に適合し、その民情と合致す。

云々

山本氏の營業課目は、各種タイル、テラコツタモザイクの販賣である。

◎住友伸銅鋼管株式會社

大阪市此花區島屋町（電話土 505 518）

明治より大正に懸けての我國の洋風建築が其の屋根や蛇腹等に銅コーペル板を使用したる關係上住友伸銅所の名前は、吾々には極めて親密であつた。

鐵筋コンクリート造の發達と共に、屋根や蛇腹に銅板を使用せざる傾向を生じてから其の製造者との關係が疎遠になつたかに思はれたが、其れが再び昔日の關係に立歸る狀勢となつたことは次に擧げる同社の沿革史が能く此間の消息を物語つてゐる。

沿革 同社の事業は、明治30年4月 日本製銅株式會社の工場全部を住友家が讓り受け住友別子銅山の精銅に加工して銅、眞鍮の板、線、棒等の製造を創めて以來年を逐ふて發展し、製品の種類も銅眞鍮の大板、亞鉛の板、棒、白銅、アルミニウムの板、線等を加へ、 42 年9月より銅、眞鍮の引抜管の製造を始めました。是れが我國に於ける引抜管製造の嚆矢である。同社は尙進んで引抜銅管の製造を計畫し、45 年 5 月先づ水管式汽罐管を、次で蒸氣管、自轉車車體管を製出し、大正2年5月更に機關車焰管及スチームタービン翼材料の製造をも開始された。

更に大正 8 年 9 月には兵庫縣尼崎市に尼崎工場を設け、銅管材の自給を計ると共に熱間仕上繼目無銅管、各種形銅等の製造を始めました。又同年輕合金住友デユラルミンの製造を完成して我國輕合金工業の先驅となり、大正 14 年には高級なる輕合金鑄物の製造を始め、爾來研究に研究を重ね各種の優秀なる輕合金を製造し昭和6年超輕合金マグネシウム合金の創造に成功した。

同社は永年前述の通り住友伸銅所と稱し住友家個人の經營なりしが、大正10年 2 月住友合資會社伸銅所となり、更に大正15年 7 月株式會社に組織を變更し今日に至り、其製品は艦船、航空機鐵道、機械、電氣、建築、鐵工等各方面の材料として使用せられ、絕大なる信用を博しつゝあり。

尙安治川上通の同社永年の工場敷地は、大阪市中央卸賣市場の敷地となりしため移轉の止む無きに至り、冷間引抜鋼管工場は從來の尼崎工場の隣接地に、一般伸銅品、輕合金等の工場全部は大阪市此花區島屋町現在の本社所在地に、夫々近代的工場を建設し、昭和3年之が移轉を完了し益々其發展の途に上られたり。

又昭和6年4月當社の傍系會社として住友アルミニウム株式會社を設立し、純アルミニウム板及アルミニウム箔の製造を爲すことになり。其製品は本陳列所に他の製品と共に出品せられあり。

建築材料としては前述の如く銅板が雨樋、廂、屋根葺、軒蛇腹、化粧貼等に、眞鍮管が手摺、支柱、格子等に耐久力と高雅な色調とを有する爲めに他の材料と調和して建築の一部を爲すことは衆知のことであるが、同社の壓延製法は創業以來 30 餘年の永い經驗と研究を重ねたる爲め其の製品は一段と優秀なる性質を有つてをる。又從來の建築用ブロンズ類は施工後暫時にして光澤を失ひ、疎らに變色し且つ漸次暗黑味を帶び來る缺點があるので、同社は苦心研究の結果優秀なる住友アトーブロンズを創製致されたり。其結果板管棒鑄物等は貴衆兩議院其他大建築物の扉、欄間、窓枠、柱頭等に、裝飾と實用とを兼ねて使用せられ多大の賞讃を博されたり。尙住友デユラルミン、スーパーアルミ SA 1、ホワイトブラス等の白色系金屬は大阪朝日ビルの建築に當り多量に使用せられて是等輕合金の用途に一段の躍進を見再び建築界に花々しく返り咲かれたことは同社の努力の賜と言ふべきである。

又建築に關聯して使用せらるゝ同社の水道銅管は衛生上絕對無害且つ鉛管の缺點を完全に補ふ而已ならず更に幾多の長所を有することは注意すべき點である。 （以下次號）

會　　報

役　員　會

常　務　會　（第1回）

日　時　1月8日午後6時20分—7時50分
會　場　建築倶樂部別室
出席者　理事　片岡、萩野、松室、
監事　岡部、富士岡、
常務　今林、井上、浦、中澤、清水、
鈴木、平塚、秋田、加藤、新名、高橋

1 午後6時20分—同着席片岡會長より開會を宣し直に議事に入る
1 1月例會（新年宴會）に關する件（可決）
1 綠ヶ丘住宅博に協會出品住宅（二階建の分）に關し會社買取りに付契約方法の件（未決）
1 建築材料陳列場完成に付常設委員設置に關する件（修正可決）
1 常設、特設委員並編輯部員其他選定及擔當常務割當に關する件（未決）
1 大林組より依頼に係る住宅設計圖案懸賞募集に關する件（可決）
1 會員詮衡

入　會　者

會員　池田彌之助、森山要、岩田喜久藏、鈴木一小野美造、片山勝、關屋正知、布袋國雄（地方在住）　清野彌三郎（地方在住）
普通賛助員　山田豐三、佐々木義夫、

退　會　者

會員　藤枝良一、生野彌三郎、藤澤安太郎（地方在住）井上準一郎
普通賛助員　廣田透、神山秀一、櫻間大丈夫、武部爲三、永井享一
報　告　1 昭和8年12月分會計報告（承認）
1 昭和8年度決算概算報告（承認）
1 役員、委員慰勞會清算報告（承認）
1 滿洲建築協會長より滿洲國政府訪問報告の件
1 記念事業出版委員會報告（承認）
1 建築學會通知東京市廳舍敷地に關する建議書の件

常　務　會　（第2回）

日　時　1月22日午後6時10分—8時30分
會　場　建築倶樂部別室
出席者　理事　松室
監事　岡部
常務　今林、井上、浦、中澤、渡部、清水、鈴木、平塚、秋田、加藤、新名、高橋

1 午後6時10分—同着席開會片岡會長欠席に付松室副會長議長となり議事に入る
1 2月例會に關する件（可決）
1 建築材料陳列場幹事會規程其他に關する件（修正可決）
1 常設委員會委員、編輯部員、「建築學研究」編輯委員會委員等決定の件（可決）
1 特設委員會存續に關する件（修正可決）
1 綠ヶ丘住宅博覽會出品住宅（二階建）に付會社買取りに關し契約の件（未決）
1 協會員の本會に關する意見發表の件（可決）
1 會員詮衡

入　會　者

會員　湊源太郎、小栗治平（地方在住）梶吉芳夫
特別賛助員　松井邦彦、金谷信吉
普通賛助員　吉原愼一郎

退　會　者

會員　山口儀三郎、山崎源逸（地方在住）
普通賛助員　伊東一郎
報　告
1 會誌2月號編輯報告（承認）
1 1月例會（新年宴會）準備報告（承認）

常　務　會　（第3回）

日　時　2月5日午後6時5分—8時
會　場　建築倶樂部別室
出席者　理事　片岡、萩野、松室
常務　今林、浦、渡部、清水、鈴木、秋田、加藤、新名、德政幹事長（幹事會經過報告のため）

1 午後6時5分片岡會長議長となり開會德政陳列場幹事長出席ありて幹事會經過等下の報告あり
（1）　披露會の件
（2）　1月29日開會幹事會の結果

(3) 看視人に關する件
(4) 1月分會計報告
次で議事に入り下の案件に付議決す
1 大阪市教育部より申越に係る職工講習會開催の件(否決)
1 綠ヶ丘住宅博へ協會出品住宅(二階建の分)を會社買取りに關し契約書の件(未決)
1 會員委員會委員決定の件(可決)
1 敎化委員1名增加依囑の件(可決)
1 新聞記者團設置に關する件(未決)
1 協會員の本會に關する意見の件(可決)
1 建築資料協會より申越に係る「住宅に關する刊行物」一部寄贈の件(可決)
1 剩餘金處分の件(可決)
1 古戶棚等處分に關する件(可決)
1 會員名簿及代表者寫眞等寄贈の件(可決)
1 定款及會員名簿等寄贈の件(可決)
1 雜誌交換の件(可決)
1 雜誌寄贈の件(可決)
1 日本學術振興會學術部へ回答の件(可決)
1 會員詮衡

入　會　者

會員　菊池辰淵、岡橋作太郎、渡邊平、市場常義、榊木直助、中村謙治、岡田忠雄、今井元一郎
特別賛助員　赤司健之
普通賛助員　平川直實、池田雅一郎、熊澤六朗、能勢進、平塚精一、兼子秀男、藤本兼雄、岩橋省吾

退　會　者

會員　小川兵一郎、松井角平(地方在住)
特別賛助員　森分康雄
普通賛助員　小倉元之助

報告

1 2月例會準備報告(承認)
1 協會員逝去報告
1 常設、特設、「建築學研究」編輯各委員會初回開會に付報告(承認)
1 昭和8年度決算報告(記念事業十二月末現在中間報告)(承認)
1 昭和8年度第3回會計檢査報告(承認)
1 1月例會會計報告(承認)
1 「建築と社會」3月號編輯に關し報告(承認)
1 建築材料陳列場幹事會內規中變更經過報告(承認)
1 東京市廳舍建築に付懸賞募集の件

1月例會(新年宴會)

日　時　1月26日午後5時—8時
會　場　綿業會館
出席者　青木友一氏外103名
概　記

1 天氣清朗寒氣强し定刻5時綿業會館6階休憩室に集る協會員50餘名時の移ると共に漸次增加す午後5時30分餘興を開始し先づ阪口芳三郎氏の紹介にて花月亭九里丸君の滑稽漫談に時々笑聲起る6時漫談を終り直に隣室宴會場に來會者一同を招し第2餘興の活動寫眞(アフリカ猛獸國探險2卷)を映寫し沈默の裡に觀覽
1 午後6時30分愈々新年宴會に移り一同滿堂、食後片岡會長より本年は皇太子殿下の御降誕並世界的財界の狀況より見て景氣回復の徵あり此際吾等建築界のものは協力一致本會の益々發展を期せられんことを希望する旨の挨拶あり一同乾杯の後意見交換あり先つ武田博士會長より指名權を得て坪井誠一氏に指名意見發表あり
次で井上主記より本夕の新年宴會に淡陶株式會社大阪支店長櫛田藤郎氏より同社創業五十年記念として陶器「美哉功鉢カバー」を一個宛寄贈ありし旨披露あり次で櫛田藤郎氏、池田實氏、中西六郎氏、石田信夫氏等順次指名によりテーブルスピーチあり
斯くて午後8時新年宴會は和氣靄々盛會裡に日出度會長閉會の辭により終了したり

委　員　會

常設特設各委員會(第1回)

日　時　2月1日午後6時15分—7時30分
會　場　建築俱樂部
出席者　都市計畫委員會
伊藤和、北垣、喜多村、椎原、鳥井、德政、戶塚、伴野、福富、吉田
法制委員會
石川、工藤、白川、武田經、玉置、津田、坪井、宮脇、山口
敎化委員會
伊東恒、篠原、高木、姬野、本間

材料委員會

池田宮、楠瀬、作間、道田、松久保、吉本

災害强度委員會

落藤、佐野、谷藤、三浦、矢田

設備委員會

伊東宗、小笠原、塙、增井、政岡、村田八木

住宅委員會

赤松、小川陽、小川安、岡本、岡田、松本、增山、三木

(特設)建築會館委員會

阪井、鈴木、谷民、德政、松室、森本安井

建築と社會編輯部會

岡田、桐本、內藤、中西、吉田

建築學研究編輯委員會

伊東恒、新名、瀧澤、棚橋、横山、吉田

理事常務

松室副會長、井上主記、浦主記、中澤主記、渡部主記、清水主計、鈴木主計、平塚主計、秋田編輯、加藤編輯、新名編輯高橋編輯

1. 午後6時15分常務、委員一同着席松室副會長より本夕御多忙の砌繰合せての御來會を謝し片岡會長は目下滯京中に付自分が代り挨拶する旨を述べ本夕は例により各委員會の委員長及幹事の互選並各委員會の定例會合日其他委員會研究方針等に付御協議を願ひたしと希望を述ぶ
1. 各委員は席を異にして集合第一回の委員會を開き委員長及幹事の互選其他を決定し書面を以て副會長に報告の上散會したり
1. 委員長及幹事の互選結果下の如し

都市計畫委員會

委員長　鳥井　信
幹事　伊藤　和夫
幹事　北垣熊之介
定例日　毎月第1第3火曜日

法制委員會

委員長　津田　敏雄
幹事　玉置豐次郎
幹事　坪井　誠一
定例日　毎月第1第3木曜日

敎化委員會

委員長　古宇田　實
幹事　姫野　武
幹事　本間　乙彦
定例日　毎月第4木曜日

材料委員會

委員長　池田　宮彦
幹事　松久保敬三
定例日　毎月第1第3水曜日

災害强度委員會

委員長　波江　悌夫
幹事　黒田　茂
定例日　毎月第1木曜日

設備委員會

委員長　小笠原　朗
幹事　伊東宗太郎
幹事　松井清之助
定例日　毎月第2第4水曜日

住宅委員會

委員長　武田　五一
幹事　小川　陽吉
幹事　松本　儀八
幹事　增山　新平
定例日　毎月第1水曜日

(特設)建築會館委員會

委員長　安井　武雄
幹事　阪口芳三郎
幹事　谷　民藏
定例日　毎月第2月曜日

建築と社會編輯部會

委員長、幹事等設けず

建築學研究編輯委員會

幹事　棚橋　諒
幹事　吉田　信武

都市計畫委員會(第2回)

日時　2月6日午後6時15分—8時30分
會場　朝日ビル倶樂部
出席者　委員長　鳥井
幹事　伊藤、北垣
委員　喜多村、椎原、德政、戸塚、伴野、吉田

1. 本委員會本年度の調査研究の目的に付種々協議の結果今夏7月京阪神を中心として防空演習の

開催せらるゝを好機とし右演習に關聯して都市計畫問題並防火防空建築を一般市民に普及せしむる事は最も時宜に適するものならんとの意見一致し「武裝都市の建設」を調査研究の目的とし大きく社會に働きかけることを申合す

1. 即防火地區を制定し防火建築の促進助長並避難道路の選定避難設備の設置等

本委員會が指導者となり一般市民の之等に對する注意を喚起せしめ「防火建築でなければ駄目だ」との感を痛切に抱かしめる事が第一である

1. 目的達成の手段方法

(1) 防火地區、防火區劃設定建議
(2) 防空演習參加
(3) 防火建築促進示威運動
(4) 防空防火展覽會

1. 次回委員會には各委員下記に對する腹案を持寄り大體のプランを取纏め常務會に報告し得る樣進めること更に詳細に亘りては各員より種々材料の提出を待つて協議することゝす

(1) 防火地區の選定實行運動に要する資金調達の腹案(島井委員長)
(2) 避難に必要なる空地等選定の腹案(伊藤幹事椎原委員)
(3) パンフレット作製に關する腹案(吉田委員)
(4) 空襲防禦のみならず進んで攻撃する爲飛行機の發着場等の設置其他(各員)

特設建築會館委員會(第2回)

日　時　2月12日午後6時15分—7時40分
會　場　建築倶樂部別室
出席者　委員長、安井
　　幹　事、谷
　　委　員、阪井、鈴木、德政、松室、山脇

1. 午後6時15分建築倶樂部別室に於て安井委員長座長となり開會

安井委員長より先づ簡單なる就任の挨拶ありて本夕は第2回の委員會開會の旨を告げ

この建築會館建設事業は昨年迄創立滿15年記念事業の一として研究を進め來たのであるが昨年は中途より立消(理由はあるが)へとなり本年更めて研究することになりました自分としては只今の處白紙であるが昨年進行しつゝありし模樣に付大體を御話せんと說明せらる

尙德政委員よりも附加說明あり

1. 夫れよりビル經營の困難なることに付委員の說明あり結局一般ビル經營は困難なるにより特殊のビル建設が適當なりとの意見一致せり

尙ビル經營者の問題
　資金の問題
　其他種々意見の交換ありて

結局
　建築會館建設を計畫すると同時に一面に於て適當(借賃の最も安き而して適當の地にある)なるビル借入れ先に付捜索するも利口なる方法なりと意見の一致を見たり
　故に次回委員會には竹腰委員阪口委員の出席を是非願ひ尙曩年交涉の際の參考書持參を依頼すること及阪口委員には藏前會館の經營に付參考書類持參を依頼することとし研究を進むることに決定散會したり

設備委員會(第2回)

日　時　2月14日午後6時20分—7時50分
會　場　建築倶樂部別室
出席者　委員長、小笠原
　　幹　事、伊東、松井
　　委　員、塙、增井、村野、村田

1. 午後6時20分建築倶樂部別室に於て開會

小笠原委員長より前回委員會に於て申合せたる如く本會の研究問題は昨年に引續き潛函工事に付研究を進め尙其の外に研究すべき事項は御考慮の上本夕持ち寄りを願ひ置きたり御提出ありたき旨を述べ其他研究事項に付協議に入り結局下記二問題を併行して研究を進むることに意見一致せり

(1) 潛函工事の研究
(2) 建築工事設備より起る騒音を防ぐことの研究

1. 依つて來る2月28日の定例日には先づ「潛函工事に付て」研究することに決し當日には下記の人々に是非出席を願ふことに取計ひをなすこと

　　委　員、西村安彦君
　　瀧　邦一君
　　鹽路惣吉君　技術員(潛函會社)

住宅委員會(第2回)

日　時　2月14日午後6時—7時30分
會　場　建築倶樂部別室

出席者　委員長、武田
幹　事　小川、松本、增山
委　員　赤松、小川、岡本、岡田、小林、三木

1. 6時武田委員長座長となり開會
先づ今年度に於ける本委員會の調査研究題目に付種々意見の交換をなしたる結果凡そ住宅に關聯して「防」の字のつくもの例へば防盜、防鼠、防寒、防臭等々毎月一種類乃至二種類を豫定し置き座談會の形式で必要に應じては專門家の出席を煩し各員も夫々意見を述べ互に研究することは最も有意義であらうとの意見一致す
尙其の座談會の記錄を速記すれば大變宜い記事が出來る譯である

1. 月別に依る研究題目は大體次の通り
3月　防盜
4月　防鼠
5月　防濕、防腐
6月　防臭、防音
7月　防熱(冷房)……簡易なるもの
9月　防虫
10月　防寒
11月　防火

1. 以上座談會には協會員の隨意參加を歡迎し各月の豫定表は最近の雜誌に發表すること
尙每月の例會通知書の餘白等をも利用して一般に此の計畫を知らしめたき希望なり

1. 次回委員會は3月14日とし當日迄に防盜に關する器具の蒐集方を委員長より松本幹事に依頼ありたり

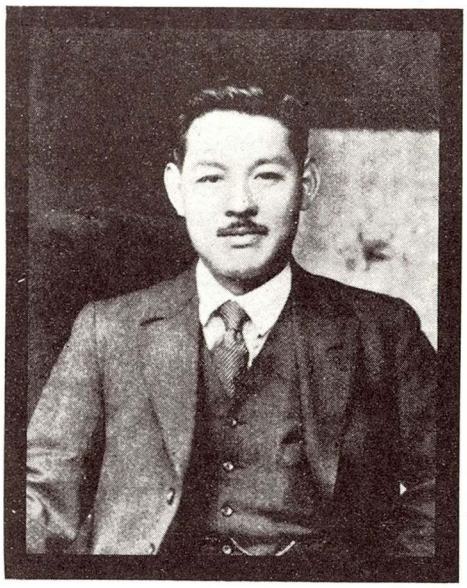
法制委員會(第2回)

日　時　2月15日午後6時35分—8時20分
會　場　陳列場別室
出席者　委員長、津田
幹　事、坪井
委　員、石川、工藤、白川、武田經、永瀨、宮脇、山口

1. 午後6時35分陳列場別室に於て開會
津田委員長より前回委員會に於て研究の決定事項は昨年度に引續き法規に關する質疑應答を雜誌により發表すること

1. 次に以上以外の研究問題に付種々協議討論の結果以下の事項に付研究することに決定
(1) 現市街地建築物法の地域制限の實際に適用する場合に於て切實を缺く嫌なきや其研究
(2) 現市街地建築物法第一條にある住居地域、商業地域工業地域の他に未指定地域を加ふる必要なきや否
(3) 現市街地建築物法適用區域內に於て建築主に代りて官廳に提出する圖書を作成するを業とするものは一定の資格を有するもの丶外は取扱ひ得ざる樣規定することを當局に建議するの可否

終身賛助員　桐田　登氏



終身賛助員桐田登氏昭和9年1月27日病を以て長逝せらるゝに哀悼に禁へず茲に照肖と略歷を掲げ謹で弔意を表す
桐田氏は明治19年4月28日大分縣宇佐郡明治村に生れ幼にして京都に遊學し京都一中京都三高を經て大正3年京都帝國大學法科を卒業後高砂生命保險株式會社に庶務課長として勤務し同8年之を辭し諸機械の製作販賣業を經營し傍ら工學士今井卯作氏と共に都市上下水道衛生煖房工事請負等建築の機械設備に關する業務を目的とする桐田商會を創立し之が經營に從事し大正13年本協會終身賛助員となる
昭和9年1月27日病を以て他界せらる享年49歲

會員動靜

入會者

會員

今井元一郎君　神戸市灘區德井大和町 310
合資會社清水組

菊池　辰彌君　大阪市西區土佐堀2,2　清水組

岡橋作太郎君　西宮市南郷町102　（株式會社大林組）

渡邊　平君　神戸市灘區深田町2ノ59（清水組）

市場　常義君　神戸市葺合區琴緒町4ノ129（清水組）

柵木　直助君　大阪市三島郡吹田町2614(清水組)

中村　謙治君　神戸市葺合區上筒井町4ノ13ノ12
小田方(合資會社清水組)

岡田　忠雄君　大阪市天王寺區生玉町133(美素工業所)

特別賛助員

赤司　健之君　大阪市北區澤上江町4ノ103（東京鋼鐵家具株式會社大阪支店）

岡崎　福松君　大阪市西區靱北通3ノ3（土木建築請負業）

松原　誠一君　大阪市西成區千本通3ノ21

笹井　勉君　大阪市旭區赤川町1312（窪島工業所）

松本芳太郎君　大阪市東區船越町2ノ24(株式會社松重電機商店專務取締役社長)

瀧田　安市君　大阪市西成區千本通1

普通賛助員

岩橋　省吾君　兵庫縣武庫郡精道村打出中川原2
森上浩行方（日本セメント防水劑製造所大阪出張所）

藤本　兼雄君　大阪市住吉區王子町3ノ37(鐵道省大阪改良事務所)

兼子　秀男君　西宮市今津浦風62（鐵道省大阪改良事務所）

平塚　精一君　兵庫縣武庫郡瓦木村高木字上河原272

能勢　進君　兵庫縣揖保郡龍野町、龍野中學校內(兵庫縣內務部營繕課)

熊澤　六朗君　大阪市外吹田町砂子2911（大阪建築所）

池田雅一郎君　兵庫縣武庫郡精道村打出芳竹19
（日本セメント防水劑製造所）

平川　眞實君　大阪市東成區中道元町1ノ125

別所　檝君　大阪市港區千代見町2ノ17(合資會社岡田組大阪支店)

茂木　良三君　大阪市西成區粉濱本町3ノ11(後藤工務店)

佐竹　信次君　大阪市東區木野町45（內務省大阪土木出張所）

木村正左衛門君　大阪市西區幸町通4ノ2(材木商)

澤邊　衛司君　大阪市北區東野田町5ノ16（澤邊組）

島　良司君　大阪市旭區赤川町1281（武智式基礎工事務所）

長井才次郎君　大阪市東區高麗橋2（三越家具係）

安藤　金吾君　大阪市旭區關目町217(大阪三越住宅建築部)

退會者

會員

平井　勇馬君　小川兵一郎君

同(地方在住)　松井　角平君

特別賛助員　島中　濤介君　森分　康雄君

普通賛助員　長澤喜代造君　山下　登君
牧田　勝兵君　鹿村　萬吉君
小倉元之助君

轉勤轉居

會員

牧　毅君　兵庫縣尼崎市西難波中通1,492ノ2

神谷　光彦君　大阪市外吹田町3244

川上　要君　京都市右京區桂久方町54

地方會員

櫻井謙二郎君　朝鮮咸北羅津港寶來町大林組出張所內

大谷木　廣君　東京市四谷區傳馬町1ノ3　白鳳社建築工務所

綿谷　宏一君　廣島縣御調郡三原町　帝國人絹三原工場發電所錢高組詰所內

木田　延衛君　東京銀座西7　資生堂ビル　高橋事務所

普通賛助員

前田　健次君　吳市中通1ノ14　清水組出張所

大倉　莞吉君　廣島縣賀茂郡廣村多賀谷新開　吳航空隊廳舍其他新營工事場大林組廣出張所

東　具君　京都府下新舞鶴北吸官舍東治良吉方

武井　德松君　大阪市旭區放出町144

安家　正明君　兵庫縣御影町

坂田　春彦君　石川縣小松町柳町

鶴岡　文雄君　東京市芝區田村町3ノ2

建築倶樂部室

倶樂部案內

開館時間　午前9時より午後9時迄

バ　ー

改設後のバーはお蔭を以て毎日賑かになりました精々御利用願ひます。

ブラン、ウヰスキー其他御隨意のカクテルに其他ソフトものも二三は出來ます、尙日本酒は灘の生一本菊正宗です。バイスと係の者が皆樣の御越しをお待いたしております。

諸研究會

各研究會もなかなか此頃盛となりました、どうぞ下記の內同趣味の方あらば精々御參加願ひます。各部共初心者を歡迎いたします。

圍　碁

木本二段並に御令妹毎週土曜午後4時より會費月 ¥ 1.00 (3月より改正)

南　畵

太田湘蘭先生、毎月第一第三火曜午後6時より會費月 ¥ 2.00

俳　句

青木月斗先生、毎月第一第三木曜午後6時より會費月 ¥ 1.00

謠　曲

觀世流松下粂造先生、毎月五と十の日午後6時より　會費月 ¥ 1.50

長　唄

杵屋和津次師、毎週水金午後4時頃より會費月 ¥ 3.00

骨　相

砂川哲人師、毎月2回第二第四の火曜午後6時より　會費月 ¥ 3.00

以上は何れも本クラブ員の特點の一つとして個人教授料に比し著しく低廉なる會費です、特に圍碁部は3月より會費1圓50錢の處一圓に改正いたしました此際御參加を募ります。

三月カレンダー

2	金	長唄	5	月	謠曲
7	水	長唄	8	木	俳句
9	金	長唄	10	土	圍碁、謠曲
13	火	南畵、骨相	14	水	俳句
14	水	長唄	15	木	謠曲
16	金	長唄	17	土	圍碁
20	火	謠曲	21	水	長唄
23	金	長唄	24	土	圍碁
27	火	南畵、骨相	28	水	長唄
30	金	長唄、謠曲	31	土	圍碁

以上の通りであります變更のない限りは御案內いたさない場合があります何卒御繰合せ御出席願上げます。

お知らせ

3月7日(水)午後6時よりクラブ員有志發起にてダンスパーテイーを寶塚會館で催します、食費及テイケツト10枚で會費 ¥ 4.00 御同好者は當日直接寶塚會館附屬食堂へお集り下さい。

長唄稽古　愈よ2月2日より開始しております、此際御申込歡迎します、稽古場當分の間下の通り

戎町雁風樓前杵屋和津次師匠宅

御　禮

本クラブは擴張前より經費の點甚だしく困難を感じ常に協會よりも借室料の援助を受け又--昨年夏は各方面より御寄附を戴きましたが此度擴張の諸費用が相當增加し益々經濟上憂慮いたしつゝあります際下記の通各位より多額の御寄附金を受けました事を此際會員一同と共に厚く感謝の意を表する次第であります。

寄附者御芳名　(二月末日現在)

藤木正一殿	¥ 200.00
島貿易株式會社殿	¥ 100.00
マルエル工業株式會社殿	¥ 100.00
淺海治平殿	¥ 100.00

以上は御申込順

大谷金庫大阪支店よりバー用として小手提金庫一個御寄贈賜り有難く拜受日々使用しております

お願ひの事共

毎々御願しております御入室の時マーク御佩用及同伴者の方共姓名御記入の事是非御勵行願ひ上げます。此頃新入會の方相當あり其他見知らぬ方の出入が多くあり最近に於ては(2月26日午前11時～午後1時)會員の方のオーバー紛失いたしました事もありますので出來る限りの注意はいたしますが特に來館名簿に御記入願ふ事は給仕などの注意の點にも關係いたします、尙帽子柵等に御勝手に幾

日も小荷物お預けの方がありますが之等は到底クラブに於て責任を持つ事も出來ず又甚だ狹隘を感じますからなるべく御荷物はお忘れなく御持歸を願上げます。

序ながら昨今廿日鼠が室内を荒して困つてゐます出來る丈豫防法講じてありますが御參考迄に申添えます。

將棋競技會報告

曩に御案内いたしました通り2月20日開戰の結果下の通り非常に盛會裡に終了いたしました。

1等　木村壽德氏
2等　加田安彥氏
3等　三宅保男氏
4等　片岡長參氏
5等　菊池二郎氏

謠曲部月並會報告

2月24日曾根崎稽古場にて下の通り月並會を開催いたしました

加　茂	シテ	伴仲氏	ワキ	大和氏
巴	シテ	井上氏	ワキ	伴　氏
吉野天人	シテ	武田氏	ワキ	水上氏
杜　若	シテ	大和氏	ワキ	山中氏
大佛供養	シテ	須川氏	ワキ	水谷氏
羅生門	シテ	加藤氏	ワキ	水上氏

祝　言

退會者

2月中退會者下の通りです。

吉村清太郎氏

入會者御紹介

2月中御入會者下記の通り御紹介いたします。

赤司健之氏　西區阿波堀通1丁目49 東京鋼鐵家具大阪支店(電新554番)
野田正夫氏　西宮市今津曙109番地
石田信夫氏　大阪市天王寺區悲田院町3
岩橋省吾氏　兵庫縣武庫郡精道村打出中川原11 森上浩行方
瀧田安市氏　西成區千本通1丁目（電天下茶屋3786番）
島　良司氏　大阪市旭區赤川町1281
別所　槙氏　大阪市港區千代見町2ノ17(電北955)
金谷信吉氏　大阪市住吉區住吉町1740(電住吉2160番)
松原誠一氏　大阪市西成區千本通3ノ31



擴張されたる倶樂部室

編輯後記

□雲のゆききや水の搖ぎにも春のなごやかさが見えて來た。
梅の花もさかりをこして、やがて來たる春には大地の中から芽を吹いておもいおもいにのびてゆく、又は木々の枝端に新綠を吹く、又は蕾をもち花をひらいてのびのびとした新鮮輕快な氣分が漂つて來る。

□人の心も輕るく人の動きも賑かになつて大に談じ、大いにやつて樂しんで可なりである。

□「建築と社會」も 慶祝の"新年號"、亦材料陳列場が出來て協會の屋臺が大きくなつた記念を意味して"建築材料號"と出てまづ段取りがついたし、本年度の編輯方針も大體を定めたので諸賢の御助力によつて盛に御研究なり、御所見を書いて戴だき亦殘すところなく雜誌を讀んでいただきたい考へで居る。

□そうして行く內に次第次第に雜誌がよくなる、亦諸賢の御考へがはつきり反映されて「建築と社會」が一時も手元を離されぬやうになつて行く、實に結構なことで大きな樂しみである。

□本月號は編輯同人も諸賢にお願ひする前自らも前座をつとめて日頃の所感や所見を述べて見ることにして"新しい建築の傾向"の名目でまとめて見た、只前號に揭載すべきもので締切の關係上本號に載せたもの、其他一二御願ひしたので誌上更に花を添へた。

□"市街地建築物法令"（第3版）また昨年暮に出た15年記念出版 "續住宅圖案集" は共に好評で斯の種出版でのレコードを作つてゐる、まだお求めのない方は申込んで頂きたい、會員の方へは優待がある。

（秋田生）

建築と社會

第17輯第3號

毎月1回1日發行　定價　1册 .50圓（郵稅2錢）　12册 6.00圓（同 24 錢）

昭和9年2月25日印刷　昭和9年3月1日發行

發行・編輯　印刷人　鷹取陽
西宮市今津町津門字寶津605番地

印刷所　大阪活版所
大阪市東區內淡路町1丁目7番地

發行所　社團法人 日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル
電話長本局(23)4500番(6)
振替口座大阪39975番

特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋北
電話土佐堀 2440番
振替口座大阪 2084番

禁轉載

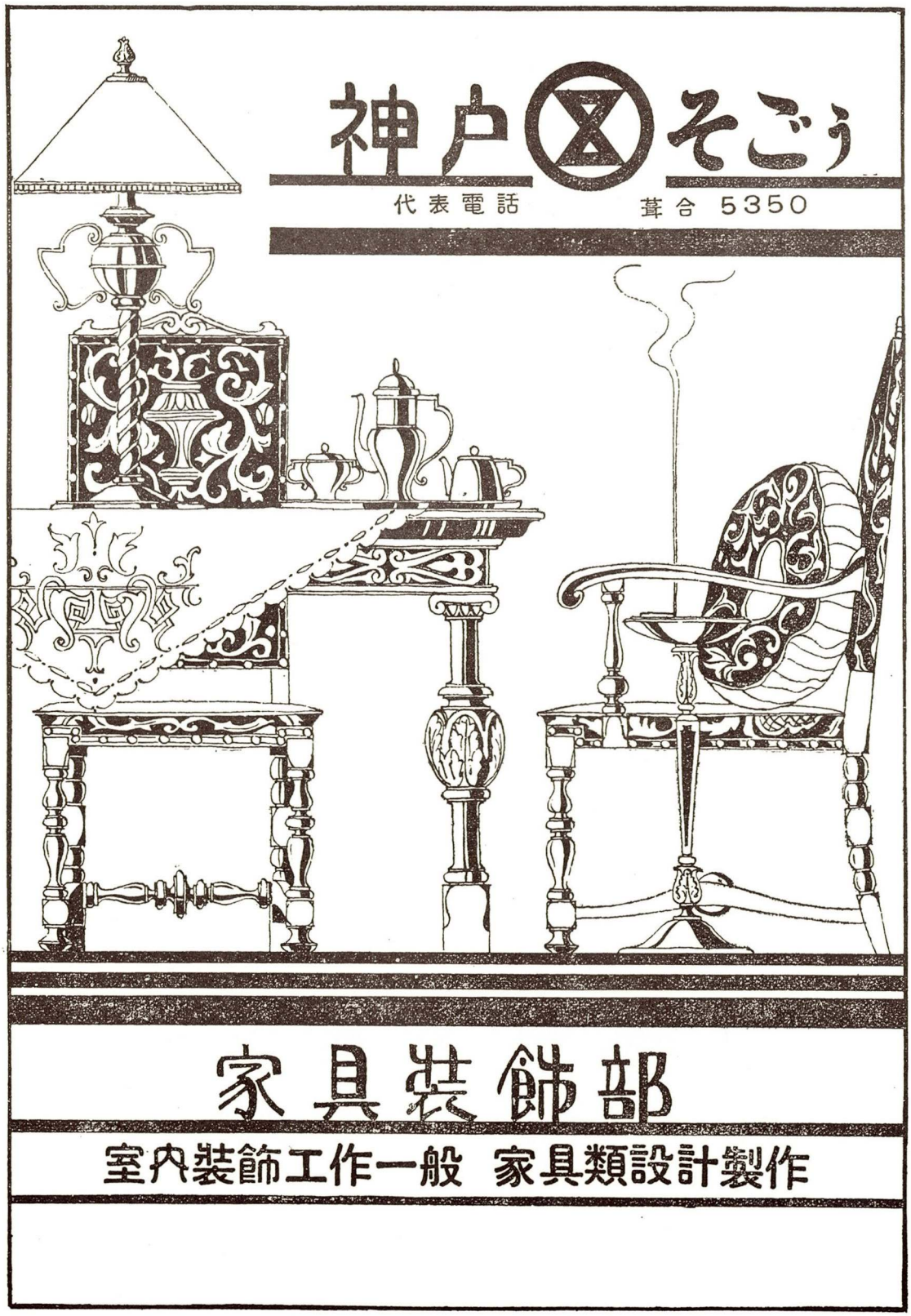
本誌に揭載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告揭載料金

普通	1頁	1回	15.00
普通	½頁	1回	8.00
普通（前附第1頁）	1頁	1回	45.00
普通（前附第2頁）	1頁	1回	40.00
普通（後附第1及最終頁）	1頁	1回	25.00
アート（中揷）	½頁	1回	20.00
表紙2	1頁	1回	60.00
表紙3	1頁	1回	45.00
表紙4	1頁	1回	80.00
建築事務所錄	1欄	1回	1.50
（建築關係樂器案內）	1欄	1回	5.00

御注文

御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。


神戸そごう
代表電話 葺合 5350
家具装飾部
室内装飾工作一般 家具類設計製作

安心して委せ得る野澤

御計劃の有無に不拘、御探否は
兎も角無御斟酌御召出し若くは
御照會を賜はり度、十分御會得
被遊候迄は何回にても喜んで貴
意ある御答可申上候

見本、製錢、御沙汰次第呈送

資行第一！
信用第一！
品質第一！

六甲スレート

強力色彩体其他の追從を許さぬ
厚型スレート界の逸品！
六甲は沙張し品

日本石綿盤

乙號出スレートの御指定
色合、灰白 淡黒 からす
小豆 金茶 大紅
寸法16″×12″×3/8″
厚 4.5-6 mm.
關西著一文字等賽方多數ノ
本邦スレート界の最組

品質は石綿とセメント
耐壓力無限
床張に、陸屋根に、外壁に

六甲タイル

色合—灰白・黒・藍・暗藍・昭和・赤・淡
寸法 200 mm. 角・厚 14 mm
割付（九ツ目、三十六目）
外ナシの二種

高壓特殊加工強靭製品

野澤波形スレート

國會本館其他各官廳に最適

野澤大平板

石綿セメント製
3尺×6尺 厚1 1/2分より
天井、壁、下見張用

此マーク!!
此品質!!

Pioneer

スレート下張にパイオニア フエルト
特選 No. 8 No. 2 No. 3
パイオニア ルーフイング
1/2, 1, 2, 3 Ply

船渠セロテックスに優る
國產防濕板
防熱・防寒・防濕・防露・防音

アルテックス

厚さ 二分・三分・四分
寸法 三尺×六尺
其他御註文に依り製作

元賣發

六甲スレート、六甲タイル、野澤大平板
日本石綿盤、野澤波形スレート 製造元

大正一年
設立

日本石綿盤製造株式會社

本社 神戸市神戸區北長狹通三丁目
電話 垂合四五〇一
工場 神戸市外本山村
電話 御影二七三番

創業 明治卅年

野澤幸三郎商店

神戸市神戸區北長狹通三丁目
電話 垂合 二六三〇・二六三一・四五〇一
大阪市北區堺筋 大江ビル
電話 北三四六・五九九九番
東京市九ノ内二丁目昭和ビル
電話 九ノ内二六七〇・二六六七
門司市港町通十番地
電話門司 五二八・九三六九
振替貯金口座大阪二八一・東京八五五
神戸本店受電略號「コウベノブク」

日本石綿盤販賣株式會社

建築と社會第17輯第3號　廣告索引

ア　阿部鐵工所……40
　　旭硝子株式會社……35
　　淺野スレート株式會社……18
　　淺海商店……22
イ　岩元商會建材部……22
エ　榮進社……17
　　英進商會建材部……26
オ　大阪窯業セメント株式會社……表紙 3
　　大阪伊丹商店……14
　　大野製作所……表紙 2
　　奥村重兵衛商店……19
　　押谷商店……26
カ　關城化學工業株式會社……表紙 4
　　關西ペイント株式會社……8
キ　木下謹三商店……14
　　桐田商會……25
　　協和商會……28
ク　黒川化學工業所……12
　　久保商店……36
ケ　建盛商會……10
　　輕量建材合資會社……20
サ　三稜社……31
　　三共株式會社……7
　　佐渡島商店……34
シ　島貿易株式會社建材部……37
ス　須賀商會……29
セ　政正合資會社……32
タ　田中商會合資會社……13
　　田中昌司商店……38
　　田村商會……39
ダ　ダンロップ護謨株式會社……中挿
チ　チヨーホー商會……32
ト　東洋リノリユーウム株式會社……33
　　東洋陶器株式會社大阪出張所……30
　　東京電氣株式會社……3・5
ナ　内外土木建築材料合資會社……27
　　南滿鑛業株式會社……20
ニ　日本ペイント株式會社……23
　　日本建築紙工株式會社……31
　　西原衛生工業所……6
　　西孫南店建築金物部……21
　　日本金具株式會社……中挿
ノ　野澤幸三郎商店……41
ハ　汎建製作所……36
ヒ　平松釣戸車製作所……10
フ　福島合名會社……4
マ　マルエス工業株式會社……11
ミ　ミナト製作所……12
　　三井物產株式會社……15
ヤ　矢橋大理石商店……16
　　大和護謨製作所……9
　　ヤマト商會……28
　　山本東作商店……38
ヨ　横河橋梁製作所……24
　　米本榮商店……16
レ　玲光社(木内眞太郎)……4